

静岡県委託事業「平成 24 年度大学間の連携による共同公開講座開催業務」

# 平成 24 年度 共同公開講座報告書

平成 25 年 3 月

大学ネットワーク静岡

## 目次

1.	休眠知識発掘ワークショップ	1
2.	第1回「静岡2.0」フォーラム 復興力のある静岡を目指して～地域のレジリエンスを高める～	23
3.	チャイナ+ワンのワンはどこか？ 県内企業とアジア人留学生のマッチングを目指して	71
4.	今学ぶ 関口隆吉の国づくり	83
5.	近代を開いた男 江川坦庵リレー講話	103
6.	親子で学ぶ「富士山の不思議と魅力」 ～富士山の噴火からヒメボタルまで～	125

本報告書は、静岡県委託事業「平成24年度大学間の連携による共同公開講座開催業務」を受けて、大学ネットワーク静岡が開催した「共同公開講座」6講座の記録を取りまとめたものです。

## 目次

1.	休眠知識発掘ワークショップ	1
2.	第1回「静岡2.0」フォーラム 復興力のある静岡を目指して～地域のレジリエンスを高める～	23
3.	チャイナ+ワンのワンはどこか？ 県内企業とアジア人留学生のマッチングを目指して	71
4.	今学ぶ 関口隆吉の国づくり	83
5.	近代を開いた男 江川坦庵リレー講話	103
6.	親子で学ぶ「富士山の不思議と魅力」 ～富士山の噴火からヒメボタルまで～	125

本報告書は、静岡県委託事業「平成24年度大学間の連携による共同公開講座開催業務」を受けて、大学ネットワーク静岡が開催した「共同公開講座」6講座の記録を取りまとめたものです。

# 休眠知識発掘ワークショップ



## 実施事業の概要

- 1 共同公開講座の名称：  
大学ネットワーク静岡共同公開講座「休眠知識発掘ワークショップ」
- 2 開催日時：  
1日目：平成24年12月18日（火）19:00～21:00  
2日目：平成25年1月15日（火）19:00～21:00  
3日目：平成25年2月19日（火）19:00～21:00
- 3 開催場所：  
1日目：静岡市産学交流センターB-Nest 7階大会議室  
2日目：静岡市産学交流センターB-Nest 6階プレゼンルーム  
3日目：静岡市産学交流センターB-Nest 7階大会議室  
（静岡市葵区御幸町3-21）
- 4 事業の概要と成果：
  - (1) 概要  
企業内に眠る知識・技術・アイデアを発表し、参加者で意見を交わすことにより、新しい可能性や新しい価値を生み出すことを目指すワークショップを開催する。
  - (2) 参加者  
企業関係者、行政関係者、学生など計96名
  - (3) プログラム  
<1日目>
    - ・趣旨説明「あなたが主役のコラボレーション」  
宮崎 晋生（静岡県立大学国際関係学部講師）
    - ・事例発表「商店街活性化を考える：浅間通り商店街を例に」  
小川 大造（榊冠婚葬祭こころの会取締役）<2日目>
    - ・事例発表「湖沼・池のアオコ抑制と環境水質改善事業～排水浄化から環境水質改善へ水処理のイノベーションに挑戦～」  
八木 敏郎（日中環境経済センター）
    - ・ゲストコメンテーター：舘岡康雄（静岡大学大学院工学研究科教授）<3日目>
    - ・事例発表「科学系ベンチャーが取り組むアンチエイジングサプリメント」  
吉武 亨将（株式会社ラジカルラボ 取締役主任研究員）

【企画・運営】静岡県立大学国際関係学部宮崎晋生研究室

## 【第1回】

### 1. 当ワークショップの趣旨説明「あなたが主役のコラボレーション」

静岡県立大学国際関係学部講師 宮崎晋生

#### ●問題意識 なぜこのワークショップを開いたか

- 1) バブル崩壊後の失った20年:ものづくり偏重の衰退と産業構造の変化
- 2) クローズドからオープン:「自前主義」の限界、知識の分散と数々の組み合わせ可能性模索
- 3) 失敗や発見からどのようなものが生み出されるか: (成功の陰の) 埋もれた知識を披露する場を

#### ●今回のワークショップの狙い=コラボレーションの導火線

失敗してもよい:潰れてしまった企画を掘り起こす

あと一歩、上司からのだめだし、周りに技術がない→負のエネルギーを別の場で発散させてみよう

#### ●コラボレーションの重要性



日本の研究開発の GDP 比は世界で5位、しかし...

「死の谷」=商品化されても収益にならない

NIH 症候群=(「名門」ほど) 補完的技術・知識は他社・他国にあるけどウチ(または過去の取引先や系列)には無いからやらないと考える癖  
各企業による発表求む→

コラボレーション事業の誕生 自分の属する「世間」から少しはみ出よう

図左側の Research Project/ idea (○)の中には、製品化されずに終わる○がいくつも存在している。これを会社の外に出すか、または他の会社の資源や技術を取り込んで新製品にするか、という現象が今注目されている (H. Chesbrough)。

## 2. 「商店街活性化を考える：浅間通り商店街を例に」

発表者： 静岡こころの会取締役 小川 大造氏

(司会進行：宮崎 晋生)

### ★問題意識

商店街が「シャッター街」化：静岡県内だけではなく、全国どこでも商店街の衰退が言われている。  
何とか元気になってもらう方法はないのか？

### ★現状における問題解決策：

- ・ 個店主側も行政をはじめとする外部もただ有効な方策がなかなか見つからない
- ・ マーケティング戦略論のワナ：戦術論無き精緻な戦略論

緻密な分析を行い壮大なスケールの企画書があっても、どういう武器でどう戦うかの戦術論 (tactics) が不在ではないか？

→でも出てくる戦術は「きれいな広告媒体」「きれいな装飾物」「素晴らしいキャッチコピー」で終わってしまい現場は「？」を繰り返し疲弊

### ★商店街のお客様を個店のファンにする戦術例

主に〇〇祭りのようなイベントに来るのが目的のお客様

→この種のお客様は〇〇祭りの記念品や屋台外食の購買が中心。このお客様は、遠方よりきた方への感謝表明以外は、放置。

- ・ 〇〇祭りにも来るが普段も商店街に來れそうな近場に住んでいるお客様

→この人のさらに高齢者層が一番のターゲット

①商店街紹介の入口ともなる「飲食店」＝それ単独の紹介媒体を制作。飲食だけに絞らむ思いっきりの良さがポイント。〇〇祭りから2週間～1ヶ月間ぐらい有効な飲食割引チケットも。

②雑貨屋や各種サービス店は「〇〇祭り」協賛品を店頭にはリコメンドPOPを配置し文言にはセンスと統一性。

③高齢者にもものすごくやさしい—という点は出来る限り強調

・ ターゲットが求めるものは話し相手 (自分が自慢したり共感したい、愚痴を聞いて欲しい)、1人暮らしや夫婦だけの暮らしに彩りを添えるもの。

- ・ 多少は孫や子供との会話についていける簡単なアップデート情報

### ★失敗例

- ・ 「萌えキャラ」

商店街共通のスペース維持費やその販促費等を商店街が自力で集めていく必要性→インパクトのある

## 企画

浅間神社におけるキャラクター化の提案：青島文化教材社「痛車シリーズ」の萌えキャラを参考。

→神社が反対してボツに

- ・ボランティアステーションとしての「商店街」

「秩父市のみやのかわ商店街」での取組をヒントに「浅間通り商店街」を利用してどう地域コミュニティを構築していくか：

- ・援助を必要としている方がチケット購入→援助を必要としている方が事務局に連絡し、援助隊派遣の予約

- ・援助隊は、指定された日時に依頼主を訪問、散歩や買い物同伴などの外出支援、庭の手入れや清掃などの家事援助、買い物代行などを行う。

- ・援助隊は、ボランティア時間をポイントとして貯金、共通商品券と交換可能

→NPO 法人化困難でペンディング

### ★「駿府安倍の市実行委員会」

「軽トラ市」として開催。

他、大学生や地場産業者の出店、業者出店も「実行委員会」が調整しパッケージ供給。

チラシ等の宣伝物も共通化することで他商店街への波及拡大を行う

→最終目標は 2015 年家康顕彰 400 年祭に「それなりの規模感」で安倍の市が定期開催されていること。

### ★最後に

「そこに行けば買物だけではなくコミュニケーションもはかれる」商店街は必要

商店街の個店主たちもいろいろと知恵を絞り、何度も新しいことにトライし色々な壁にぶつかり、次第にあきらめてしまった方々が多い。

でも商店街の個店主たちも再度「本当にこの品揃えや接客方法でよいのか？」と省みる必要があるのも事実。

### ◎質疑応答

Q:商店街のポップ作成を学生にお願いするなど学生の良さを引き出そうとする考えをもっている社会人がいることを知って嬉しい。

でもどうしたら若い人が商店街に来るのか？

Q:草薙の例：県大学生が企画する食べ歩き、おまちバル

店主と学生のコミュニケーションを取ることが楽しい。学生と商店街店主のコラボは？

Q:周囲からみると、商店街の復興は大して興味がない。昭和20〜30年代生まれの人から見ると年上の人がかっこいい兄貴にみえた。今その若い人が店をやっていない。若い人が年上の人をみてお店をやっていた。年上から大人を学ぶ。鶏と卵の関係で若い人がお店をつくっていく。こういう感覚が今はない。

Q:遠方から来る人対象のイベントをするのはとっても大変。話題にはなるのだろうか？

A:商店街の集客につながるかは疑問。来年度のイベントに集まる人数でわかること。

Q:商店街で買い物をしない代わりにネットで買い物をする影響は大きい。若い人が商店街に来ないのはそれが理由では？

A:リアルとバーチャルの差が大きい。来てくれた人をキャッチするのは大切。Twitterは拡散力にはなるが、集客を集める手段には信用できない。リツイートされるだけ。

Q:富士宮の商店街で店を持つが2、3年店をやっていない老人はうつになる人が多い。出歩くと気分転換になり、うつ防止になる。何か一つ突破口になると自分の知識が活かせるが、今の商店街にはその突破口がない。資金支援があるからといっても、空き店舗を利用しない。若い人が継ぐような店が今の商店街にない。

◎コメント：

・年寄りには郊外を歩きたい。イオンよりも商店街がいい。だが面白い店がない。商店街にいたいと思わない。

・インターネットにリアルな店がないから不安に思う人もいる。土地の値段が安いと商店街の店舗を使う人もいる。

・注意→関心→欲求 まずはいかに商店街に注意を引くか商店街のストーリーをつくる。その街の歴史、もしくは架空の話をつくる。

・歴史で人はつれるのか？特産物、お菓子、食べ物と歴史を絡める。

・空き店舗を利用する方法はあるのか？車社会が壁、デメリットが時代の流れで多くなってきた。

・税金/コストを考えて安くできれば。とにかく商店街のシャッターを開けさせる。大学のサークルでもいい。

・なぜ商店街のシャッターが開かないのかは、店舗と住まいが一体化しているという理由もある。

だが、もし商店街の空き店舗を利用することができれば人の輪が広がり、自分にできないことが人にはできることがわかる。

・一個店主＝一国一城の主、という考えが強すぎる。連携して何かをつくる・するという思考がないことが原因。

・人口減少と商店街店舗現象の関連は？→老人はあと20年ほどで消えていく。老人にフォーカスを

当てるのは最終的にどうになってしまうのか？

・様々な前提条件が必要：人口が少ないところにある商店街は見込みなし。人口が多いことが必要。  
実際イオンなど大きな店舗が増えてきている。

・商店街は、ここに行けばこれがある、なんとかなるという解決策を提供してくれるのか？

・他の先進国の商店街はどうなっているの？アメリカではウォルマートなど郊外型ショッピングセンター集中出店で全滅。車社会のため。商店街には浮浪者がうろつき危険な場所になっている。ヨーロッパでは行政がイニシアティブをとって保護している。様々な人が協力してなんとか旧市街地を守っている。他国と比べ日本は踏みとどまっている。

・個々の店が元気だったら商店街の問題は80%解決する。

・ほんとに困っている人がいない（明日生きていけない！）から解決しないのでは？商店街の店主が自分たちでなんとかしようと思うことが大切。

## 【第2回】

「湖沼・池のアオコ抑制と環境水質改善事業～排水浄化から環境水質改善へ水処理のイノベーションに挑戦～」

発表：日中環境経済センター 八木敏郎氏

ゲストコメンテーター：静岡大学大学院工学研究科 舘岡康雄教授

### ●水問題から見えてくる世界...

病気の80%が汚水原因、12億人が汚れた水を飲んでいる。

直接的には、コレラ、腸チフス、赤痢、下痢症など

蚊の媒介による間接感染により、マラリア、デング熱、黄熱病、最近、予防接種が再開した日本脳炎も。

発展途上国では汚れた水が原因で、

平均19.2秒に1人、1日4500人の子供が死亡している。

### ●環境水＝公共用水域（河川、湖沼、海域等）や、住宅・会社・農業用の溜池等の水への注目を！

佐鳴湖 水質ワースト1位～2位（※近年は改善）

アオコの発生条件：水温18℃以上 5月6月9月終わりに発生しやすい

金魚が朝死ぬのはなぜか：昼に光合成したあと、水中にため込んだ酸素を夜に藻類が消費してしまうから

これまで日本における水質浄化対策は、水質汚濁防止法に基づき工場等の廃水処理主体：これにより河川や湖沼・池等の環境水質は、規制数値クリアし格段の改善。

↓

しかし、自然系や農業系による水質汚濁負荷は、環境水の富栄養化が原因：アオコの異常増殖

世界各国においてもアオコによる環境水の利用障害が問題となっており、対応に苦慮

例) 中国：急速な発展・都市化による環境水汚染→しかし高価な設備導入を行ってもメンテナンスや運用がなされず、無駄

### ●メンテナンスや難しい運用の無い水質改善を！

リンを環境水中において変化させることで、アオコがリンを体内に取り込みづらい状況を作り出し、

アオコの発生を抑制させる技術を開発：自然の浄化機能を支援

300検体・1000項目を超えるラボ実験

ビオトープの池、ゴルフ場の池、鯉の池におけるフィールドテスト

水溶性リンの90%以上が難溶性リン（汙紙などでとれてしまうリン）に変化：静大と共同研究

●処理水＝死んだ水にしないために：自然の浄化機能を引き出す

浄化水のアピールのためにホタル飼育

餌となるカワニナの育成に処理水を使ったら失敗

そこで、上流にクレソンを植えると、その発生する有機物をカワニナが食べホタルが育った

→なんでもやりすぎはよくない、水の質が重要、数字の上での「浄化」ではない。

●イニシャルのターゲット市場

ゴルフ場、ホテル、社寺、公園

国内で実績を上げ、資金を貯め海外へ

●何がイノベーションなのか...

目的：廃水（工場排水、生活排水）→環境水（湖沼・池など）にする

特徴：汚いものを取り去る「浄化」ではなく、自然の浄化機能をうまく支援する

機械メンテナンスや定期的調整が殆ど要らない、低コスト→発展途上国にも可能性

☆ゲストコメンテーター 舘岡康雄先生コメント

日産の危機-1兆円もの負債：もし1兆円あったら...1日100万円ずつ使ったら2750年でなくなる。

日産はそれだけの金額の借金を4年で返した。

じつは借金を借りた人も返した人もほとんど変わっていない。

何故か？

クロスファンクショナル（職能横断的）チームの活用

結果を重視するリザルトパラダイム→現在の活動を重視するプロセスパラダイムへの「支援学」

「伝授者」としての講師が半年間大学で講義

→キーワードを言えたのは200人中で40人、講義の流れを言えたのは5%に過ぎない

「支援者」としての講師：まなびのスタイルの変化

→手を動かし発言をすることによって1人1人が学びの主体になっていく





例) 交通渋滞

リザルト：橋を作る、道路を広くする（建設、道路敷設）

プロセス：道路と車の位置関係を考えながら渋滞解消（ITS、交通情報共有）＝動いているものを動きながら解決していく

●発表へのコメント

- ・運ばれていきながら、力をつけていくというまさしくそのプロセス
- ・文化を理解して、価値を考える＝環境水への着目
- ・お金→水、空気、食べ物の時代
- ・勝ち残れば生き残れるのか？

- ・大切なのは実はお金よりも安全な水、食べもの、空気

表面的な雑誌、マスコミ：見識を失ってしまう

・自分がまずしっかり立ちあがっていること。人のために慮っていくこと、支援していくことで自分が立ち上がる。

- ・老舗の経営からグローバルな経営へ

老舗大国日本 世界には8900の100年-200年以上続く長寿企業：1位日本、2位ドイツ

老舗は店舗・組織の拡大と人の拡大はしない

今の世界は込み合っている。中国香港日本韓国など様々な国が台頭→相互作用が発生して共存していく

この経営をうまくサイエンスして世界へ発信する

★質疑応答

Q：廃水はビジネスになるが、環境水はならない？

A：（八木）廃水は量がはっきりしている。工場に人がいるため管理がしっかりできる。

環境水は量や汚染原因が複合的・はっきりしない上、リスクが大きく企業は手をつけない。

しかし環境水のアオコが減って資源として非水溶性リンが取れる。これは単なる浄化ではなく工業資源が発生、イノベーションであると考えている。リンは堆肥として利用できる。これで栽培した植物が商品となる。これをスマートリサイクルであると考えている。

事業組合 AQUES（仮称）を設立し、静岡県、中小企業団体等の支援、静岡大学、東京工業大学の協力をもとに事業化を目指している。そこでスターティングプロジェクトで駿府公園のアオコ抑制挑戦を目指す。

Q：支援と“SHIEN”の違いは？

A：（館岡）上から下への「支援」ではない→SHIEN とは対等の立場でお互いにつながり化学反応をおこしていくこと。

Q：支援助け合いは普段自然にやっていることだと思う。お金稼ぎを目的にやっているだけでない自営業者の父がやってきた仕事が変わってきた。就活でこれから仕事を選ぼうえで参考にしていきたい。

A：（館岡）同じように大学時代にそういうことをわかっていたとしても、それぞれ2年別々の企業で働き、周りはみんな敵でも味方でも仲間でもない、競争して勝つんだという人になることがある。私が考える良い企業とは第二の家族であり、仲間であると考え。

SHIEN は共通の目的がある私企業だからできる。人と支援をしあうときは自分の弱みを出す。「してもら能力」が大事である。そこで全員が納得できる答えに到達できる「第三スペース」に行ける。

Q：自分はメンター協会にてメンタリングの視点で信頼・支援について勉強しているところである。そこには経営者が集まっており、儲かる話があるのではないかと集まっていると思っていたが、そうではないのだと感じた。理念やビジョンが大事で、それからニーズに答えることがすごく大事だと思った。

日本は恵まれた環境であるがために、日本の人たちに八木さんのこのビジネスがうまく受け入れてもらえるのか、と思う。いっそ、発展途上国に行ってしまった方がいいのではないかな。

A：（館岡）話すこと＝出すことであり、メンタリングの効果は身近な人と会話することにあるだろう。

ただ、理想論を持つ危うさ/持たない危うさのポイントはあろう。

人には天務がある。自分の特徴には妥協せず進めていくといいのではないかな。

●その他コメント

(館岡) 新聞やメディアはその見識を知らしめるべきであるのに、情報の垂れ流しに終始している。そういうものを私は読まない。

某米国の経営専門誌でも、たとえば途上国市場に関して詳細で緻密な分析がなされた論文が掲載されている。が、そこで何ができるか、どうしたいか、ということには役立たない。

分析結果から富裕層が多いから、高価商品を輸出するべきであるという判断は、どうだろうか？

相手国の人々が幸せになる進出の仕方がある。

そういう奥深い経営判断をすることを若い人は学んでほしい....。

今自分が幸せなら、それを過去と比べるのは人間らしくない。

特に若い人たちは、さらに幸せになると考えるようにシフトしていこう。

「勝ち残る」ではなく、多様な人が SHIEN しあう関係を。

(八木) 数値分析や目標値達成で満足する (お役所的) 発想ではなく、さまざまな要因がからむ関係として環境を考えていけばよいのではないか。

## 【第3回】

### 「科学系ベンチャーが取り組むアンチエイジングサプリメント事業」

発表者：株式会社ラジカルラボ 取締役主任研究員 吉武 亨将氏

●「ラジカルラボ」社の会社概要：静岡大学農学部での研究成果をベンチャー・ビジネスに  
社員は4人、資本金50万円で設立

- ・社長：元クラブオーナーから転身：人と話す、交渉が得意「人たらし」
- ・研究員

センサーの専門家：センサー作らせれば日本有数の腕。とくに植物非破壊センサーに関しては世界随一。資本金50万円のベンチャーが大企業から認められる原動力。山梨のワイン生産に深く関わっており、team kisvin を設立。ワインに合う高品質ブドウ生産に大きく貢献

吉武亨将：元熱帯魚輸入商社勤務。世界を飛び回り、新種の探索、輸出許可を取るための折衝等を担当。総合職として研究から採用担当まで幅広くこなす。独立後、フリーランスとして企業からの委託実験を中心とした業務を行う。

- ・営業担当：営業、使いつ走り。会社で一番忙しい。

●会社の目標 静岡 Vineyard ヴィンヤード（ぶどう園）構想の実現〜ぶどうへの着目

静岡の主力農業であるみかんや茶業が厳しい状況にある中、六次産業化しやすい「ぶどう」に着目：  
ワイナリー、観光農地、それに付随する新しい産業を生み出し、農業の活性化を図る

- ・目標に向けて事業は大きく三つ：①衛生管理事業、②樹液流センサー事業、③サプリメント事業
- ・まずは各々の事業で成果を出し、会社として体力が付いた時点で最終目標に取り組む

1. 樹液流センサー事業：植物の吸い上げる樹液流量を測定することにより、植物の成長の情報、もしくは食味との関係する情報の収集

→ワイン圃場にて実績&大学、研究機関から引き合い多数

2. 衛生管理部業：細菌、真菌の感染を無農薬にて解決できる液剤生成機の開発

→大手企業や病院などからの引き合い多数に

3. サプリメント事業：植物のもつ機能性材料を主に廃棄される部位から抽出し、サプリメント化して新たな産業を生み出す

→研究成果世界中で多数発表されるが伸び悩む事業

●サプリメント事業の軸：「レスベラトロール」との出会い

- ・フリーランスの頃、企業からの委託を受けて静岡大学農学部にて研究開発し製品化した、ぶどう由

来物質「レスベラトロール」

アメリカでは核テロに備えて、レスベラトロールを摂取する旨の論文が発表：放射線が体を通過するときに、細胞内で活性酸素が発生。そのときに細胞内の脂質、DNA 等から電子を奪うので、そのときに切断等がおこる。そこで前もってレスベラトロールを摂取しておく、それらに替わって酸化される（電子を奪われる）ので、結果的に細胞内の損傷が最低限に抑えられる効果がある。

・レスベラトロールとは＝ブドウに含まれる成分。フランス人はなぜあんなに高カロリーの食生活なのに長生きするのか？というフレンチパラドックスのカギでもある。

・放射性物質吸着以外の効能→摂取するとアンチエイジング効果が得られ、長命になることが実験で証明

「カロリー制限＝若さを保つ」は生き物に共通した機能。すなわち、カロリー制限を行うことで飢餓遺伝子にスイッチが入り、普段機能していない遺伝子が活性化  
体の根本から活性化し、身体総合的に健康になれる

↓

・ダイエットをしなくとも得られる、アンチエイジング効果が期待される  
・肌の老化の原因である様々なファクターを抑制し、コラーゲン産生等の活性化を促す働きが認められる

### ●レスベラトロールの製品「SWITCH!」とその限界

製品化：商品名 SWITCH!

- ・ブドウ由来で 30mg 入りは業界最大量
- ・水溶性の配糖体レスベラトロールを採用、業界初のドリンクタイプ、体内での利用効率上昇
- ・合成ではなく天然成分から抽出：数百のポリフェノールが様々な効果をもたらす

↓

高齢者ほど効果が得られる・血糖値低下・アルコールが翌日に残らない・・・etc

しかし…

- ・薬事法より効能を唱うことができない
- ・原料が高い：フランスから輸入、サンプルを分けられないのはイタイ
- ・輸入代行という形で他の会社がイタリアからイタドリ由来の違法レスベラトロールが販売されている
- ・本来イタドリは漢方薬であり薬事法に抵触：サプリメントとしての販売は禁止されているが、個人輸入の代行という形で業者が安価に販売している

### ●サプリメント事業の現状

- ・他の二つの事業がブレイクし始めていてサプリメント事業は後回しになってしまう

- ・研究する費用、時間、人員がない
- ・少量での効果効能を発揮する方法を発見したが、宣伝広告などの費用対効果を考えるとイタイ

★参加者の質疑応答

Q:価格設定は？

A: 30日で6000円（1日200円）

某大手化粧品会社の担当者曰く3万円?で売るそうである。

Q:天然物は特許がとれないというが、他はどのようにしているのか？

A: 類似物質は特許が取れるから、他の外国企業がレスベラトロールに似た物質の開発に取り組んでいる→開発成功すれば、大量生産・安価になる

Q:体への副作用・害はないのだろうか？

A: 今のところ確認されていない。ただ、摂取しすぎたネズミは死んだという研究結果があるが、どんな物質でも過剰投与は害になる。

Q: 既存のアンチエイジングとの違いは？

A: 唯一無二のものかも？でも比較は難しい。

Q:なぜ、サプリメント事業はうさんくさいの？

A: たとえば痩身を謳うサプリメントには科学的な立証がなされていないものがある。痩せるのは心理的要因が大きいので、なかなか厳密な立証は難しい。

★コメント

・科学的根拠がある物質なのだから、宣伝方法は論文のソース書くなどすればよいのでは。胡散臭いサプリメント業界の中ではそれが差別化になるのではないか？

・かなり苦いという特徴：むしろワインのテイストの向上になるのでは？

・設備の有効活用ができそう

・アルツハイマーの予防

・水溶性物質：飲用するだけでなく、ローションなどに溶かして塗り込む等によって効果を体感できるのでは。エステ需要もありそう。

・売り方の候補で苦労した点として、薬局チェーン店は直接受けあってくれず「問屋をとおしてくれ！」という反応である。

・少量でいいから、リピーターに買ってもらう、ニッチのポジションを狙うところから始めるほうがよかろう。世に広めるために、使っている病院、「押している」人を紹介してもらうのがよいのでは？

・芸能人、しかもステマで評判を落としているタレントに逆にブログで宣伝してもらおう。彼ら彼女らは「汚名返上」のために、自腹を切って真剣に評価してくれるかもしれない。こうした動きを利用して一気に知名度を上げて良い。

・もとは放射性物質除去のために開発→社会的価値の観点から考える

放射性物質で困っている福島第一原発で働いている方、影響を受けやすい子どもに提供しては？  
→国はこのことに関してかなりシビアであり、薬事法に抵触する。中には並行輸入業者では逮捕された人もいる。

・「坊主おふせ」の法則、つまり高いとその分効果があると消費者は判断するはず→6000円どころか、もっと高くすればいい

→説得材料が必要

・自前の販売網構築ではなく、どこか高く売ってくれるところと提携、製品開発の特許を取るのがよいのでは？値段設定がうまいところと組む。例えば高級レストランや割烹などで、食後の一杯にレスベラトロール入りのワインを提供するなどすれば喜んで摂取してくれるかもしれない。

・効果効能について、ストーリー性を持たして説明しては？ そのためにはもっと効果データを集める方が良いかもしれない。

・その製品を売るにあたって何を言いたいのか：言いたいこと、効能は一つでしぼる。

・会社の信頼性を取るために、著名な企業家や投資家等に株主になってもらうのは如何か？

・富裕層にしぼり込み、この事業はあくまでビジネスとして成功させたほうがいい。このサプリメント事業をキャッシュカウに育てて、Vineyard 構想のほうに資金を回すくらいの勢いがあっていい。



講座写真「休眠知識発掘ワークショップ」





## 「休眠知識ワークショップ」 IN 静岡構想

！ "#\$%&'()\*+,-./0+1,234,5678,90" #": ;<=>?@A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z [ \ ] ^ \_ ` a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z { | } ~ ¡ ¢ £ ¤ ¥ ¦ § ¨ © ª « ¬ ® ¯ ° ± ² ³ ´ µ ¶ · ¸ ¹ º » ¼ ½ ¾ ¿

### 問題意識

- ◆ 「バブル崩壊後の「失った年」」
    - ◆ 経済・社会構造の変化:空洞化と「ものづくり」偏重の危機\*  
→「意味的価値」の創造
  - ◆ クローズからオープン、集中から分散、中央から地方へ。
    - ◆ 情報技術の発展→知識の分散\*
    - ◆ 自由な知識の組み合わせ\*
  - ◆ 許容と共生:多様性、失敗、相互扶助
    - ◆ 創造性と創造性の仕組みづくり\*
    - ◆ 失敗と偶然からの発見\*
- 新しい可能性とコラボレーション:「新結合」

### ねらい

- ◆ **コラボレーションの導火線**
  - ◆ 「自前主義」からの自由
  - ◆ 失敗の許容
  - ◆ 思わぬ組み合わせによるセレンディピティ:何かを探しているときに、探しているものは別の価値あるものを見つける能力・才能\*
- ◆ **参加者**
  - ◆ 新しい技術やアイデアは出てきたが、あと一歩でアウトだったケースを抱えている人・企業\*
  - ◆ “!”?%“(”に込めたいが、自社・周囲に技術や知識がないパターンにいる人・企業\*
  - ◆ 上司にボツとされたが、どうにかして自分のアイデアや知識を活かしたい人

### 世界経済危機前後の日本経済と静岡経済の成長率

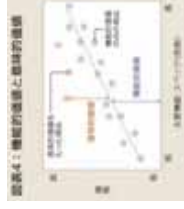
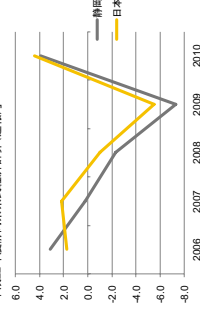
- ◆ 2006年までは全国平均以上のGDP成長率

- ◆ リーマンショック前の2007年より全国平均を下回る静岡経済の成長率

- ◆ 既存の産業構造依存からの脱却必要

- ◆ 第二次産業中心の「産業のデハバート」静岡の変革
- ◆ スベック競争から「意味的価値」の創造へ

静岡と日本の実質GDP成長率  
 静岡県(平成21年度静岡県の県長経済計算、静岡県の県長経済計算、静岡県の県長経済計算(速報))  
 出典:内閣府「国民経済計算速報」、静岡県の県長経済計算、静岡県の県長経済計算(速報)」



## 研究開発投資増加、だが!

**研究開発(-. & /への投資は0 & 1比2位の日本**

- イスラエル、フィンランド、スウェーデン、韓国に次ぐ\*
- A87B-: 足元にも及ばず\*
- ODDD年よりも**比率は上昇\***

→ -. & **投資比率は上昇するが、収益につながらない**

## CLOSED INNOVATION: 「中央」「総合」が威力をもった時代

◆ 345, 64, s: 「中央研究所」「総合」の設立ブーム

- ◆ 優秀な人材や技術囲い込み\*
- ◆ 垂直統合と内部化\*
- ◆ 「総合E」→知識や技術の内部蓄積が「強み」\*
- ◆ 「#研究 / () \* / # 「失った+, 年」
- ◆ 「死蔵」される知識・技術・失敗・死蔵知識に目をつむる組織文化の蔓延\*
- ◆ 知識や人材の社会的な分散:
- ◆ 大手企業・組織にいるとは限らない
- ◆ 中央にはない、地方の活力

## 「死の谷」を一人で越えるのは!

- ◆ (8) 99 : 9, 99, / ) 99 = 死の谷) 99
  - ◆ 評価の高い研究開発成果を蓄積
  - ◆ →商品化され企業の収益に結びつかない現象
- ◆ ? @A 99? " 9999C' B' 9' \* 99 / D' / 症候群:
  - ◆ 別の組織が発祥であることを理由に、その知識や技術・製品を採用しない、あるいは採用しなかったらならないこと\*
  - ◆ 「自前」へのこだわり
  - ◆ →既存製品やサービスの延長線上にはない知識・技術(谷)への転落

→「自前主義」の限界

## " # \$ % & ' ( ) \* + ( % & \* - . / 0 1

- ◆ **組織の壁の打破**
- ◆ 社外に資源をスピノフEライゼンシング→社外で事業化→新市場創出へ\*
- ◆ 社外資源を取り込む#H '+0 & 5# I →自社で開発・事業化\*

→社内においては**実現見込みなき休眠% ( # ) D (< 99 D" E ( \$) の活用**

「15%ルール」の3M: 失敗作と社外Bootleggingから生まれたPost-it  
Xerox-Pacの失敗したAlto→Apple Macintosh

## ○ 各企業による発表会

◆ 参加企業は3F+か月に一回、持ち回りで休眠技術「知識」を発表。

◆ プレゼンテーションの**起承転結**：%

CT 発端「当時の問題意識と経緯」\*

KJ その技術「知識」の説明\*

IJ ポツになった事情および社内外の評価\*

MJ リバイバルをどうやってしたいか？\*

◆ 参加者は発表に対してコメント・アイデアを必ず提示する。

◆ 「反省会」ではない；各メンバーのアイデアと組み合わせて新しい可能性を探る\*



## コラボレーション事業の誕生

発表会から生まれた新事業の企画・立案が一つでも出てくることが目標%

事業化に至るまでの経緯および経過の報告も定期的に「ここで行ってもらう」。



休眠知識・技術発掘ワークショップ  
参加者募集中!!

失敗は成功の母!

1つの成功の陰には、数えきれない  
くらいの失敗やお蔵入りになった  
知識・技術・アイデアがあります。  
その中には、別の場で価値を発揮  
できるものがたくさんあるはずです。

あなたが主役のコラボレーション

あなたの発表する知識やアイデア  
をきっかけとして、皆さんで創り出す  
コラボレーション。皆さんで意見を  
交わし、新しい可能性や新しい価値  
を生み出しましょう!

参加  
無料

あなたの会社に眠る「知識」・「技術」・「アイデア」を発表してみませんか?  
それらが活かせる方法や場所が見つかるかもしれません。  
様々な人とのコラボレーションから新たなきっかけを見つけられるワークショップです。

そのアイデア、  
眠らせたままでは  
もったいない。

静岡県立大学法人

静岡県立大学 国際関係学部 宮崎晋生研究室

2012年12月より 毎月第3または4火曜日 19:00~20:00

会場:「静岡市産学交流センターB-nest」または「静岡駅Parche7F会議室予定」

予定・詳細: www.facebook.com/kuniomzk

主催: 静岡県・大学ネットワーク静岡

企画・運営: 静岡県立大学国際関係学部 宮崎晋生研究室



FBページはこちら!

[お申し込み・お問合せはEmailで]  
※氏名・年齢・住所・職業をご明記下さい。

miyazaki@u-shizuoka-ken.ac.jp



第1回「静岡2.0」フォーラム  
復興力のある静岡を目指して  
～地域のレジリアンスを高める～

## 実 施 事 業 の 概 要

- 1 共同公開講座の名称：  
大学ネットワーク静岡共同公開講座「第1回「静岡2.0」フォーラム」  
復興力のある静岡を目指して～地域のレジリアンスを高める～
- 2 開催日時：  
1日目：平成25年1月26日(土)13:00～16:00  
2日目：平成25年2月3日(日)13:00～17:00
- 3 開催場所：  
1日目：静岡商工会議所静岡事務所会館403会議室  
(静岡市葵区黒金町20番地の8)  
2日目：静岡県総合社会福祉会館シズウエル2階 ボランティアビューロー  
(静岡市葵区駿府町1-70)

### 4 事業の概要と成果：

#### (1) 概要

1日目は、基調講演「地域におけるレジリアンス」や、東北で活動した学生たちの生の声を聞き、復興とはいかに成されるのか、また、これからの静岡に何が必要なのかを話し合う。

2日目は、若者を中心に地域のつながりをつくりだしている二つの地域から実践の報告を聞き、参加者と一緒にワークショップを行う。

#### (2) 参加者

一般県民、自治体職員、地域防災関係者、学生など計122名

#### (3) プログラム

##### <1日目>

「地域におけるレジリアンス」

- ・基調講演「地域におけるレジリアンス」について  
津富 宏（静岡県立大学国際関係学部教授）
- ・東北へ行った学生によるトーク「3.11後の静岡を見る」
- ・座談会「静岡のこれから、私たちのこれから」

##### <2日目>

「まちをつくる、場をつくる、公共空間をつくる」

- ・グループワークと講演  
山ノ内 凛太郎（一般社団法人ISP代表理事）
- ・グループワークと講演  
奥 ちひろ（特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター）
- ・質問・ミニトーク

【企画・運営】静岡2.0（静岡県立大学国際関係学部津富宏研究室内）



# 静岡2.0フォーラム報告書

2013年1月26日・2月3日実施

## 内容

### 1. 静岡2.0について

- ①静岡2.0ができた理由
- ②静岡2.0が目指すもの
- ③静岡2.0の活動
- ④静岡2.0本部メンバー

### 2. フォーラムについて

#### 第1回目フォーラム

プログラム内容

アンケート集計結果

#### 第2回目フォーラム

プログラム内容

アンケート集計結果

### 3. 今、動いていること





# 1. 静岡2.0について

## ①静岡2.0ができた理由

静岡2.0は、東日本大震災からの地域の復興を気にかかけ、また静岡に愛着を持っている学生たちが、「静岡が被災した時が心配……………」。「今のうちから、何か私たちにできることがあるのではないか」という共通の思いで、集まり、始めました。また、私たちは、復興段階で生きる地域の力に着目し、そこに学生も積極的に参画していきたいと考え、地域での繋がりを広め、深めていきます。

## ②静岡2.0が目指すもの

静岡2.0には、3本の柱があります。

- ① 共生社会・包摂的社会を創るということ  
「共に生きる 共にはたらく」
- ② ①の基点として、ファシリテーションの力を借りて、公共空間を創ること  
「共に語る」
- ③ ①であることが、いざというときに、復興力（レジリアンス）を創ること  
「共に助ける」

### レジリアンス(resilience)とは

レジリアンスは英語で「しなやかな」、「弾性のある」という意味です。強い風にさらされても折れずにしなやかに立ち直る竹には、強い地下茎や潤いがあります。私たち人間にとって、それは、日常生活のなかで築いた多様な人との関係性や連帯だと、私たち「静岡2.0」は考えています。災害が起きた時に、しなやかに立ち上がり前を向けるように。「レジリアンス」はキーワードであり、希望です。



### ③静岡2. 0の活動



静岡2. 0では、いざというときに、力を合わせられたりできるように、3つの柱を土台に、人と人をつないでいきたいと考えています。既存の団体(NPO や自治体など)と協力し、新たなプラットフォームを創造していきたいと考えています。

### ④静岡2. 0本部メンバー

世話人	津富 宏	(つとみ ひろし	静岡県立大学	教授)
代表	青野 みちの	(あおの みちの	静岡県立大学	3年生)
	小嶋 穂波	(こじま ほなみ	静岡県立大学	3年生)
	田野 夏子	(たの なつこ	静岡県立大学	4年生)
	甲田 奈都美	(こうた なつみ	静岡県立大学	3年生)
	村田 優	(むらた まさる	静岡県立大学	2年生)

## 2. フォーラムについて

静岡2.0は、2013年1月26日と、2月3日に、フォーラムを行いました。静岡2.0として、はじめての活動でした。フォーラムを開催した目的は、多くの人々に静岡2.0の考え方を知ってもらうことと、仲間になってくれる人を探すことでした。両フォーラムの詳細をご紹介します。静岡県・大学ネットワーク静岡の主催のもと、静岡2.0は静岡県ボランティア協会との共催で行いました。

### 第1回目 地域におけるレジリアンス

目的：静岡県立大学教授 津富宏による概念的側面からの講演と、東北へ行った学生たちの生の声を聞き、復興とはいかに成されるのか、また、これからの静岡に何が必要なかを話し合うこと。

開催日時：2013年1月26日（土） 13:00～16:00

場所：静岡商工会議所静岡事務所会館403会議室

プログラム：

13:00 オープニング

13:05 基調講演（津富宏・静岡県立大学）

13:45 東北へ行った学生によるトーク 「3.11後の静岡を見る」

15:00 座談会「静岡のこれから、私たちのこれから」

15:50 クロージング

16:00 閉会



1	3
2	4

## 問題意識

# レジリエントなコミュニティをつくる

静岡県立大学

津 富 宏

- 東日本大震災を踏まえて、静岡にいる私たちは何ができるか。
- 精神医学・心理学における、resilience概念を、コミュニティレベルに適用してみる
- それによって、静岡のcommunityがよりよく、震災を乗り越えることを期待する

## 今日の目的

- 本研究を通じて、何を達成すべきかをより明確にすることによって、今後、何をすべきかを明らかにする
- **なぜ、そのようなことを考え始めたのか**
- Veysey (2008)
- 立ち直りとは、価値のある、新しい社会的役割(アイデンティティ)の獲得
  - 新たな役割を支えるための新たなスキルの獲得 (あるいは既存のスキルの再構成)
  - 新たな役割を強化する人々の獲得
- 強みとバネのストーリーとして自己物語を紡ぎ直すこと

## なぜ、そのようなことを考え始めたのか

- Maruna (2002)
- イギリス・リヴァプール、犯罪から離脱している犯罪者と、犯罪を継続している犯罪者を比較したうえで、離脱している犯罪者の特徴を見出す
  - 真の自己の発見
  - 自らの運命を支配できるという「楽観主義」
  - 社会(とりわけ次の世代)にお返しをしたいという気持ち

## なぜ、そのようなことを考えたのか

- 犯罪学における、個人レベル概念の、communityレベルの概念への拡張
  - 社会を「生体／生体」システムとして捉えるという社会学の発想(例えば、社会病理学)
- self-efficacy → collective efficacy (集合的有効感)への拡張
  - Community 単位
  - 地域住民相互の信頼
  - 地域住民の問題解決への予期
- Resilience → collective resilience

## レジリエンスについて

- 人生の様々な困難を乗り越える過程なし乗り越える人がもつ性質
  - Resilience refers to the process of, capacity for, or outcome of successful adaptation despite challenging or threatening circumstances. (Masten et al., 1990)
  - Essentially, resilience refers to patterns of positive adaptation or development manifested in the context of adverse experiences. (Masten et al., 1996)

## レジリエンスについて Wollin and Wolin (1993)

- 洞察力 (Insight)
  - The mental habit of asking searching questions and giving honest answers.
- 独立心 (Independence)
  - The right to safe boundaries between yourself and significant others.
- 関係性 (Relationships)
  - Developing and maintaining intimate and fulfilling ties to other people
- 主体性 (Initiative)
  - Determination to master oneself and one's environment.
- 創造性とユーモア (Creativity and Humor)
  - Safe harbors of the imagination where you can take refuge and rearrange the details of your life to your own pleasing.
- 道徳性 (Morality)
  - Knowing what is right and wrong and being willing to stand up for those beliefs.



## レジリエンスに関連した概念

- 外傷後成長 (Posttraumatic Growth: PTG) (Tedeschi and Calhoun, 2004)
- ストレスに関連した成長 (Stress-Related Growth: SRG) (Park et al., 1996)
- ベネフィット・ファインディング (Benefit-Finding: BF) (Helgeson et al., 2006)
- 苦難から生まれる愛他性 (Altruism Born of Suffering: ABS) (Staub and Vollhardt, 2008; Vollhardt, 2009; 安藤, 2010)
- 首尾一貫感覚 (Sense of coherence) (Antonovsky, 1987)

## 外傷後成長 (Post-traumatic growth) 3つの成長 (中原ほか、2012)

- 自己概念の変化
  - 弱さの自覚/サバイバーとしての自己同一性の獲得
- 対人関係の変化
  - 親密性・共感性・愛他性の増進
- 人生哲学の変化
  - 命への感謝/人生の意味の模索/大いなるもののつなかり/スピリチュアルな発達
  - ＊スピリチュアリテは、生死の関わる災害では避けることはできない

## コミュニティについての最近の議論

- 日本の伝統的共同体の特徴 (内山, 2012)
  - 自然と人間の共同体、生者と死者の共同体である
  - 重層的な多層的な構造体である
    - 一つの地域の中にさまざまな共同体が展開
  - それらの小さな共同体が「外」と結びついてきた
    - 経済活動と結びついてきた
      - たとえば、水田の水路管理

## 生態学におけるレジリエンス

- Holling (1973)
  - Resilience determines the persistence of relationships within a system and is a measure of the ability of these systems to absorb changes of state variables, driving variables, and parameter, and still persist. In this definition resilience is the property of the system and persistence or probability of extinction is the result.
- Resilience 概念は  
精神医学・心理学の独占ではない

## 生態系研究者による社会要因への着目

### Social capital

- 「協働行動を促進することにより、社会の効率性を改善しうる、信頼、規範、ネットワークなどの、社会組織の特徴」(ハットナム, 1993, p.167)
- 「個人間のつながりーそして、そのつながりから生じる、社会ネットワークと、互酬性と信頼の規範」(ハットナム, 2000, p. 19)

The Power of people: social capital's role in recovery from the 1995 Kobe earthquake (Aldrich, 2010)

- 神戸市内9区の18年(1990年～2008年)にわたるデータセット \* 震災は1995年
- 自己回帰モデル
- 従属変数: 人口成長率
- 独立変数: 被災者率、生活保護世帯率、人口当たり新設NPO数(2年ラグ)、人口密度、社会的経済的格差(1年ラグ)
- 結果: 1000人当たり3つの新設NPOがあると、人口が1.5%増加

## 神戸市長田区真野地区 (Nakagawa and Shaw, 2004)

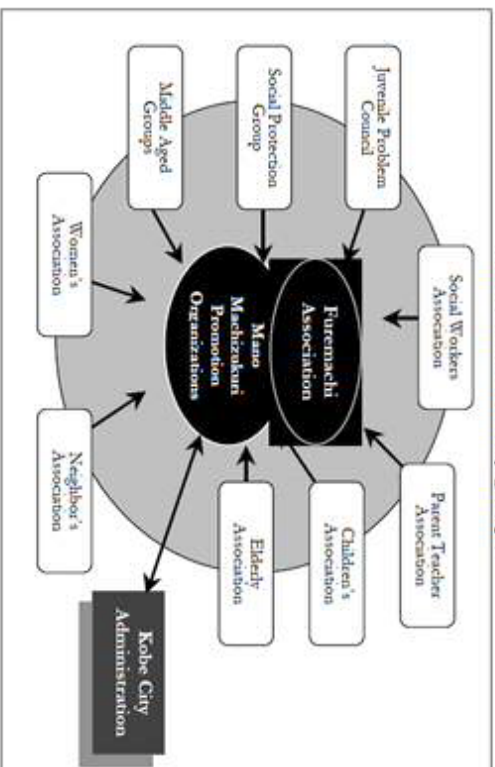
- 人口2500人 1995年時点で高齢化率20%
- 1960年代に公害運動が活発 以降、まちづくり運動に発展
- 震災時には救急活動、その後は、活発な復興活動が自主的に展開
  - 震災直後: 近隣の学校への避難、共同調理場の設置、夜間ハトロールの開始
  - 震災後: 建築検査の実施、週刊のニューズレターの発行、避難所の運営、損壊家屋の復旧
  - 復興時: 真野復興まちづくりオフィスの開設、まちづくりセンターの建設、地域開発のための企業「まのろ」の起業、共同住宅建設のための署名運動、高齢者のための特別住居建設のための議会への働きかけ、共同住宅のモデル住居の建設、住宅計画の提案、デザインセンターの運営など

## 神戸市長田区真野地区(Nakagawa and Shaw, 2004)

- 震災前に、住民同士のつながりがなく、まちづくり組織が存在しなかった、他のコミュニティでは、このような組織はまったく形成されなかった。
- 真野地区の特徴
  - 重層的で多様な住民組織の存在
  - その中核としての、真野まちづくり推進会の存在
    - まちづくり推進会のメンバーとの重複
  - 外部の組織、専門家、行政とのつながり

神戸市長田区真野地区(Nakagawa and Shaw, 2004)

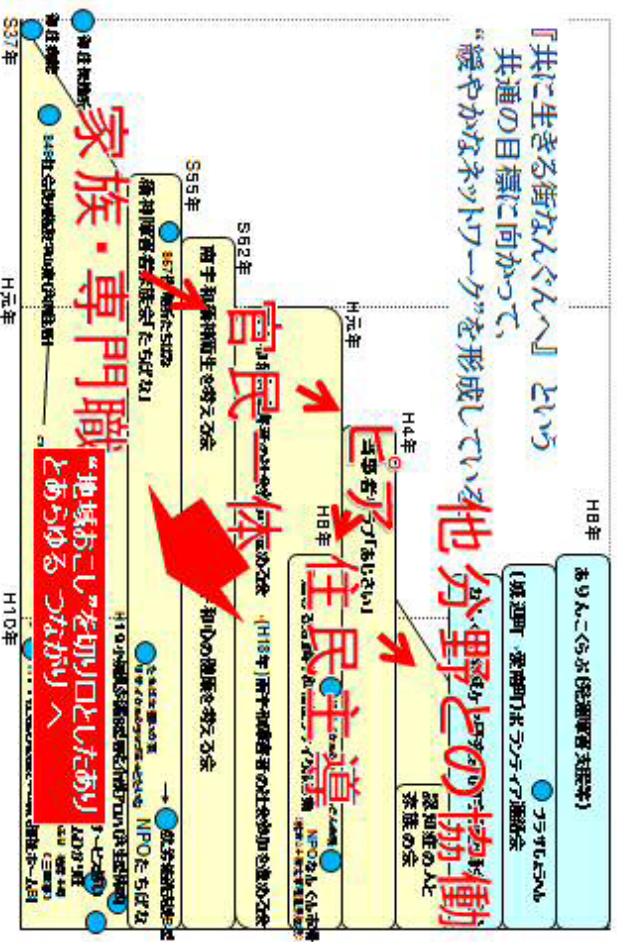
Figure 1. Mano community networks showing different community groups



## 愛媛県愛南町

- 精神障害者の地域移行支援の草分け(1974)
  - それを起点に重層的な住民福祉ネットワークが発達
- 地域課題の深刻化
  - 工場の撤退に伴う急激な人口減少: 31080人(1997年) → 25737人(2010年)
  - もはや、ボランティアではない
- 地域の人々、病院関係者、当事者を理事とする、地域づくりNPOが誕生
  - 温泉施設の経営
  - アボカド栽培への進出

愛南町の精神障害者福祉ネットワーク



## こうしたコミュニティでは何が起きているのか

- 重層的なつながりの形成
  - 市民活動の活発化
- 外部とのつながりの形成
- コミュニティのリカバリーストーリーの生成
  - 共同体(コミュニティ)によるエンパワメント
  - Narrative capital
  - コミュニティに対するストレンギス視点の獲得
- 個人レベルとコミュニティレベルのレジリエンスの発揮



## これから何をするか

- 理論的検討
  - 生態学における resilience 概念に、精神医学・心理学における resilience 概念は、何を付加加えうるのかを明らかにする
- 研究
  - 上記の視点を加えた、community resilience index の提案
- 実践
  - 「静岡2.0」：多世代を対象にしたワークショップを県内各地で展開。その理念を説明した小冊子の作成。

## Uphoff (2000)による概念的発展

- Structural social capital
  - associated with various forms of social organization, particularly roles, rules, precedents and procedures as well as a wide variety of networks that contribute to cooperation, and specifically to mutually beneficial collective action (MBCA), which is the stream of benefits that results from social capital.
- Cognitive social capital
  - derives from mental processes and resulting ideas, reinforced by culture and ideology, specifically norms, values, attitudes, and beliefs that contribute cooperative behavior and MBCA.

## Community resilience indexをつくる Harris et al. (2007)

- 因子分析で、四つの項目を抽出
  - Social organization; Civic leadership; Economic structure; Physical amenities
- Social organization
  - Community cohesion .80
  - Extent to which people are supportive of one another .74
  - Extent to which people are committed to the community .74
  - Extent to which people work together to get things done .70
  - Extent to which people identify with community .64

## Community resilience indexをつくる

Harris et al. (2007)

- Civic leadership
  - How flexible and creative community leaders are .84
  - Consistency of opinions and values of community leaders with your own .83
  - Extent of competence of community government .80
  - Level of trust in community government .79
  - Extent to which government's positions reflect those of community .79
  - How visionary community leaders are .79
  - Government effectiveness .73
  - Community leadership .68
  - Contribution of elected officials to leadership .62

# 三重県「美しく国おこし・三重」

- 地域課題の掘り起しをする座談会
  - パートナーグループとして登録
- 登録団体に対しては、様々な支援
  - 専門家派遣：地域づくり専門家によるアドバイス
  - ネットワーク化支援：他団体との連携
  - 広報・誘客支援
  - 財政的支援
- 600を超える団体が登録
- 手引き
  - [http://www.pref.mie.lg.jp/UMASHI/HP/zadankai/h24\\_hanndobukku.pdf](http://www.pref.mie.lg.jp/UMASHI/HP/zadankai/h24_hanndobukku.pdf)

## 秋田県「若者会議」

- 秋田県南NPOセンターが受託
- 地域の若者（中高生から40代まで）が集まる（集める）
- 目的：自ら社会参加をすることで、ふるさとの良さを見つけ、暮らしてやすく希望や夢を地域への第一歩とすること
- 若手ファシリテーターが、計4回のワークショップ進行
  - 地域の理想を議論：「若者にとって住んで楽しい地域」を考える
  - 地域課題を把握：若者を呼び寄る「地域の現状と課題を探ろう」ということで地域の現状の再確認、共有。
  - プロジェクト立案：地域の現状、課題を軸に理想の地域に近づけるための解決策を検討して具体的な行動項目を定め、実践計画を立てる
- <プロジェクト実施>
  - 振り返り：最後には振り返りを行い、これからすべきことを考えるワークショップを行った。
- 形成された若者集団が、持続的に地域を担うことを狙いとする



大分県ネットワーキング事務局の協賛

**第1回「静岡2.0」ワークショップ**  
復興力のある静岡を目指して  
～地域のレジリエンスを高める～

【開催】2019年1月26日(土) 9時 静岡県工芸館  
【申し込み】2019年2月3日(日) 18時 静岡市役所1階

参加費 無料

お問い合わせ先  
from shizuoka2.0@gmail.com

主催 株式会社 静岡2.0

協賛 大分県ネットワーキング事務局

お問い合わせ先  
from shizuoka2.0@gmail.com

主催 株式会社 静岡2.0

## ■学生のトーク内容

### 座談会（60分）

10グループに分かれて、出されたお題について模造紙やポストイットを使ってみんなで話し合いました。

1つ目の問い『復興力のある地域（レジリエントな地域）ってどんな地域？』

2つ目の問い『そんな地域をつくるために、自分（たち）は何ができる？』

模造紙を使って、こんなふうに意見をまとめていきました。



①ポストイットに自分の意見を書きだします。



②同じグループの人に、書いたものを発表します。



③似ている意見をまとめて、グループに分けます。



④発表

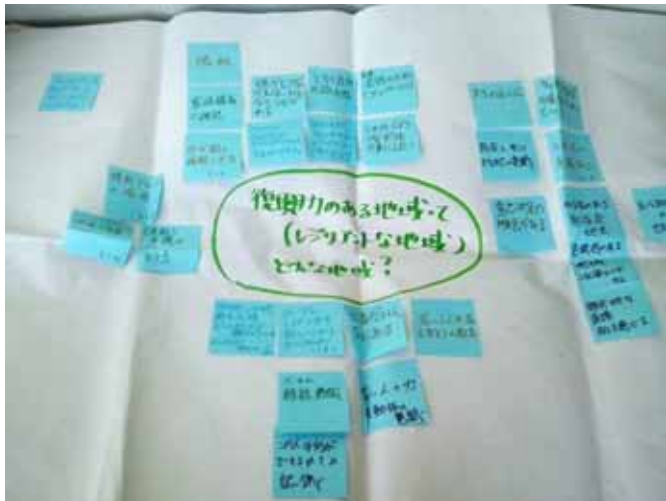






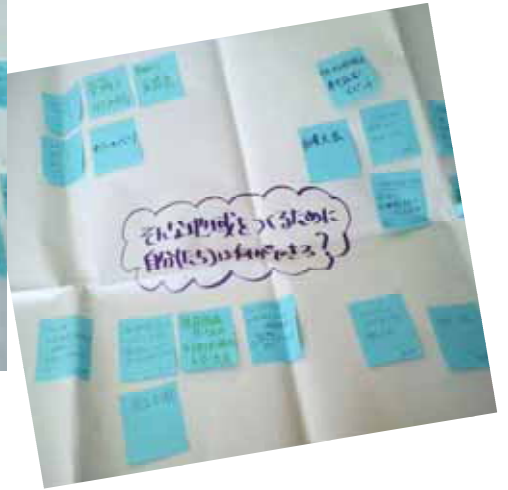
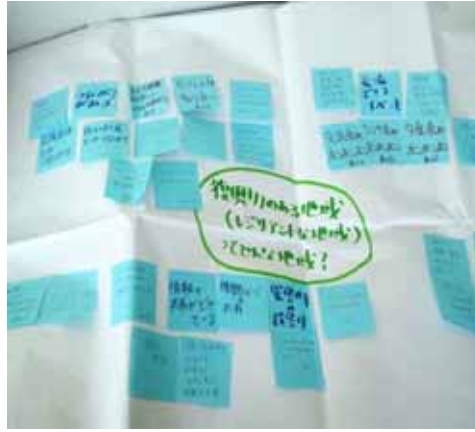
- 積極性がある
- 自分にやれることを見つける力
- 諦めない
- 自分の仕事を見つける
- 複数のリーダー
- リーダー的存在がいること
- 楽しむ心
- 主となる人が主である組長・班長
- 生きる知恵（自由な発想）
- 他者への思いやり（情緒）
- ルールが明確化されている
- 「助けてくれ！」と応援を求められる
- 受援力
- 地域の食べ物や文化を知っておき、それをアピールできる
- 地域のことを知っておく
- 情報共有がしっかりしている（回覧板など）
- 情報の共有
- 事前にネットワークがある
- 普段からつながりや交流がある
- ボランティアに来た人の準備ができています
- 隣の市町村とつながりがある
- 周りとの協力性
- お世話やきの人たち
- 年代・世代を超えてのつながり
- 交流の場（子ども会、お祭り、近隣の学校 など）
- 酒
- 祭
- 多様性がある
- 多様な人の存在
- 開かれた話せる場がある
- あいさつが日常的にできる

- 他人にコミットする。そして、つながる
- 聞く
- 「困った」を探す
- 場を楽しそうな感じにつくる
- 学びと体験
- つながったものをつなげる情報発信
- 子ども会をつくる
- 防災の面から、組長などがあるかないかはっきりさせる
- 「学校＝近隣」の“＝”のかけ橋をつくる
- 学校や近隣、町内会のイベントに参加する
- 学校や家、近隣も参加する防災訓練
- 自分の地域を探索する（何がどこにあるのか）
- 忘れない
- つながる
- 育てる
- 共有・共通の体験
- 被災地を学ぶ
- まず参加する
- 一緒に共感
- 気持ちが大事
- 地域での活動を知る
- 地域の行事に参加し、顔を覚えたり、話したりする
- 周りに頼らず、自分も何か行動する
- 自分に何ができるのかを知っておく
- 自分は何が得意か、何ができるのかを知っておき、いろいろなことに挑戦する



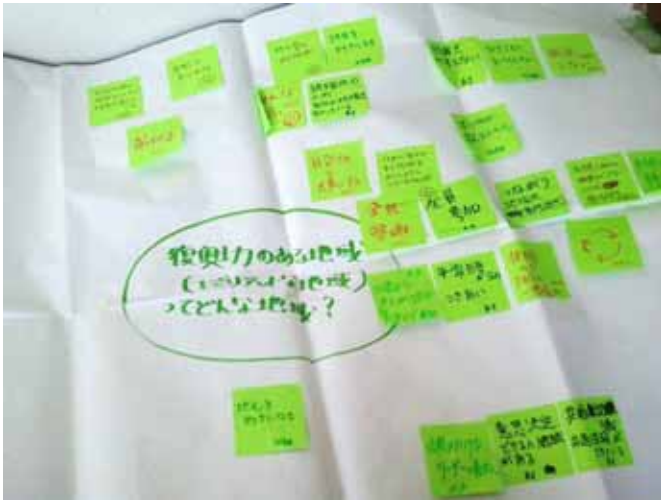
- ・危機感のある地域（沿岸エリアなど）
- ・被災地を直接肌で感じる
- ・若い人（中高生・大学生）の教育
- ・出番がみんなにある
- ・若い人の力（共同体の意識）
- ・人々の時議・特徴
- ・この人は何が出来るのか？の認識
- ・ロープの縛り方を教えてくれるおじさんがいる
- ・何か起こったときに、困ったときにどこに行けば（聞けば）いいかみんなが知っている
- ・「おら知らねえ」の改善
- ・やる気のある自治会の地区
- ・意思決定の機会がある
- ・自治会の意識向上
- ・防災と共に防犯の意識
- ・まちの主人公
- ・多様性が確保されている
- ・日常会話の大切さ（コミュニケーション）
- ・趣味でのつながりを大事にしたい
- ・誰もが話しかけることができる（答えることができる）
- ・隣近所の方々と会話
- ・誰かがつながればみんなとつながれる
- ・隣のおじいちゃんおばあちゃんと話ができる
- ・隣組
- ・家族構成の確認
- ・世代間の情報の共有
- ・連携（連絡）の取り方
- ・現存グループの活用
- ・地域小規模グループの連携
- ・facebook で友人の「今」を伝え合うことができる

- ・子ども会の役員
- ・商店・商店街の活用
- ・近所付き合い
- ・声かけあいさつ
- ・開放的である
- ・困ったときにどこへ行けば良いかみんなで考える
- ・「困った！」と言う
- ・普段から facebook を使って近況を報告する
- ・みんなで話し合う機会をつくる
- ・情報発信（情報共有）
- ・今回のようなセミナー参加の呼びかけ
- ・レクの充実
- ・自分は何が得意か、何が出来るかをアピールする
- ・定期的に講習会を開催する
- ・まず率先し、それに多くの仲間と協力者がいる
- ・役割を振り分けて活動する
- ・得意分野の人たちでグループの構成
- ・各分野間の連携
- ・リーダー（核）を決めて動く
- ・批判意識は×
- ・地域活動への参加
- ・消防団活動
- ・青年団の結成
- ・損得を考えない
- ・仕事とは異なる集団に属す
- ・「人はありのままですてきな存在」としてみる
- ・（知らない人に）facebook の使い方を教えてあげる
- ・ソーシャルキャピタルをつくる



- 必要な機器・資金を得る手段を持っている
- 三重県「美し国おこし」プロジェクト
- ボラセンの立つ場所をみんなが知っている
- 地域における自分の役割がわかっている
- 災害時の役割
- 災害が起きた時、住民ひとりひとりの役割分担ができています
- 復興イメージの共有
- 情報の共有ができています
- さまざまな立場の人たちが日頃から交流し合って情報を共有
- 情報発信
- どこに行けば何をもらえるのか情報を持っている
- サバイバル力（何があっても工夫して生きていく知恵と力）がある
- ひとりひとりが生活力をもっている地域
- 交流できるイベント
- 日頃から減災活動に取り組んでいる
- 山間部と都市部の交流イベント
- それぞれの得意分野（専門分野）をわかりあってそれを具現化できる
- 夕食会がボンボンボン
- ランチ会がボンボンボン
- 交流会がボンボンボン
- 他人のことを思いやる心と協働する意志を持っている
- まとめる力（リーダーシップ）と協力する力（フォロワーシップ）を誰もが持っている
- 近隣の人が知り合い
- 近所の人をよく知っている
- 「しまった！終電逃した…。そうだ、〇〇さん宅に泊まる」
- 地域同士につながりがある
- フレキシブルな考え方がある
- 人と人とつながっている（世代問わず）
- つながりがある
- 他の地域とのつながり
- 相手を否定しないことが共通認識としてある
- 支援団体とのつながり

- 特技をもつ
- サバイバルのノウハウ本を読んで実践してみる
- USTREAM で地域イベントの情報発信、いろんな活動に挑戦している人の紹介
- 既存団体サークルのひとまとめ冊子+大交流会
- 他の地域の人とのつながりを作る（顔見知りになり、顔の見える関係をつくる）
- 図上訓練
- 災害が起きた時、自分がまず最初にやらなくてはならないことと2番目にやらなくてはいけないことを考えておく
- 自分が地域にとって何ができるのかを判断する（2つ以上）
- 市や県、社会福祉協議会の情報を日頃から得るようにする
- 自慢大会
- 他の地域を巻き込むイベント
- いろんなことに興味をもって参加してみる
- 山間部地域でのイベントのお手伝い
- 休耕地を使ってみんなで野菜をつくる → 秋に収穫イベント
- 生活力向上イベント（火起こし、限定食材でチームごとに料理をつくる）
- 草薙の祭りに参加
- 美し国おこし座談会
- おしゃべり
- 草薙で何かする
- 日頃から近所の人たちと交流をもつ
- 近所の人とのあいさつ、おしゃべり+近所の人とのつながりを深める

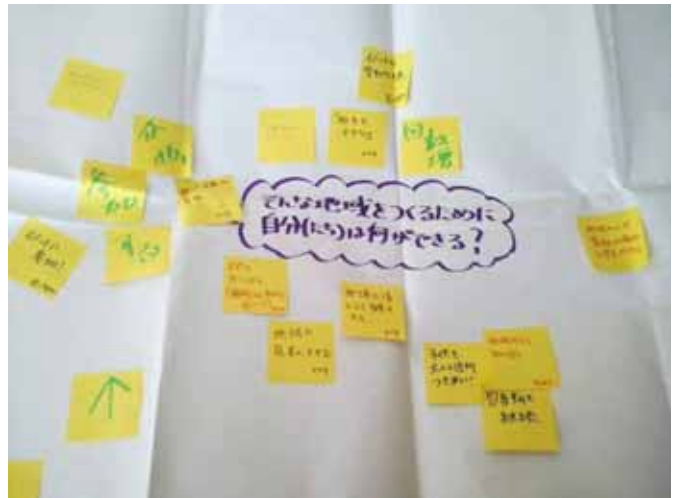


- 共通認識・共通理解ができている
- 意思決定できる人・組織がある
- 信頼がおけるリーダーの養成
- 地元を好きになる
- 日頃から声を掛け合う ex)「おはよう」運動
- 平常時からの付き合い
- 非日常への対応力=想像力
- 孤立させない
- 引きこもりを減らしたい
- 弱者を見過ごさない
- 常に何か考えていたい
- つながり (地域内・年代)
- 各手段を通して「絆づくり」をする
- 多様 (世代や職業など) な人々が参加する
- 全員参加
- 全員参画
- 住民が自分の手で地域をよくしようとしている地域
- 自発性を大事にする
- 地元愛がある
- 地元を好きになる
- 地域内の人が自分の地域を知っている
- みんな仲良し
- 自然と共に生きる
- 前向き
- 子どもや孫の世代のことまで住民が考えている
- 公民館や集会所が憩いの場になる
- 自分に何が出来るのか、自分の役割分担を知る
- アイデア募集とその共有
- 職場や学校で考えて話し合う場をつくる
- 家族で標語をつくり、それを目立つところに貼る
- 自分の地域を良く知る
- 防災マップの作成
- 地域のいいところを探す
- 若者が地域でなんでもやりやすくする
- 地域の未来のための計画を考える
- 小規模なイベントをみんなが楽しめ、集まりやすく、定例的に行う
- 一歩を踏み出すやる気をもつ
- 若衆の寄り合いを結成
- 向う3軒、両隣など、小さい単位でつながる
- 災害時の想定をする。予想をする
- 問題意識を広げる (「自分が悪いから…」じゃなくて、みんなで考えよう)
- 地域の住民であることの自覚
- あいさつ (声を掛け合う、気にしあう)
- 町内の回覧板 (住民の方の自己紹介など)
- facebook でつながる
- 自分も人も認め合う
- 「楽しいこと」でつながる (祭りや宴会など)
- 地域の祭りへの参加
- 自治会や町内会に加入する
- 地域のイベントに参加する

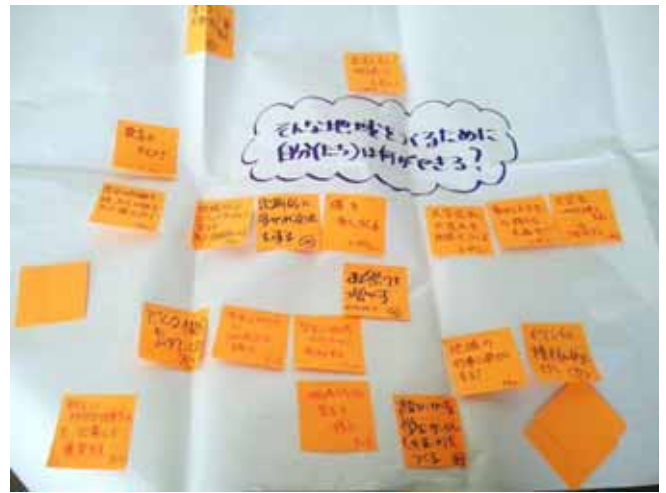
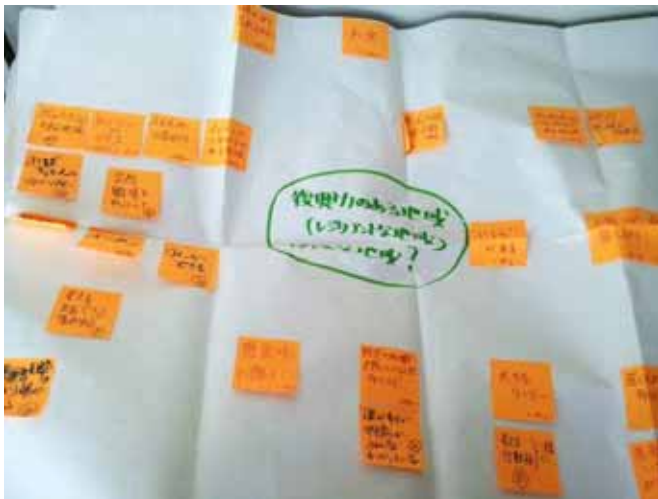




- 姉妹都市があり、機能している
- 学校と自治会が近い
- 人のつながりが必要
- 知り合いが多い
- 住んでいる人の「顔」がわかる
- 普段からお付き合いのある地域
- 近所での（自宅近く）顔見知り → イベント参加 → 役割分担 → 練習・訓練
- 顔見知りが多い、あいさつが多い、立ち話が多い
- リーダーがいる
- もっと多く非難タワーがほしい
- 地域のことについて話し合う場がある
- 情報が行きわたっている
- 情報が共有されている
- 地域の昔話を共有している
- 地域の成り立ちを知っている
- 助け合いができる
- チームワークがある
- 地域を好きな人が多い
- 近所付き合いの交流が多いまち
- こまめに地域のことで行動している人が多い地域
- 開放的である
- 「にぎやか」である
- 地域のイベントが多い地域



- 地域に参加したがない人もいる…
- 行政との兼ね合い → 個人情報重視
- 私たちの声でメディアを使って問題を訴える
- 地域の人が集まれる場所を学生がつくる
- 地域の人と知りあう
- 思春期の継続
- 子どもも大人と近所付き合い
- 地域の一員として自覚させる
- 地域の役員にさせる
- まずは外に出る（静岡 2.0 のイベントに参加）
- 環境作り
- イベントに参加
- イベントの告知の工夫
- 相手を誘う
- 行事の参加を呼び掛ける
- 地域活動への参加
- 民生委員として行動する



- ・「人」がいる
- ・タテ、ナナメのつながりがある
- ・若い人が多い
- ・老若男女いろんな人が関わっている
- ・大きなリーダー
- ・一緒に考える、行動する
- ・防災の知識を持っている人が多くいる
- ・誰が何を得意としているか、みんなわかっている
- ・想定外に強い
- ・考えを共有できる場がある
- ・日常のたまり場がある
- ・自分たちでいろいろな活動をしている地域
- ・イベントがある
- ・お祭りが盛り上がる
- ・「やる気」がある
- ・他の地域とつながる
- ・他地域とのつながりがある地域
- ・狭・広の両方単位で考えられる
- ・お金
- ・日本の中で忘れられない
- ・人と人とのつながりがある地域
- ・人と人とのつながり
- ・あいさつができる
- ・コミュニケーションのある地域
- ・学校や職場を中心にして
- ・おばちゃんのがんが強い
- ・けんかができる
- ・オープン
- ・その人をその人として認識できる

- ・大学生は地域と薄い → 薄い
- ・動ける大学生が様々な企画を
- ・大学生中心の流れを地域でつくる
- ・イベントに積極的に行く
- ・地域の行事に参加する
- ・「場」を多くつくる
- ・お祭りを増やす
- ・超ローカルな学生サークル(中・高・大)をつくる
- ・地域イベントに学生を誘う
- ・学生の地域イベントへの参加
- ・学生のイベントに社会人を誘う
- ・定期的に多世代交流をする
- ・地域の人にコミュニケーションをとる(消防団に入る)
- ・どんな機会も無駄にしない
- ・防災の知識を持った人の話をきく場をつくる
- ・新しい防災訓練ゲームを公募して運営する
- ・おもしろい地域にしたい
- ・勇気を出して考える、行動する
- ・教育の大切さ

- 何かと活発
- 「何かやる」というときに集まってくる人が多い
- 「熱い」人が多い
- 地域全体をまとめるリーダー的存在がいる
- イベントがたくさんある
- イベントやお祭りが定期的にある
- 地域の自慢ができる
- 強みのある地域
- 外部にファンがいる
- チャレンジを受け入れる柔軟性
- 集まる場がある
- 子どもたちの遊び場がある
- 井戸端会議している人が多い
- 「何もかも流されてしまったら…」と考えてみる
- 当事者意識を持つ
- 被災地のいろいろな事例を知る
- 水の確保の方法を知る
- 火をつける講習会をひらく
- 団体が結成しやすい
- 「付き合い」をこえた「つながり」
- 若い人が多く、それによって活性化する
- 協力的な人が多い
- とりの人とならあいつできる
- 信頼感
- 近隣の人が誰か分かる
- 周りに住んでいる人の顔が分かる
- 町内の活動がさかん
- 若者が元気
- おじいちゃんおばあちゃんが元気
- 近所との付き合い
- 世代を超えたコミュニケーション
- みんなが声をあげやすい
- 助けが求められる（周りに、気軽に）
- いろんなグループや団体が存在して連携している
- 知り合いが多い
- 人と人が集まる
- いろんな出入りがある。そしてつながる
- お互いの顔が見える
- 外部の人とつながりがある地域
- 行政と地域が仲よし
- 2.0 を広げる
- 移動できる手段が多い
- 公衆トイレがきれい
- 落書きが無い



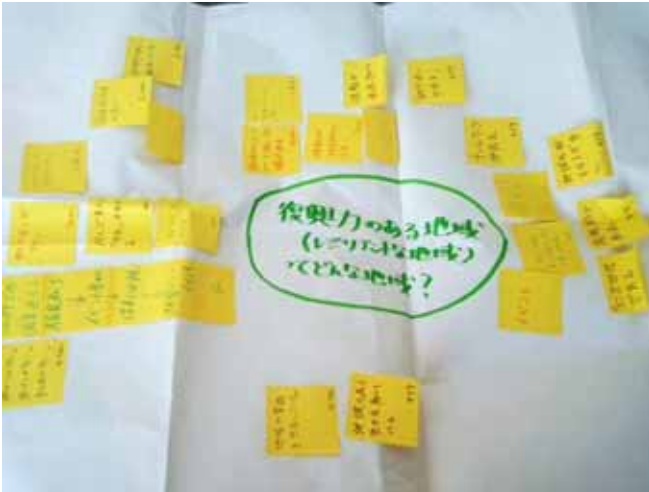
- 交通網の発達
- 地域の歴史や地名の由来・昔話などを調べる
- 避難路を知る
- 自分の地域を歩いてみる
- 高齢者が多い地域を知る
- 人と話すことができ、「この人ってどんな人かな」って胸おどって聞く
- 近所の人たちとあいさつを交わす
- 近所の人とあいさつ
- ご近所さんにあいさつ
- 友だちをたくさん増やす
- 近所の人にあいさつ
- 地域のお店で買い物をする
- 災害のことを深く知る
- 阪神淡路・中越・東日本大震災などの事例から学ぶ
- どこかに行ったらゴミを持ち帰る
- 外部（県外）との連携をはかる（姉妹都市）
- 近隣地域との連携
- 行政への市民協働
- facebook コミュニティをつくる
- インターネットネットワークづくり
- 新年会や忘年会をする
- 町内会のあつまりを開かれた場にする
- 同窓会をする
- 町内の活動に参加する
- 町内会の行事をみんなで考える
- 集まる機会を作る
- 町内でのイベントを作る
- 子どもからおじいちゃんおばあちゃんまでが参加するイベントをする
- 今すでにある自治会やNPOに参加してみる
- 地域のイベントへの参加
- 様々な集まりに参加する
- レクリエーション大会を開く
- 自分の考えが一番良いと思わない



- ・沈黙しない
- ・他者の考えを認める
- ・再編に前向き
- ・柔軟な発想
- ・地域の地形・歴史を理解する
- ・昔の話をしてくれる人がいる
- ・自分が地域を知り尽くしている  
(どこは安全で、どこは遊べて…)
- ・今の生活の良し悪しを理解している
- ・若い人が参加できる場がある
- ・若い人が多い
- ・人が多い
- ・老若男女、他業種・色んな人がいる
- ・空き地がある
- ・元気な地域
- ・行動力のある人が多い
- ・イベントがたくさん開催される地域  
(そこが常に楽しい場所)
- ・地域で飲んでいる
- ・地域で遊ぶ
- ・みながその場所に愛着を持っている
- ・地元のことを好きなひとが多い
- ・土地の産業がある
- ・美味しいところ(外に頼りすぎている生活をしている)
- ・ひとりひとりの防災意識を常日頃から高める
- ・困った時にお互いに助け合えるつながり
- ・人のつながり
- ・地域の中に自分が頼れる人がたくさんいる
- ・いろんな人が知り合い
- ・ひとりひとりが考えられること(自律的・自主的)
- ・沿岸部の高台づくり
- ・協力し合える人間関係
- ・SNSが使える
- ・情報発信能力がある
- ・PCが使える
- ・市民の立場で考える行政
- ・市役所に勤めている人がいる

- ・不便なことを伝えられる人(町内会長?)をつくる
- ・自治会の方と仲良し(日常的に)
- ・地域の諸事業に積極的に参加する
- ・自治会活動を魅力的なものにする
- ・参加しやすい企画づくり
- ・町内の行事に参加する
- ・より小さい問題(自分の子どものことなど)から大きい問題に広げる(問題意識をつくる)
- ・パソコン教室をやる
- ・防災意識向上の活動を地域で行う
- ・日頃から防災意識
- ・お店を開く
- ・コミュニティスペースをつくる
- ・東北を学ぶツアーを計画する
- ・2.0のイベントを開く(復興力について考える)
- ・イベントをつくってみる
- ・震災が風化されないように東北のことをみんなに伝える
- ・現地に赴き、被災地の方と苦しみを共有する
- ・地域のみんなで1つの畑(菜園)をつくってみる
- ・紙芝居をつくる
- ・地域の歴史を伝える
- ・地元を歩いてみる
- ・関心をもつ
- ・子どもを大事にする
- ・お祭り(自分でも参加しやすいイベント)に出て、知り合いを増やす
- ・地元の友だちと集ってみる → 何か生まれるかも…
- ・自分がつながっていく
- ・つながりをつくる
- ・なんでも積極的に取り組む
- ・細く長いつながりづくり





- 福祉に対して活動的（お年寄りとの交流など）
- 障害者の方へのサポートが充実（交流や勉強会）
- 高齢者の知恵を共有
- 地域の活性化に意欲的な地域
- 行事がさかんに行われている
- 会った人にはあいさつしている
- ご近所さん同士の付き合いが濃い
- お互いを知っている
- 困ったことを言い合える関係
- 町内会が機能していること
- みんなが顔見知り
- 自分の住んでいる地域が好き
- 地域の自慢できるものがある
- 地域内外のつながりがある
- 他地域の経験を共有する
- 違う世代の人が集まる場がある地域  
→ それぞれの持っている力を活かせる
- 中高生が地域に対し、行動力または働きかけ
- その土地のことを良く知っていること
- 多様な人が知り合いであること
- 地域の中で誰が何を持っているかを知っている
- 全ての人に役割がある

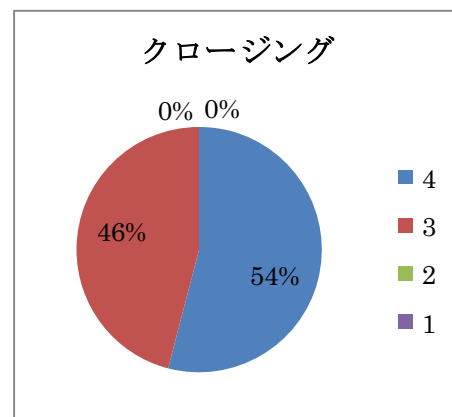
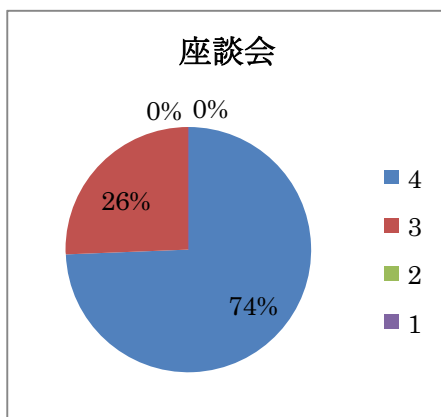
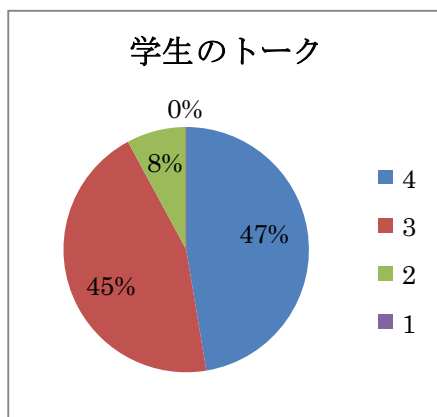
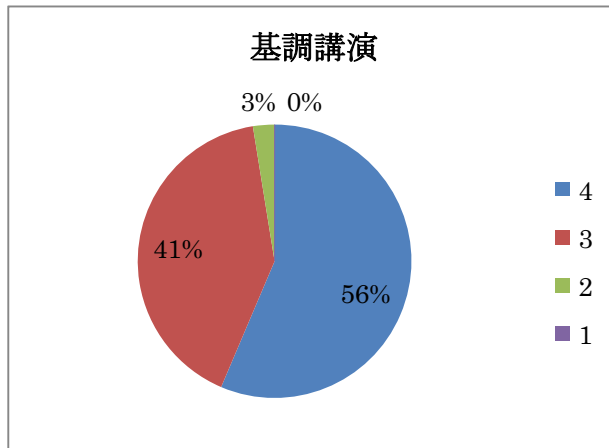
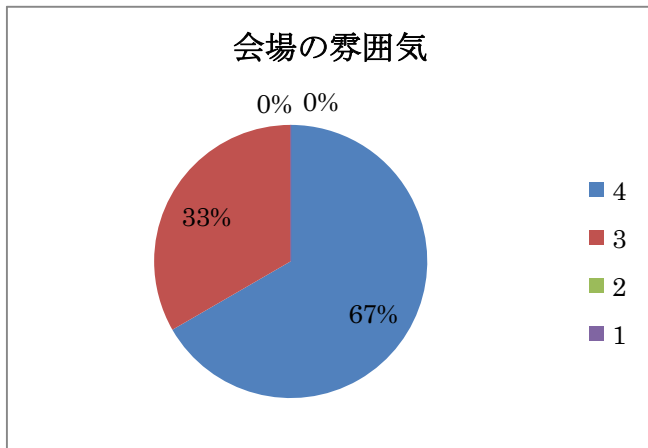
- 様々な世代を集めたイベント企画  
（町内会単位でお餅つきなど）
- 地域の行事への積極的な参加
- 地域の行事に参加する声かけ
- 生涯についての勉強会や講義、お茶会、サロンのなもの
- 高齢者・障害者の方などとの対話を増やす
- 他の地域の活動を知る → 参考にする
- 同じ転勤族を町内会の防災対策に誘う
- こうした取り組み・考え方の身近な人への情報発信
- facebook での地域情報の共有
- アパート住まいの人たちにも情報を届ける
- 連絡網を作ったり、メーリスをつくる
- 地域商店を中心としたお祭り
- 地域の歴史を知る会（紙芝居など）
- スポーツで集まる
- 町内会に参加しやすくする工夫
- 地元のものを食べる会
- ご近所サロンやお茶会
- 町内会役員の仕事の軽減化・分散化
- 仲間意識
- 地域の中に住むことの自覚
- コミュニティスペースや公園をつくる
- 中高生や大学生を中心としたイベント  
（フリーマーケット、演奏、劇など）
- 子どもが主役となるようなイベント → 親同士のつながり
- 子どもへの教育

## ■アンケート集計結果

フォーラムの内容について

Q1. 今日のフォーラムを100点満点で採点すると何点ですか。 平均83点 回答数25人

Q2. 今回の内容について、それぞれ4段階で評価をお願いします。数字に〇をつけてください。



Q3. 今回のフォーラムにどのような事を期待して参加されましたか。また、あなたの期待に応えられましたか。

- どのようなことを話し合い、さらに実行に移すか。
- さらに踏み込んだ話題を。次回に期待します。
- レジリエンスについて具体的にどういったものを学びたくて、また静岡県でのレジリエンスや防災への取り組みを知りたくて参加しました。おおむね満足です。
- 同じような気持ちをもって参加している人がたくさんいると思ったから。その期待には十分に答えられたと思う。
- 東北での話をきくこと、静岡で起こりうる地震のことについて考えるきっかけにすることとして今日参加させていただきました。レジリエントな地域についていろいろなことを考えられたのでよかったと思います。
- 「復興力のある静岡」とはどういうことか?目指すものは?聞きたかった。レジリエンスについて理解できて良かった。
- 東北のボランティアに行った際に現地の方から「集落によって対立があって、ボランティアや支援物資を囲い込む町があって、町によって復興の進度に差がある」という話を聞きました。今後地震の起

こる静岡でこのようなことを起こしたくないと思い、何か得られるのかも、と思い参加しました。

- 復興力をどのように考えているか？地域づくりに視点がうつったように思います。基本は個からだと思うので考えることは必要だと思います。
- 色々な方々との交流、新しい知識。
- 復興力が何か知ることができる。
- 自分が何を期待していたのかわからないけど、きっとステキなイベントなんだろうなーと思ってきました。大人の人もいっぱいいて、ドキドキしたけど、すごくフラットに話せて、POCが作りたい場ってこういう場なんだろうなあって思った！来てよかったです。
- 復興を通じてどんな町が再構築されていくのかという話かと思っていました。期待というより予想と違いましたが、勉強になりました。側面的だったので難しかったところもありますが、もう少し具体的に調べてみたいと思いました。
- 活気があって大変よかったです。
- 人と人のつながり
- 自分に何ができるか、何をすべきかを考えるきっかけとして。
- 地域活動や何らかのきっかけを期待して参加した。
- 自分の体験を話したら他の人の話も聞きたい。→考え方が広がれば
- 同じ学生として自分たちに何ができるのかを改めて考えたいと思いました。
- 期待：災害対策について勉強したい。仕事外で刺激を得たい。  
効果：普段、語られる防災と違う視点で災害対策を考えることができ、有意義でした。また、若い方の柔軟な発想に接して刺激を受けました。
- 静岡2.0に興味があったので、参加しました。もう少し静岡で災害が起こったらということにフォーカスしてほしかった。
- 今後の静岡をどう考えるか。震災時を考えたかった。2.0の人達とつながりたい。
- 静岡2.0の活動を知るために参加しました。
- たいへんおもしろかったです。沢山の人や世代の方々が参加されていて驚きました。ワークショップの雰囲気も、なじみやすかったです。
- 具体的に自分の自治会で何ができるかを考えたかった。色々なアイデアを聞いて有意義だった。
- 期待以上でした。震災当初は電気が使える。水が使える（トイレ）お店ができた。行くたびにうれしかった。でも2011年11月ごろからおいてけぼりにされてる気持ちになった。周りがとても冷たく感じた。そのことを思い出しました。
- 第一回目のフォーラムという事でしたが、実はあまり期待してませんでした。参加して良かったです。
- 当初はファシリテーションについて（研修方法）の勉強で参加させていただきました。災害からの復興に向けての内容に共感し大学生の皆さんの熱意を地域で発揮できるようにしていきたいと思いました。
- 防災について、違った視点で考えてみたかった。  
→地域について考えることができ、また現役大学生の方のお話を聞くことができ参考になりました。
- 基調講演が聞きたくて参加。よかったです。早足なのが残念でしたが。
- 震災関連についていろいろと学ばせて頂きたいと思いました。



- ・東北へのボランティアの話。
- ・地域の問題を確認できた。みな同じ問題がある。
- ・地域の問題の確認。
- ・レジリアンスがどういうものか理解したいと思い参加しました。
- ・自分が3.11のような災害にあった時どんな対応ができるか
- ・学生さんたちの生の声を聞きたい。3.11後の静岡でできることすべきことは何か考えるきっかけにしたい。

Q4. 今回のフォーラムを通しての気づきや学びを教えてください。

- ・先生の、3つのキャピタルの話は、なるほどー！と思いました！
- ・地元愛を持つことが自身のバックグラウンドの形成につながって地域への参加を促進できる。
- ・レジリアンスについて、国際的な取り組み動向や事例（国内も含め）を通して、イメージができました。いろんなアクションがこれから生まれてきそうで楽しみです。
- ・いろいろな人の話を聞いて、考えが広がった。
- ・地域のつながりの大切さ、そのつながりは自分が少し動く、変わることでつくっていけるのではという希望を持ちました。
- ・災害に対する本当の備えとは何か。考える機会ができて良かった。
- ・レジリアンスという言葉を知り、それを達成するために何が必要か、何をすべきかというのが少しわかった。
- ・今まで漠然としていた復興の実像がつかめた。
- ・地域の大切さを分かってもらえたこと。昔は隣近所助け合おうのが当たり前前の時代。私たちがいないがしろにしてきたもの、もう一度しっかりつながりをつくってください。
- ・人と人とのつながり。地域とは、...。ひとつひとつ、小さなことから。目に見えることだけじゃない。
- ・学生の行動力の素晴らしさ。
- ・幅広い年齢の人が集まって話すことで生まれるものがあるんだなーって...。今まで学生同士で話すことばかりだったから新鮮だった！
- ・県全体のことを考えがちだったので、もう一度自分の住む地域について見直していこうと思いました。
- ・自分がまず何をしようか考える良いきっかけとなりました。
- ・つながり。情報発信。
- ・つながりは大切。
- ・参加者の多く、意識の高いことがわかった。こうした活動が起こった、はじまった話でもよかった。
- ・来年度渉外局長をやらせていただくにあたり、学校と地域がレジデンスのある地域（つながり）ができるようにするためにどうすれば良いか考えさせられた。
- ・静岡からもまだ東北にできる支援がたくさんあると思いました。
- ・地域のつながりの重要性について、災害対策という観点から、再認識できた。
- ・レジリアンスな地域について、グループワークできたことがよかったです。
- ・地域の大切さ。人とのつながり。
- ・地域の行事に多く参加していきたいと思います。

- ・「地域」というものを、自分の身の丈で改めて考える契機となりました。
- ・どのグループも考えている内容は似ていることが分かった。
- ・人間はこどもも若い人も中高年もお年寄りもみんなみんなすごいと思いました。誰ひとりいなくなっ  
ていい人なんていない。
- ・レジリアンスの意味と今後への活用。
- ・年齢を問わず、知り合うこと、コミュニケーション、自分の考えを言えること、人の話を聞くこと、  
の大事さを思いました。
- ・大学生の方が「イベント」という場をほしいという声を聞いて、私どもの企画しているイベントと是非  
いい形でコラボレーションできないか考えてみたい。また、若い方々のフェイスブックに対する考  
え方をお聞きしたいです。
- ・自治会の大変さ。
- ・色々な地域をつくるためについて学ばせていただきました。
- ・震災から学べることで何だろうと思って来ました。
- ・人とのつながり→イベントに参加する
- ・地域のグループづくり
- ・学生さんの力はすごい。
- ・人と人とのつながりの重要性がよくわかりました。
- ・自分がどんな対応をすればいいのか。日ごろどんなことをすればいいのか。
- ・若い人たちの積極的な取り組みや意欲を感じました。世代を超えてつながれるという希望のような確  
信のようなものを持ちました。「震災を地元で考える」ことの大切さ、必要性を再認識しました。参加  
してよかったです。ありがとうございました。

Q5. このフォーラムに参加してみたの感想を何でも書いてください。

- ・ワークショップで出てきた意見を見ると、人とのつながりの促進や地域イベントの企画など、これまで  
日本が行ってきたまちづくりと同じ意見が多く見受けられ、レジリアンスの概念は参加者に伝わっ  
ていないと思った。理念を浸透させるのが難しそうだと感じました。
- ・各年齢層とも、いろいろと考えているのでそれぞれ地域で活躍されたい。
- ・今度は誰か知り合いを連れてきたい。
- ・学生が積極的に参加していたり、参加者の世代も多様で、このつながりから新たな取り組みが生まれ  
たり、学生が各地域でいろんなアクションを起こしていきそう楽しみです。
- ・忘れずに考え続けている人がたくさんいることがわかって、大変良かった。私自身、岩手の方にボラ  
ンティアで何度か行って、その点でどんな話が聞けるか楽しみだったが、リアルな実体験が聞け  
たのは良かった。
- ・いろいろな方が興味を持っているということがわかったと思います。自分でも何かする必要があると  
思いました。こういったことを考える機会はたくさんあったほうがいいなと思いました。自分もアン  
テナをはって情報を得て参加したいと思います。
- ・グループワークはわかりやすかった。各地域（町内レベル）でこういう活動ができれば良いと思う。
- ・座談会で他人の意見を聞いて、新たな考え方が得られた。地震前の防災・減災だけでなく災害後の復

興のことも考えて行動することが大切だと感じた。

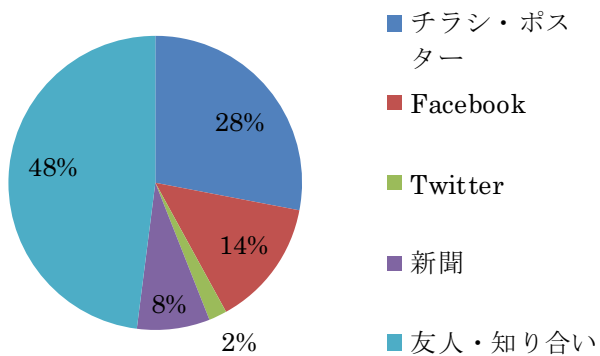
- 座談会の時間と東北へ行った（パネルディスカッション）の時間をもう少しほしかった。
- もう少し最後のまとめが一つできると良いかもしれません。次につなげるテーマを見つけてもらうことが、長くつづけるには必要。
- 同じ静岡県民が一つのテーマに集うというのはとてもすごいことで、とても有意義だと思いました。色々な人が集まっているのは変わらないんですが、仲間が集ったという不思議な感覚でした。
- 座談会の時間がもう少し欲しい。
- やっぱり会って話すって大切だなんて思いました。
- 色々な人達と集まれる機会でもとてもよかったです。
- 面白かったです。若い方々の力を感じました。いろいろな方々と知り合えて良かったです。
- 共有できる仲間。
- 意見交換ができてよかった。
- 退席したが、また参加したい。
- とても良い。高専生にも参加してもらいたい。
- 学生の力というのはすごいと思いました。自分もまだまだだと感じ、今後も頑張っていこうと思えました。
- 多様なバックグラウンドを持つ人と対話することで、様々な可能性を感じることができると思いました。
- 自分たちの行っている活動の参考になりました。
- 新たな発見や、つながりを持つことができて、とてもよかったです。
- 今自分の出来る事が何かを考えさせられるととてもいい経験ができてよかったです。
- 学生の方が中心の運営と聞き、驚きです。ぜひ、持続してください。
- 出したアイデアを具体化する作業まであればなお面白いのでは。
- 次回参加したいのですが、家族で予定を入れています。残念。
- こんなこといったら、はずかしい、それは違う、なにいつてるの、そういうネガティブな空気がなくみんなそれぞれ話し、聞ける場でした。とてもこちよく、勉強になりました。レジリアンスについて。イベントなどでつながることはとても大切。けれど、理念に共感しそれを共有出来る人たちとでなければつながりではなく、めんどろな付き合いになってしまう、地域として共有できる理念（こどもも若者も中高年もお年寄りもみんな尊重される社会）を持てるかがカギだと思いました。
- 大学生と話をする機会が普段はほとんど無いので良かったです。
- 自分自身の力量のなさを思いましたが、これを機会に色々知識、人間力を深めていきたいと思えました。
- 他年代と関わることができたためになった。
- すばらしい考えをもつ方達が多かったです。楽しく学ばせて頂きありがとうございました。
- 「震災」というネガティブなものに向き合ったけど、1人ではなくみんなで一緒に考えることができたら、（空元気ではなく）本当に明るいものや前向きなものが見えるんだなと気づきました。繋がりの力を感じたのかなあ…
- グループごとの会談は良かった。

- ・グループごとの話し合いは大変良かった。
- ・災害が起きた時まだ何が貢献できるのか、というのが自分でもつかめていません。
- ・将来自分の職に関係しそうだと思いました。

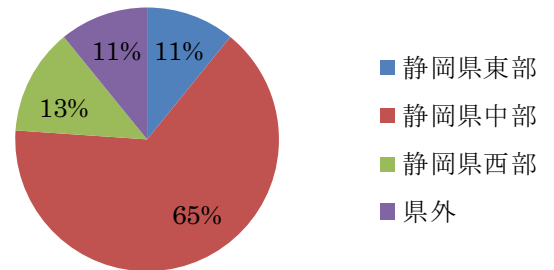
Q6. フォーラムを更に良くするための改善点などを何でも書いてください。

- ・学生によるトークと、レジリアンスが結びついていなかったと感じました。東北で感じたことをただ伝えるのではなく、向こうのレジリアンスがいかに復興につながったのかなどレジリアンスに焦点を当てた話をするとうれしくなると思いました。
- ・回を重ねていくことによりブラッシュアップされると思う。
- ・自治会の役員や市の防災班、福祉課の人など、実際に関わる人に課題をふまえて話してもらいたい。
- ・学生の皆さんのトークなど、各々の経験をもっと具体的に話したり、(活動内容/期間/どこの主催/関係団体/感じたこと・学んだこと) 意見交換できると、より良い。
- ・会場の広さ。
- ・会場はもう少し余裕があったほうがいかなと思いました。
- ・基調講演はもう少しゆっくりだったら良かったと思う。スクリーンをもう少し大きくしてほしい。
- ・グループワークしたことをまとめるのが必要なのか、話し合うのが目的なのかで皆さんが出した意見、共有できるといいですね。
- ・グループ差もあると思いますが名前をあまり覚えられなかったです。
- ・部屋が狭かった…。これはやってみてわかったことだと思うので、次からもっと広い部屋を用意できると思いました。津富先生の話、もう少しゆっくり聞きたかったです。
- ・もう少し、事前の学生トークの準備が欲しかったです。せっかくの生の声ですので、整理がもう少し必要だったかな、と。
- ・すべての班の発表が聴きたかったです。
- ・もっと、いっぱい話す。
- ・今は思いつきません。
- ・東北に行った学生のトークはもう少し具体性があると良かったかと思います。
- ・座談会はもう少し深い内容が知れたらよかったですと思いました。
- ・もっと具体性を追求していく。
- ・一つ目のワークは拡散タイプのこのやり方でよかったと思います。二つ目のワークは深めるタイプのワークの方がよかったんじゃないかと思います。(例。一つ目のワークでポイントを一つに絞り込んで、二つ目のワークで、リレー記入できるワークなど)
- ・進行、だんだん良くなれば良いですね。場数をこなせば大丈夫ですよ。
- ・スペース広めにとれるとよいと思います。
- ・ぜひ継続して行ってください。
- ・もっともっと多くの人達に知らせるべきです。
- ・パネルディスカッションは、スライドがあるとなお良い。
- ・パネルディスカッションのときに質問の時間があれば、と思いました。

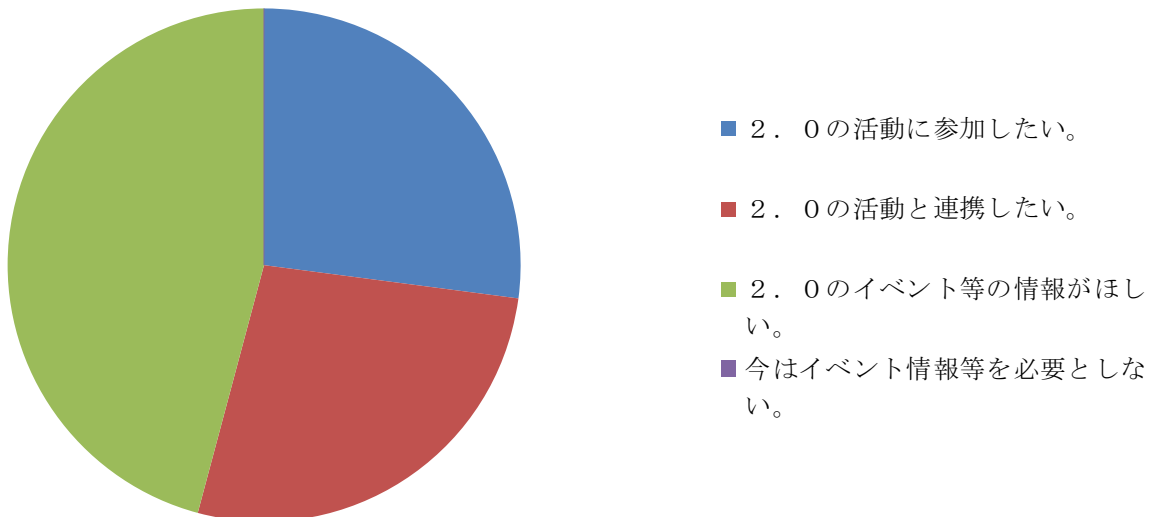
どこでこのフォーラムを知りましたか。



あなたにとっての「自分の地域」はどこですか？



今後について、お聞かせください。





## 第2回目 まちをつくる、場をつくる、公共空間をつくる

目的：若者を中心に地域のつながりをつくりだしている二つの地域から実践の報告を聞き、ワークショップを行う。それらを通して、今後自分の地域で人々とつながっていくヒントを見つける場にする。

開催日時：2013年2月3日（日）13：00～17：00

場所：静岡県総合社会福祉会館2階ボランティアビューロー

参加人数：

### ■プログラム

- 13：00 オープニング
- 13：10 グループワークと講演（山ノ内凛太郎・一般社団法人ISP）
- 14：40 休憩
- 14：50 グループワークと講演（奥ちひろ・秋田県南NPOセンター）
- 16：20 ふりかえり
- 16：50 クロージング
- 17：00 閉会



## ■講師紹介

山ノ内凛太郎

一般社団法人 ISP 代表理事

立教大学法学部を卒業し、杉並区のまちづくりに取り組んでいる。交流、対話を通して住民同士の繋がりを深め、まちづくりに対する意識を育むとともに、SNSを通してその成果を発信している。月に一度杉並区ワールドカフェ・サロンを開催。人との縁を大切にしながら少しずつ周りに働きかけていく、地に足のついたファシリテーター。



### 【「杉並区ワールドカフェ・サロン～もし、杉並区の100人と“ともだち”だったら～】

カフェ形式でゆったりとしながら、杉並区の住民が世代・立場・国籍をこえて話し合う。理想の町、これまでの杉並について、地域愛についてなど、テーマは毎回さまざま。8歳から86歳の方まで、延べ525名が参加した。



奥ちひろ

特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター職員

地域を愛する真摯な姿が魅力のファシリテーター。

子どもの居場所づくりに関心があり、玉川大学在学中の2005年からNPO活動に参加。大学卒業後は地元に戻り、同団体にて市民活動サポートセンターの運営、若者会議の企画・運営等を担当している。大切にしていることは、いつでも1から始める人の視点に立ち、寄り添うこと。



### 【秋田県若者広域会議】

地域の将来を担う若者が地域課題の解決のために集まり、話し合い、行動するプロジェクト。地元企業や農業に触れられるイベントの開催、町めぐりツアーの企画、ふるさとの偉人を取り上げたショートフィルムの作成など、町の賑わいをつくり出している。





## ■山ノ内さん ワークショップ (80分)

◇ISPについて講演(20)

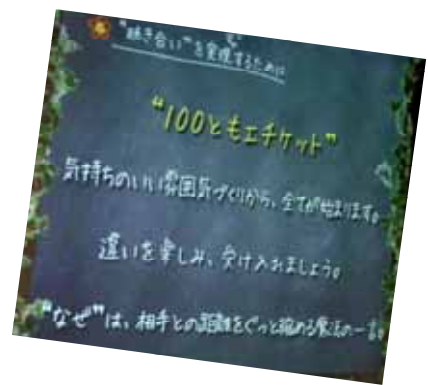
◇質問かるた (20分) 1人 8分

①2人、3人グループをつくります。

②紙に、相手の名前を書くか、書いてもらいます。

③紙に書いてある、3つの質問をします。

④答えに対して、さらに質問します。出てきた答えから、新しい質問をひっぱっていきます。



◇グループ他己紹介(20分) 1人 2分

グループごとに、自分が担当した人のことを紹介しあいます。特に、おもしろいなというところを。



◇グループ対抗漢字でミニ作文(15分) グループ 7分

単語をつなげて、文をつくります。ルールは、意味が通じる文であること。そして、できるだけ短い文であること。自分が普段使っていることばを、どうしたらもっと伝わりやすくなるか、考えます。

8つの単語：『強』『弱』『静岡』『遊園地』『震災』『つながり』『動く』『立ち止まる』

あるグループの作文：

『震災』の日、『静岡』の『遊園地』で、『動き』、『立ち止まり』、『弱い』私は『強い』『つながり』を求めた。



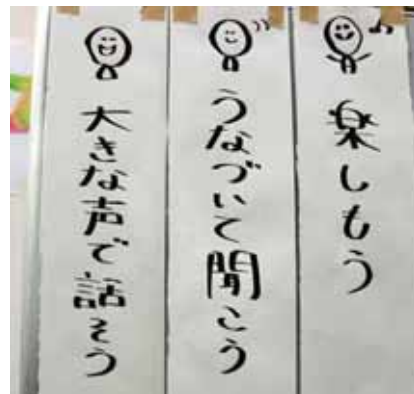
## ■奥さん ワークショップ（80分）

- ◇秋田若者会議について講演（20分）
- ◇ワークショップのグラウンドルールを紹介します。（3分）
- ◇旗揚げ式アンケート（3色ルール）（3分）



ワークショップの心がけ

- ・今の気分
- ・ワークショップ経験
- ・地域活動経験



### ◇グループ分け（3分）

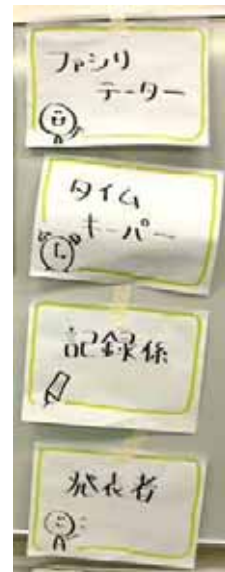
- ①所属別に分かれる。（Ex.NPO・市民／学生／公務員／会社員）
- ②所属グループの中で、番号を決めます。（1, 2, 3, 4, 5...）
- ③同じ番号の人でグループを組む。（いろんな所属の人がいるグループが出来ます。）

### ◇自己紹介（6分） 1人 1分

- ①山ノ内さんが使った「質問カルタ」で自己紹介をします。  
\*全員が話せるように・・・1分の感覚を覚えるため、一分間沈黙します。  
\*1分経ったらベルが鳴り、他の人と交代します。

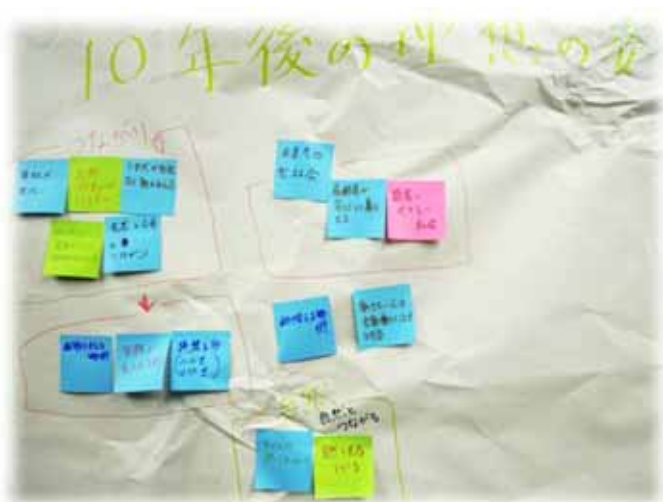
### ◇「10年後の静岡の理想の姿を考えよう」（40分）

- ①役割を決めます。それぞれにどんな意味・役割があるか説明します。  
・ファシリテーター    ・タイムキーパー    ・記録係    ・発表者
- ②ポストイットに「10年後の静岡の理想の姿」を書いてください。  
※話す時間は後であるので、この時間は書くことに集中し、質より量を出します。
- ③グループ内で発表しながら、模造紙に貼ります。
- ④似ている意見をまとめ、グループをつくります。
- ⑤発表。





## 静岡の10年後の理想の姿



### ○つながり

- ・ 隣組の強化
- ・ 近所つきあいがたくさん
- ・ 3世代が垣根なく触れあえる
- ・ 地域に学生が入って活性化している
- ・ 若者と年寄りのつながり
- ・ 感謝し合えるまち
- ・ 笑顔があふれるまち
- ・ きれいなまち（ハード面やソフト面）

### ○自然

- ・ 子どもが遊べる山
- ・ 自然と共存できる

### ○地域絡み

- ・ 全員参加型の社会
- ・ 高齢者が安心して暮らせる
- ・ 弱者のやさしい社会
- ・ 助け合える社会
- ・ 働きたい人の全員が働くことができる

### ○魅力のあるまち

（これが以下の項目を含めたすべての核になっている）

- ・ 帰ってきたいと思えるまちであってほしい
- ・ 他県から来たくなるまち
- ・ 市民が活気のあるまち
- ・ 大人も子どもも分け隔てがないユニバーサルデザインなまち
- ・ 住みやすいまちづくりが進んでいる

### ○地域の連携

- ・ もっと地域の交流が深まってほしい
- ・ 地域同士が連携し合っている活動をしている
- ・ コミュニティー活動が活発
- ・ 地域の住人などでうまくいくような地域

### ○産業の活性

- ・ 持ち出した産業もありつつ、これだけに頼らない多様化したまち

### ○情報発信

- ・ 静岡の良さをもっと発信して行って欲しい

### ○地震に対する防災・減災

- ・ 津波・地震に強い静岡になってほしい
- ・ 震災にあっても復興している

### ○豊かな自然の継承

- ・ 自然が豊富にあること



### ○誇れる面

- ・誇れるものがたくさんある
- ・明るく元気な生活ができる
- ・障害者はアピールできる場
- ・サイクリングロードを整備する

### ○集まれる場所・コミュニティー

- ・多世代交流ができるサロン
- ・全世代が自由に交流できる場を小地域ごとに設けていたい
- ・多くの組織があって、それに参加する
- ・集まれる場がある
- ・保育所を設立

### ○助け合い

- ・となり近所が助け合える



### ○活きている産業

- ・深海魚レストランが多く出店されている
- ・県民が安心して生活できる静岡
- ・観光と産業のまち
- ・自然と産業が発達している

### ○暮らしと環境

- ・水がきれい、緑と花にあふれた静岡
- ・原発のない安心して住める静岡
- ・自然豊かな静岡
- ・お年寄りや子ども、外国人が誰でも自由に住める (ユニバーサル化)
- ・音楽のあふれるまち

### ○世界に誇る Shizuoka

- ・富士山のゴミ減量で自然遺産
- ・エスパルスがジュビロがクラブワールドカップで優勝する
- ・学力世界一 Shizuoka

### ○伝承 (震災や祭りのこと etc...)

- ・「今やっていること」が伝わる

### ○コミュニティ

- ・いろんな世代の人が集まる場がある
- ・学生が地域と関わる



○生き生きと子ども・お年寄り・男女

- ・生き生きとした子どもたちの多いまち
- ・子どもたちが元気
- ・子どもがたくさんいる
- ・お年寄りが元気
- ・高齢化社会に対応している

○自然・環境を守る

- ・青い空・青い海・きれいな自然地域になっている
- ・より緑の多い環境
- ・自然豊かなまち

○行政の力

- ・行政がしっかり地域に根付く
- ・仕事にあぶれない社会

○つながり

- ・人と人をつながりのある社会
- ・男女関係なく、世代をこえて話し合える場がある
- ・個人が大切にされる地域

○地域活性化

- ・市街地がすごく発展している
- ・過疎化の地域の増加
- ・国際的になっている
- ・地域が活性化している
- ・住宅地の増加

○元気な地域

- ・近所の仲がいい
- ・高齢者の元気な社会
- ・子どもからお年寄りまで交流がある
- ・高齢者にやさしいまち
- ・変わらない街
- ・地域での自分にあった異年齢のクラブ活動がある
- ・毎月何かのイベントがあるようなまち
- ・元気な地域で結ばれた社会

○夢

- ・静岡空港の国際化
- ・富士山世界遺産
- ・若者が働く場がある
- ・仕事（夢）を知る機会が多い

○日本一

- ・日本一の防災県



### 《こういう人たちが増えたらいいな》

1人ひとりが静岡の良さを知っている、静岡 LOVE 人口が増えている  
他人まかせでなく自分でやろうと思える、大学を中心としたコミュニティ  
すべての市民が自由に入出りできる居場所を2つ以上持っている

### 《市民参画》

“復興”のモデルケース、区民の声がまとめられる届けられる仕組み、  
市民活動日本一！ 10年後の静岡の理想の姿

### 《行政・サービスの充実》

保育所・待機児童が0になっている(?)  
学校教職員の増員ができている  
介護24時間サービスが出来ている

### 《つながり》

地域のつながりが全国でNo.1!  
他県・他区・他地域との交流がさかん  
いろいろな世代が関われるイベントに溢れている

**文化**：文化発信都市、みんながそれぞれ楽しい

**経済**：中部の第2の中心地、都市（名古屋・東京）間の仲介役

**職**：仕事がある

**幸せ**：住みたいという人が多い、笑顔の人が多い、  
貧しい人が笑う町

⇒職とリンク

地域の繋がりが密

**防災**：災害に強い、震災がこわくない

**食**：食べ物が美味で安全、衣《食》住が揃う

⇒幸せとリンク

**自然環境**：野鳥や蝶が舞う町、花や樹木でいっぱい町

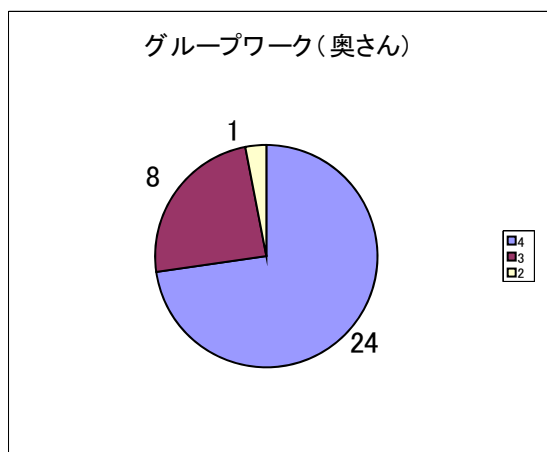
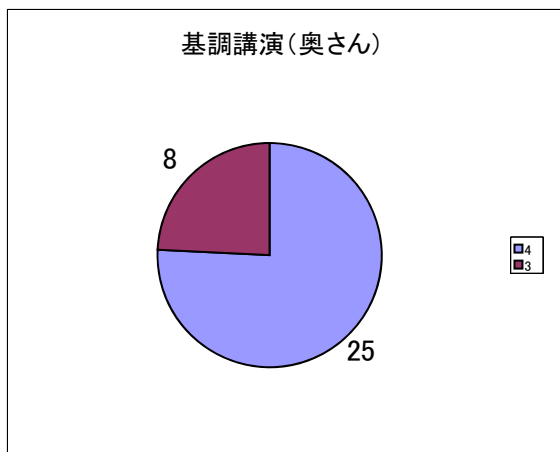
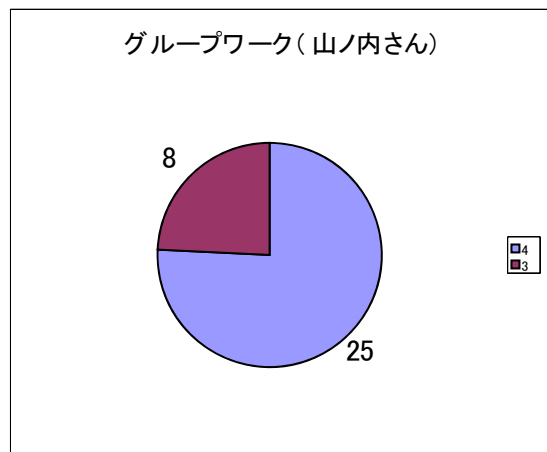
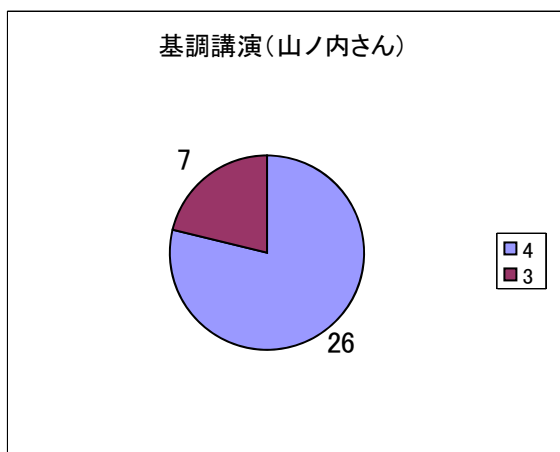
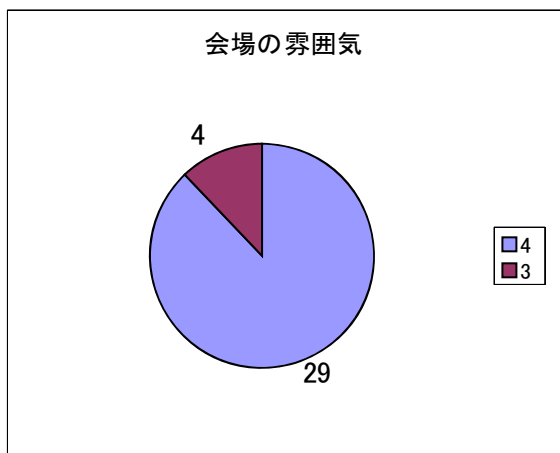
## 第2回フォーラム アンケート集計結果

回答者 36 名

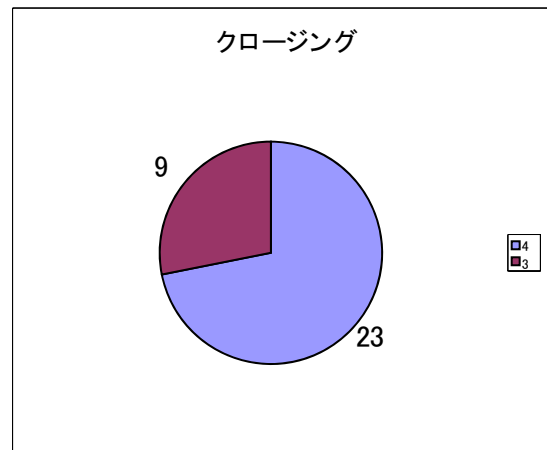
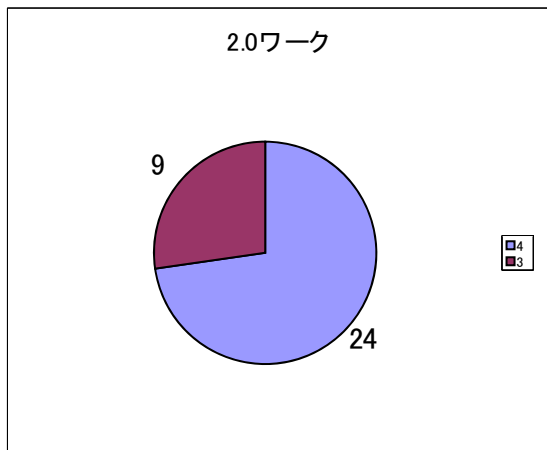
Q1 今日のフォーラムを 100 点満点で採点するとしたら何点ですか。

平均 88 点 回答者数 22 名

Q2 今回の内容について、それぞれ 4 段階で評価をお願いします。







Q3 今回のフォーラムにどのようなことを期待されて参加されましたか？また、あなたの期待にこたえられましたか？

- 新たな繋がりをつくれたらいいと思って
  - いろんな人たちとのつながり
  - 地域の繋がりをどのように実現できるか
  - ファシリテーションというものがどういうものか、知りたいということがありました。それよりも会場の皆さんの雰囲気がとても良くて、すがすがしい気持ちになりました。ワークショップの学び方は、少し理解できたと思います。
  - 前回の参加につづいて、さまざまな人と交流し、意見交換をする。十分にできた。
  - 期待していた通り
  - 今後、地域での人と人のつながりを求めて、交流会を立ち上げていきたいので参加しました。
  - ファシリテーターとは、を知りたくて参加しました。
  - 人とのつながり。→はい。
- 「地域」を考えることができました
- 人と出会う、つながる。若い人に刺激を与える
  - ファシリテーションを学びたい
  - 人脈作り。OK
  - 十分に期待に応じられた！！
  - これからの静岡をどうすべきかということを楽しんでいた
  - 自分が身近なことでできることを見つける。課題がたくさん見つかりました。
  - 講演がお聞きしたくて参加しました。とても有意義でした。私も、何か、できるんじゃないかと思いました。
  - 個人的にボラ協のスタディ・ツアーに参加してタイにボランティアに行ってきたのですが、その間に感じた“コミュニケーション”の大切さを学び、このフォーラムを通して新しい人との関わりの場をもてたらいいかなという期待を持って参加しました。
  - つながり
  - 意識の高い人たちと触れ合うこと。満足しました

- 人とのつながり。いろんな話、考え方があるかなと
- 交流、情報交換、共有
- あまりよくわからず参加しましたが、これからの人生の中で何ができるか改めて考えるきっかけになりました。
- 勉強不足でできましたので、どんな内容かな？という感じであまり期待してきませんでした。とても勉強になり“若さ”をもらいました
- レジリアンスの意味を知りたかったです。よくわかりました。
- 新しい出会い
- いろんなことをするかわからなかった。楽しかった。
- テーマ、内容について。内容については満足しました。
- どのような内容か？初参加だったので！良かったです。ファシリテーションについて

#### Q4 今回のフォーラムを通しての学びや気づきを教えてください

- 世代を超えたコミュニケーションの大切さを学びました
- 地域とのつながり、大切さ
- 静岡にもいろんな方がいらっしやること。つながりを求めて、集まる場を欲している人が多いこと
- 一人でできなくても、できる人につなげること
- この考えを、具体化すること
- 人と人のつながりが大切
- いまさらですが、人とのつながりを大切にしたいと思いました。はじめの一步になることはとても大切でもできないことですね
- “つながり”の始まり方が実践を通してわかりやすかった
- 静岡 2.0 の企画センスの良さ
- 会話などのいろいろな手法など発見を感じました。
- 地域について考えている人がこんなに多いことを知り、励みになりました。
- 聴くこと
- いろんな意見を聞くことが出来て良かったと思います。
- ルールがあることで、話しやすくなる。講師の方の進行のやり方もすごいと思った。
- 一緒にお話しした方もそれぞれ想いを持っているんだと知った
- 同じことを考えていた人がたくさんいたということ
- 地域を大切にしたい、繋がりをもちたいと思った
- コミティー作りのノウハウ
- 告知について（PR）
- 地域の活動の大切さ
- 魂．．．心身一如
- 地域間交流についてもう少し考えたい
- 積極的にこういったコミュニケーションの場に参加しようと思いました
- 仲間作りの大切さです

- ・いざ震災が起こったとき、地域での人のつながりが大切であることを確認できました
- ・人とつながるのは実践あるのみ
- ・人とのつながりは大切だということ。他地域の活動・様子がわかりました
- ・世代の違う方々と話し合うことの大切さを学びました
- ・人とのつながり
- ・自分の目指す地域の交流は、地域復興や防災につながることに
- ・“人”が大切だったこと！つながりって本当に簡単につくれるんだな、と
- ・若者たちの気持ち、考えについてわかりました

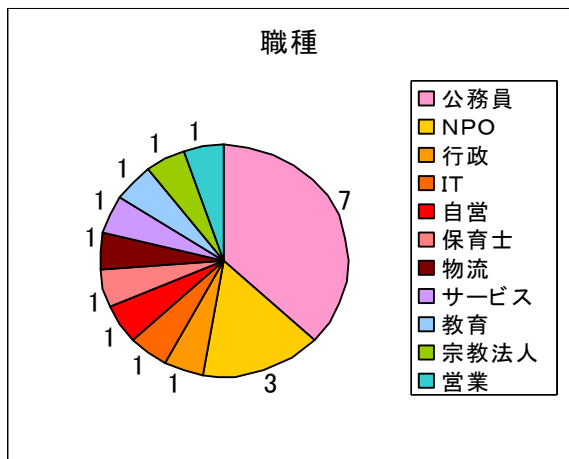
Q5 このフォーラムに参加してみた感想を何でも書いてください。

- ・違ったフォーラムに参加し、勉強になりました。ありがとうございました
- ・とっても楽しかったです。こんなに多世代の人が集まっていて、びっくりしました。とてもいいですね！
- ・いろいろな人と交流できて楽しかった
- ・楽しかったです
- ・立場や地域や、違う方々と、話しあうことの大切さを気付かせて頂いて、とてもよかったですと思います
- ・楽しかった。ある意味、これも異年齢異業種集団なのかなと思った
- ・新しい人との出会いはうれしい
- ・こういう機会があったら、また参加させていただきます
- ・楽しかったです
- ・沢山の気づきができました、ありがとうございました
- ・大学生等の若い方の考え方、ワークショップの方法を学ぶことが出来てよかったです
- ・人が開かれていくことのすばらしさ
- ・私も、つながりの力になりたい
- ・知り合いが多かった
- ・多くの若い人がコミュニティ作りに参加し、リードしていることに感銘を受けた
- ・ワークショップのしかた。話し合いがとても大切であると思いました。静岡の方と関わったことがとてもよかったです。
- ・たくさんの意見を聞くことが出来て、とても楽しかったです
- ・また参加したいです！
- ・いろんな意見を聞いてよかったです
- ・ナラティブ・キャピタルという概念を知れて良かったです
- ・楽しかったです。ぜひ、この人たちを組織化してください
- ・こういった機会があれば次も参加したいと感じました
- ・若い方から年配の方まで、いろいろな方々の参加あり、その上、皆様それぞれポジティブだったのが、とてもよかったです。
- ・よかった。ワークショップの手法も多様なものを掲示していただき、有意義な学びとなりました
- ・気持ちの準備がないままだったので、とまどいもありました

- ・良かったです。若い力、人の力、繋がりを感じました。
- ・改めて若い人の力を知りました。頑張ってください。とても刺激になりました。
- ・楽しかったです
- ・今度は、形にする
- ・ワクワクした
- ・何も新しいことではなく、昔から行われていること。若い人には、新しいことも年配の人のコミュニケーションの取り方は長年地域の中で暮らしてきた自然のおこない。多くのことを違う世代の人といっばい接してください
- ・非常に良かったです
- ・みなさん意欲的に参加していてすばらしかったです

Q6 フォーラムを良くするための改善点などをなんでも書いてください

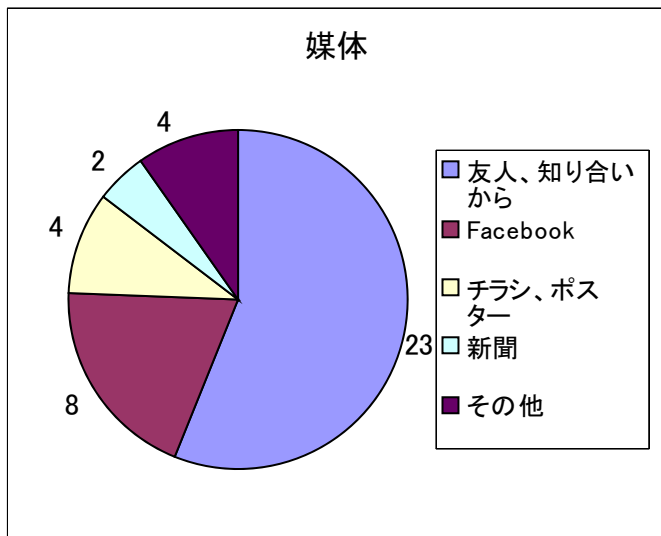
- ・回を重ねていくことが何より。そのための情報は、とぎれることなく発信すること
  - ・移動しやすい広さ
  - ・共通できた事を、実際に形にする
  - ・時間はきっちり終了させてほしい
  - ・テーマをわけて、分科会のようなものはできませんか？もっと高校生の参加を増やした方がいいかもしれない。
- そのためには高校生自らが情報を共有しなければならないのですが、実際にワークショップを自分が参加してみて、年齢層が広がったので、「ん？」と思ったところがあったりしたけど、なかなか発言することができませんでした。だからこそ、参加すべき？したらいいのではと思った
- ・今のところ、学ぶ一方でした。ありがとうございました。
  - ・一人ひとりのPRが必要
  - ・実際にどこかで表現する場を提供する
  - ・具体的な手法を取り入れると良い
  - ・最初の説明部分
  - ・こういう機会があることを、みなさんにもっとアピールした方が良いと思いました
  - ・みんなの発表の機会をもう少し設けたらおもしろいかも
  - ・他の方と話す時間がもっとあればいいと思います



Q7 差し支えなければ所属を教えてください

- ・社会人 33
- ・大学生 5
- ・高校生 4
- ・その他 4 (主婦・放課後児童クラブ指導員・無職)

Q8 どこでこのフォーラムを知りましたか（複数回答可）

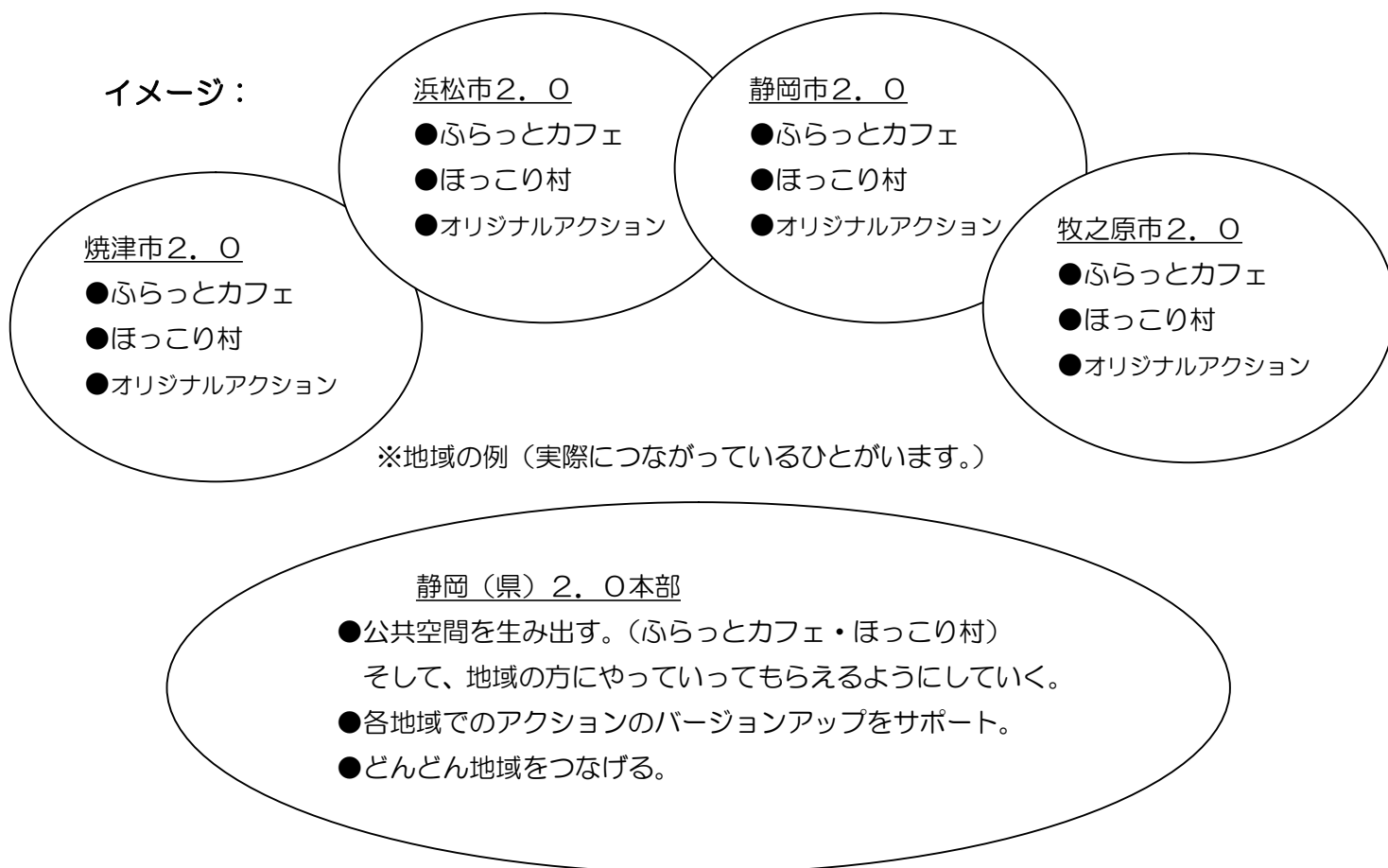




## 今、動いていること

これからは、フォーラムで出会った方々、そして、これから出会う方々と共に、静岡の各地域で公共空間を創っていきたいと考えています。ふらっとカフェ（多世代交流会）やほっこり村（演劇ワークショップ）など、対話の場を起こしていき、その対話の中で地域の方々同士が交流し、地域をよりよくしていけるアイデアを生み出していける場になればいいなと考えています。そうしたら、そのアイデアをもとに、それぞれの地域に合ったことをしていきたいと考えています。

### イメージ：



来年度の4月から、各地域でキックオフイベントを行い、地域の人とつながれたらと考えております。地域の人々同士が顔を合わせるのももちろん、静岡2.0の説明や、大切にしたい3本の柱を知っていただくという時間にしたいと考えております。

フォーラムにとっても大きなお力を貸していただいた

山ノ内凜太郎 さま

奥ちひろ さま

そして、わざわざ足を運んで会場にいらしてくださったみなさま。  
ありがとうございました。とても素晴らしいスタートを共に切ることができて、とても嬉しいです。これからも、どうぞよろしく願いいたします。

主 催：静岡県・大学ネットワーク静岡

企画・運営：静岡県ボランティア協会、静岡2.0

報告書編集：静岡2.0



# 第1回「静岡2.0」フォーラム

# 復興力のある静岡を目指して

## ～地域のレジリアンスを高める～

参加  
無料

《第1回》2013年1月26日(土) 会場: 静岡商工会議所  
静岡事務所会館403会議室

《第2回》2013年2月3日(日) 会場: 静岡県総合社会福祉会館シズウエル2階  
ボランティアビューロー

※どちらか1日でも  
ご参加いただけます。

### 趣旨・内容

東日本大震災を受けて、「地域」の考え方も少しずつ変わってきているのではないのでしょうか。私たちは何を学び、これからどう動いていくのか。今後、東海大地震が起ると言われている静岡だからこそ、多くの方と一緒に考えていきたいと思っています。

静岡の今これらを担うのは、この場所に住む私たちです。一緒に考えてみませんか。

- ★ 1日目は、静岡県立大学教授 津富宏による概念的側面からの講演と、東北へ行った学生たちの生の声を聞き、復興とはいかに成されるのか、また、これからの静岡に何が必要なかを話し合います。
- ★ 2日目は、若者を中心に地域のつながりをつくりだしている二つの地域から実践のご報告を聞き、ご来場のみなさまと一緒にワークショップを行います。

### 《第1回》1月26日(土)「地域におけるレジリアンス」

- 13:00 オープニング
- 13:05 基調講演(津富宏・静岡県立大学)
- 13:45 東北へ行った学生によるトーク「3.11後の静岡を見る」  
(途中休憩あり)
- 15:00 座談会「静岡のこれから、私たちのこれから」
- 15:50 クロージング 16:00 閉会

### 《第2回》2月3日(日)「まちをつくる、場をつくる、公共空間をつくる」

- 13:00 オープニング
- 13:10 グループワークと講演(奥ちひろ・秋田県南 NPO センター)
- 14:40 休憩
- 14:50 グループワークと講演(山ノ内凛太郎・杉並区交流協会)
- 16:20 質問＆お二人のミニトーク
- 16:50 クロージング 17:00閉会



動き  
だす!

あなたと静岡が

**レジリアンス (resilience)** とは、「しなやかな」、「弾性のある」という意味です。  
強い風にさらされても折れずにしなやかに立ち直る竹には、強い地下茎や潤いがあります。  
私たち人間にとって、それは、日常生活のなかで築いた多様な人との関係性や連帯だと、  
私たち「静岡2.0」は考えています。  
災害が起きた時に、しなやかに立ち上がり前を向けるように、  
「レジリアンス」はキーワードであり、希望です。

＜お申込み・お問い合わせ＞ ※お名前、参加日程、ご連絡先(メールアドレス)をご明記ください。

from.shizuoka2.0@gmail.com (静岡2.0 広報担当 青野)

＜主催＞ 静岡県・大学ネットワーク静岡 <協力> 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

＜企画・運営＞ 静岡2.0 (震災後の静岡を創るために新しく結成された団体です。)



チャイナ+ワンのワンはどこか？  
県内企業とアジア人留学生の  
マッチングを目指して



## 実施事業の概要

- 1 共同公開講座の名称：  
大学ネットワーク静岡共同公開講座「チャイナ+ワンのワンはどこか？」  
県内企業とアジア人留学生のマッチングを目指して
  - 2 開催日時：  
1日目：平成25年2月14日（木）18:30～21:00  
2日目：平成25年2月18日（月）18:30～21:00
  - 3 開催場所：静岡市産学交流センターB-nest 6階プレゼンルーム  
（静岡市葵区御幸町3-21）
  - 4 事業の概要と成果：
    - (1) 概要  
研究テーマ「中国の台頭と東南アジア－東南アジア大陸部を中心として－」を静岡県から見たらチャイナ+ワンのワンはどこなのかというような視点で報告する。また、日本語学校、アジア人留学生、産業界からの報告・発表を通して、アジア人留学生の実情をより正確に理解していただき、留学生の活躍の場がどのようにしたら広がるのかを共に議論する。
    - (2) 参加者  
企業関係者、行政関係者、一般県民、学生など計106名
    - (3) プログラム  
＜1日目＞
      - ・講演「大メコン圏はどのように変貌しつつあるのか？－「中国の進出」という視点から－」  
諏訪 一幸（静岡県立大学国際関係学部教授）
      - ・講演「チャイナ+ワンのワンはどこなのか？～静岡県内のアジア人留学生の活躍を期待して～」  
五島 文雄（静岡県立大学国際関係学部教授）  
＜2日目＞
      - ・「日本語学校の就学生とその進路」  
袴田 靖子（国際ことば学院外国語専門学校校長）  
市毛 大輔（静岡日本語教育センター常務理事）
      - ・「留学生の生活と就職活動」  
アジアからの留学生5人
      - ・「しずぎんアジア留学生奨学金制度の創設とその実施状況」  
静岡銀行奨学金担当者
      - ・「県内企業の海外進出とアジア人留学生就職ガイダンス」  
桜井 渉（静岡県国際経済振興会業務部）
- 【企画・運営】静岡県立大学国際関係学部（五島教授・諏訪教授）

# 公開講座

## チャイナ+ワンのワンはどこか？

県内企業とアジア人留学生のマッチングを目指して

### 実施報告書

#### <開催日時と受講者数>

第1回：平成25年2月14日（木）18:30～21:00 受講者48名

第2回：平成25年2月18日（月）18:30～21:00 受講者58名

#### <公開講座開催の趣旨>

公開講座開催の趣旨は次の2点である。

1. 五島と諏訪が「中国の台頭と東南アジア－東南アジア大陸部を中心として－」というテーマで研究してきた成果の一端を報告することである。

この研究テーマは静岡県立大学国際関係学部の資金で実施されてきたものであるが、この研究のために二人は過去5年間大メコン圏（ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、雲南省、広西チワン族自治区）を合計85日間ぐらい廻ってきた。陸路、水路、あるいは空路を使い、様々な角度から同地域の変貌を見聞してきた。

五島（東南アジアの専門家）と諏訪（中国の専門家）が見てきたこと、感じてきたことを報告させていただくという趣旨である。

2. 上記の報告を踏まえて、静岡県から見たらチャイナ+ワンのワンはどこなのかというような視点でご報告をすることである。そして、県内企業とアジア人留学生のマッチングを目指そうということである。

日本人受講者には日頃あまり直接話す機会がないアジア人留学生の実情をより正確に理解していただき、留学生の活躍の場がどのようにしたら広がるのかを共に議論したいという願いも含まれている。

## <1日目の講演要旨①>

### 大メコン圏はどのように変貌しつつあるのか？

#### —「中国の進出」という視点から—

静岡県立大学国際関係学部 教授 諏訪一幸

私と同僚の五島文雄教授は、所属大学の助成のもと、過去5年の間、大メコン圏（GMS。ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー及び中国の雲南省と広西チワン族自治区）を対象に現地調査を行ってきた。その目的は、1990年代初めから進む当該地域の統合の実態を交通網（主に道路）の整備状況や5か国における中国のプレゼンス（中国企業や新華僑の進出状況、華人の地位、中国語教育、対中感情など）に着目しつつ、日本のあるべき関わり方を考え、関係方面に提言することにある。

本プロジェクトは現在進行形であるが、暫定的結論は次のようなものである。

第一に、中国の圧倒的な存在感である。我々の現地調査は、経済統計全般から明らかな中国のプレゼンスを補強するものとなった。いたるところで目にする中国人（新華僑）や中国企業であったが、ラオスでの突出ぶりには目を見張らされた。また、「中国商会」（日本の商工会議所に相当）の存在や中国政府による中国語教師の派遣は、影響力の多様性や重層性を実感させるものだった。

第二に、そのような中国に対する各国の関わり方や国民感情には、当然ながら差異があるということである。中国に対する強い警戒心と対抗心をもつベトナムの動向は、大メコン圏の現状を判断し、将来を展望する際の重要なファクターである。また、中国との新たな関係を模索し始めたミャンマーは、インフラ整備の遅れはあるものの、中長期的には魅力的な貿易投資先であろう。

以上を前提に、大メコン圏に対する日本政府や企業の関わり方を考えたとき、まず指摘すべきは、関与や進出にあたっての戦略や目的を明確にすることである。それは、平和国家としての繁栄という国益確保と世界第三位の経済大国としての地域貢献に他ならない。

次に、そのような戦略や目的の地平は大メコン圏にとどまらず、ASEANやアジア太平洋地域全体にまで広げなければならないということである。

そして最後に、大メコン圏で圧倒的な存在感を誇る中国に対しては、「排除ではなく共同・協働のスタンスで接する以外に選択肢はあり得ない」ということである。そのような意味でも、昨年秋以降悪化している日中関係の早期改善が望まれる。

## <1日目の講演要旨②>

### チャイナ+ワンのワンはどこなのか？ ～静岡県内のアジア人留学生の活躍を期待して～

静岡県立大学国際関係学部 教授 五島文雄

一般にマスコミなどでチャイナ+ワンのワンはどこなのかが議論される場合は国際協力銀行（JBIC）の調査報告が引用されることが多い。しかし、その調査対象となっている企業は、県内企業で海外進出をしている企業、あるいは海外進出をしようとしている企業よりも大規模な企業が多い。

そこで、県内企業にとってはより現実的な視点が必要である。今回は県内企業が地元アジア人留学生と共に海外進出を考えるのであれば、どこが一番良いのかを考えることにした。

県内の国別留学生数（大学生数）は、近年 1500～1600 人程度である。そのうち、中国人が約 1100 人、韓国人が約 150 人、ベトナム人が約 90 人、インドネシア人、ミャンマー人がそれぞれ約 50 人、マレーシア人、スリランカ人がそれぞれ約 30 人である。圧倒的にアジアからの留学生が多く、私費留学生が多い。そして、その大半は静岡での生活に満足している。

一方、県内企業の進出先は 2012 年 4 月 1 日現在、海外展開企業（381 社）の 92%がアジアに展開しており、海外事業所数もアジアが 794 と全体の 74%を占めている。国別に海外展開企業をみると多い順から中国（235 社）、タイ（102 社）、インドネシア（63 社）、ベトナム（49 社）と続き、第 8 位にマレーシア（21 社）であり、ミャンマー、スリランカなどは 5 社にもならない。また、海外展開企業は規模別にみると中小企業が 84.3%、業種別には製造業が全体の 76.1%である。

以上の点から判断すると、静岡県にとってのチャイナ+ワンのワンは概ね次のような結論となるのではないであろうか。

- 1) チャイナ+ワンのワンは、依然として中国の中にあるとの見方が適切であろう。但し、チャイナ・リスク（反日運動による被害など）を軽減したい企業は別である。
- 2) 中国以外では、インドネシアとベトナムが最有力である。
- 3) 次の候補としては、中長期的に考えればミャンマーが有力である。

そして、今後の課題としては静岡県としてマレーシア、スリランカなどから来た留学生の期待にどう応えていくかが大切であろう。

## < 2日目の発表要旨① >

### 「日本語学校の就学生とその進路」

#### 袴田靖子 国際ことば学院外国語専門学校校長

日本語学校について：1年生、2年生合計で227名前後が在籍。就学生の進路動向の特徴を3つ挙げるができる。

- ①卒業生の80%以上が、進学しており、その数値は増大傾向であること
- ②2007年前後に大学進学よりも専門学校進学が多くなったこと
- ③卒業後、ほとんどの学生が静岡に住み続けたいと考えていること

専門学校について：1～4年生合計で196名前後が在籍。2012年度に際立った傾向を感じる。それは、就職をしやすくなったことである。

就職が決まった人数：2011年は22名、2012年は23名、今年は52名が既に決まっている。

#### 市毛大輔 静岡日本語教育センター常務理事

最近、日本に来る就学生に次のような変化が生じている。

- ①かつては漢字文化圏（中国、韓国など）からの就学生が多かったが、最近では非漢字圏からの就学生が増えている。そのため、かつては日本語学校（2年）→大学と進学できるケースが多かったが、最近では日本語学校→専門学校→大学というケースが増加。
- ②比較的親日的な国（ベトナム、ミャンマー、スリランカ、バングラデシュなど）からの就学生が多い。いずれも、宗教的バックボーンが堅固な国。留学生を「遠来の客」と考え、1. 奨学金の給付、2. アルバイトの紹介、3. 低廉な宿舎提供、などを要望したい。

## < 2日目の発表要旨② >

### 「留学生の生活と就職活動」

#### モーモーサン（ミャンマー出身）

今までミャンマーの留学生は日本企業への就職が困難であった。しかし、国内外の情勢が変わり、今では自分は日本の企業への就職を考えている。そのため、今後は専門以外にビジネス日本語や英語（TOEIC）も勉強をする。勉強に集中するため、奨学金を取れるように努力する。そして、就職ができれば、さらに後輩たちの就職をサポートしたい。



### エンディ（インドネシア出身）

日系企業（可能であれば自動車関連企業）に就職をしたい。そして、将来は現地法人の営業マネージャーになりたいと考えている。就職活動は在日インドネシア留学生協会という協会がサポートしてくれる。現在、その協会は派遣会社と協力して、就職説明会などを開催するなどの活動をしている（就職内定者 10%程度）。

### キウ・ユン（ベトナム出身）

私は今年4月から日本の水道関係の会社に就職が決まっている。昨年3月に水道関係のプロジェクトの通訳をしたことがきっかけである。就職については日本の企業で是非働きたいという気持ちは全くなかった。就職活動したが、自分の専門が活かせること、2~3年日本で働いた後に母国に戻っても働ける企業であることを条件として探していた。多くの友人もそのような考えである。ベトナムには日本からの進出企業が多いので、帰国後に就職活動をして就職は可能であると考えているからである。なお、就職活動の際には多くのイベントにも参加した。ベトナム人留学生用の就職ガイダンスにも参加した。就活に東京へ行かなければならないなど多くのお金が必要であり大変である。

### 張智然（中国出身）

私は日本企業に就職を希望しているのではなく、日本留学後には中国の公務員になりたいと考えている。静岡は私がかつて住んでいた北九州市に比べると中国人が少ないので日本語を勉強するのに良い環境と言える。特に会話能力を向上させるには良い環境である。生活する上で一番大変なのはやはり金銭的な問題であり、それは留学生共通の悩みである。

### スダット（スリランカ出身）

4年間くらい自分は就職活動をした経験がある。静岡にはスリランカと関係のある会社が少ないので、就職は非常に難しい。しかし、折角日本で勉強したので何とかそれを生かしたいと思い、日本に残り起業することを決心した。現在、レストランを経営しているが、他の外国料理店が店を閉じつつあるように経営は厳しい。したがって、レストランの経営以外に貿易業務を始めるなど事業を拡大したいと考えている。

## < 2日目の発表要旨③ >

### 「しずぎんアジア留学生奨学金制度の創設とその実施状況」

静岡銀行 奨学金担当者

しずぎん留学生奨学金制度は昨年からはじめた制度である。この制度は静岡銀行創立70周年記念事業の一環、とりわけ地域貢献事業としてはじめたものである。静岡銀行はアジアへ進出している、あるいは進出しようとする数多くの企業と取引している。そして、今後、アジアを重視する必要があるとの認識を強めている。そこで将来アジアを中心に活躍することが期待されている学生を支援して人的ネットワークを形成しようと考えている。昨年度は中国人4名、ベトナム人4名、インド人1名、ミャンマー人1名が奨学生となり、今年度は中国人4名、韓国人2名、ベトナム人2名、インド人1名、インドネシア人1名が奨学生となる予定である。今後もこの事業を継続していく予定である。

## < 2日目の発表要旨④ >

### 「県内企業の海外進出とアジア人留学生就職ガイダンス」

静岡県国際経済振興会業務部 桜井渉

県内企業の海外展開事業については、最近の状況としては以下の3点が特徴として挙げられる。

①中国からアセアン地域への流れが生まれている。

具体的には、インドネシア、ベトナム、タイなどが注目され、ミャンマーやカンボジアも関心をもたれ始めている。

②進出しようとしている企業の企業規模が変化している。

古くは大企業が中心であったが、10数年前から中堅企業の進出が始まり、今では零細企業（従業員30人以下の企業）も海外展開を考え始めている。

③製造業以外の業種の動きも活発化している。

サービス業、小売業の展開が活発化している。文科系が多いという静岡県のアジア人留学生の現状では、アルバイト経験も生かせる分野ではないであろうか。

外国人留学生の就職については、産官学でニューフロンティアを切り拓くという精神が必要であろう。また、①留学生には自分の考えをしっかりと持つこと（通訳業務をしたいのか、日本でずっと働きたいのか、2～3年後に帰国したいのか、など）、②中小・零細企業の方が自分の職位を上げるには面白い。社長さんにも可愛がって貰える可能性もあることを指摘おきたい。

## まとめ

今回の公開講座では、産官学から受講者が来られた。それは大きな成果であったと考える。

1回目の講演の後、受講者の方々との活発な質疑応答がなされた。

特に、静岡県にとってどの国にはどのような産業が可能性を持っているのであろうかとの質問に対して、講演者が回答に窮する中で、留学生たちが個々にアイデアを持っていることに驚かされた。

また、イスラム社会への進出に不安はないのかとの質問に対して、ある大手商社の見解やインドネシア人留学生から実情を聞くことができたのも有意義であった。

2回目の講演の後には、懇親会が開催された。

ここでは、日本人の質問に対して、留学生たちが日ごろ考えていることを率直に述べていたことが印象的であった。特に VISA の取得問題など日本人があまり知らない問題について、留学生が色々と悩んだり、困難に直面していることが紹介されたことは有意義であった。

今後もこのような公開講座を継続して開催する必要性を強く感じた次第である。

(文責：五島文雄、諏訪一幸)

講座写真「チャイナ+ワンのワンはどこか？」





参加費無料

大学ネットワーク静岡共同公開講座

# チャイナ+ワンのワンはどこか？

県内企業とアジア人留学生のマッチングを目指して



日本企業の中国への進出は著しい。しかし、中国への過度の依存は経済的な面のみならず、政治的にも好ましくないとの認識が強まっている。このような中、日本企業は中国に加えてもう一つの海外進出先としてどこが良いのかを真剣に考え始めている。静岡県内の企業も例外ではない。

そこで、本講座では県内のアジア人留学生の実情を踏まえて、どこが良いのかを講師の方々のお話を踏まえて受講者の皆さんと共に考えてみたい。



## 第1回：平成25年2月14日（木）

講師：諏訪一幸（静岡県立大学国際関係学部教授）、五島文雄（静岡県立大学国際関係学部教授）

## 第2回：平成25年2月18日（月）

講師：袴田靖子（国際ことば学院外国語専門学校校長）、市毛大輔（静岡日本語教育センター常務理事）、桜井渉（静岡県国際経済振興会業務部）、奨学金担当者（静岡銀行）、静岡県内の（元）アジア人留学生5名（ミャンマー、インドネシア、ベトナム、中国、スリランカ出身）

時間：いずれも 18:30～21:00 会場：静岡市産学交流センター B-nest 6階プレゼンルーム

参加対象：どなたでも（特に県内の企業・留学生・県職員の方）80名 事前申し込み不要。直接会場にお越しください。

お問い合わせ：静岡県立大学 比留間研究室（電話番号 054-264-5364）

主催：静岡県、大学ネットワーク静岡 企画・運営：静岡県立大学国際関係学部

協力：国際ことば学院、静岡日本語教育センター、静岡県国際経済振興会、静岡銀行



PROGRAM **第1回** 2月14日(木) 18:30~21:00

0. 18:30~18:40 本講座の趣旨説明
1. 18:40~19:20 「大メコン圏はどのように変貌しつつあるのか？」  
静岡県立大学国際関係学部教授 諏訪一幸
2. 19:30~20:10 「チャイナ+ワンのワンはどこなのか？」  
静岡県立大学国際関係学部教授 五島文雄
3. 20:10~20:20 休憩
4. 20:20~21:00 質疑応答

PROGRAM **第2回** 2月18日(月) 18:30~21:00

留学生の来日から就職まで ~県内企業と留学生のマッチングを目指して~  
[司会] 比留間洋一 (静岡県立大学国際関係学研究科助教)

1. 18:30~18:50 「日本語学校の就学生とその進路」  
国際ことば学院外国語専門学校校長 袴田靖子  
静岡日本語教育センター常務理事 市毛大輔
2. 18:50~19:30 「留学生の生活と就職活動」  
静岡県立大学国際関係学部2年 モーモーサン (ミャンマー出身)  
静岡県立大学国際関係学研究科2年 エンディ (インドネシア出身)  
静岡県立大学環境科学研究科2年 キウ・ユン (ベトナム出身)  
静岡県立大学国際関係学研究科研究生 張智然 (中国出身)  
スリランカ料理店経営者 スダット (スリランカ出身)  
「しずぎんアジア留学生奨学金制度の創設とその実施状況」  
静岡銀行 奨学金担当者
3. 19:30~20:00 「県内企業の海外進出とアジア人留学生就職ガイダンス」  
静岡県国際経済振興会業務部 桜井渉
4. 20:00~21:00 懇談会



今 学ぶ 関口隆吉の国づくり

## 実 施 事 業 の 概 要

### 1 共同公開講座の名称：

大学ネットワーク静岡共同公開講座「今学ぶ 関口隆吉の国づくり」

### 2 開催日時：平成 25 年 2 月 16 日（土）13:00～16:30

### 3 開催場所：

菊川市総合保健福祉センター（プラザけやき）2階 201 会議室  
（菊川市半済 1865 番地）

### 4 事業の概要と成果：

#### （1）概要

初代静岡県知事関口隆吉がいかに静岡県の発展に尽力したか、具体例を挙げながら考え、今後の在り方を探る。

#### （2）参加者

一般県民など 130 名

#### （3）プログラム

##### ・ 1 部 基調講演「関口隆吉と関口家文書」

上野 秀治（皇學館大学教授）

##### ・ 2 部 シンポジウム

コーディネーター 天野 忍（常葉学園大学教授）

パネラー 上野 秀治（皇學館大学教授）

花森 憲一（学校法人静岡英和女学院理事長）

太田 順一（菊川市長）

※静岡県立中央図書館の協力により関係資料の展示を行った。



## 1部 基調講演要旨「関口隆吉と関口家文書」

上野 秀治 氏（皇學館大学教授）

静岡県の初代県知事である関口隆吉は、静岡にとって非常に重要な人物です。

先祖は静岡にも非常に関係のある方で、今川義元が徳川家康に嫁がせた築山殿、あるいは駿河御前と呼ばれる方が関口家の関係者といわれています。

関口隆吉の父は静岡県出身で、当時駿府の勤番をしていた幕臣牧野家に仕えることになりました。牧野氏は後に、幕臣の中でも、貿易を行う関係上、非常に役得のある長崎奉行に任命され、関口隆吉の父親は、数千両という額を貯めたといわれています。これがおそらく関口隆吉が維新の頃から明治に掛けて活躍出来る一つの元手になったのではないかと思います。

嘉永5年（1852）、関口隆吉は17歳で家督を継ぎ、幕府の弓隊である御持弓与力（御家人）となりますが、文久2年（1862）に安藤信正を襲撃する坂下門外の変が起き、隆吉は疑いをかけられ、持弓与力の職を義弟に譲り、一線から退きます。

戊辰戦争時、徳川慶喜は謹慎・隠居しますが、関口隆吉は徳川慶喜謹慎所の勤方となります。その後、徳川家の領地は駿府に移され、幕臣であった関口隆吉も共に移ることになり、明治元年（1868）に静岡藩公議人、更に公用人となり、勝海舟や山岡鉄舟と共に働き、明治3年には、金谷開墾方頭取並となり、遠州城東郡月岡村で開墾に力を尽くしました。

しかし、明治4年の廃藩置県を経て、明治5年になると、政府により役人に抜擢され、三瀨県（旧筑後国）の権参事、置賜県（現在の山形県、米沢藩）の参事、明治8年には山口県令と地方官を歴任していきました。

静岡県令に抜擢されたのは明治17年です。（明治18年12月に内閣制度が導入され、明治19年に静岡県令から静岡県知事という名称に変わったことで、静岡県初代県知事となります）。静岡県は県域も広く、かつての伊豆、駿河、遠江の3国により成り立っているため、県民の気質も違います。また、大きな河川もあるため、統治が難しく、さらに当時は、旧幕臣の救済対策も問題となっていました。そうした中、関口隆吉が静岡県令に抜擢されたのは、これまでの功績と徳川家からの信頼によるものといわれています。

関口隆吉と関係の深いものとして、久能文庫と関口家文書が挙げられます。久能文庫とは、日本の文化を継承していくため、関口隆吉が明治以前から収集した書籍約2000冊（特に漢籍が多く、または土木工学や農業、飢饉対策など実学に関わるようなもの）をもとに、更に本の寄贈を受け入れるという、今でいう図書館建設計画です。明治22年、関口隆吉が亡くなり、頓挫することになり、その書籍は久能山東照宮に保管されることになりましたが、久能文庫は、大正13年に建てられた葵文庫に寄贈され、一般市民の閲覧が可能になり、関口隆吉の計画がようやくここで実を結ぶことになりました。その後も関口家の子孫により、山岡鉄舟関係文書、諸家文書、関口隆吉関係文書などが寄贈されています。

関口隆吉が一生懸命地元のために尽くしたということを大いに検証していくと同時に、新しい資料の発掘等を通して、彼の実績をきちんと押さえていく必要があるのではないかと思います。

## 2部 シンポジウム（要旨）

### ○コーディネーター

天野 忍 氏（常葉学園大学教授）

### ○パネラー

上野 秀治 氏（皇學館大学教授）

花森 憲一 氏（学校法人静岡英和女学院理事長）

太田 順一 氏（菊川市長）

**天野氏：**今回の講座は、幕末から明治にかけて活躍された関口さんを通じ、地域を元気にするような催しができないかということで企画されたものです。はじめに、私がなぜ関口さんに興味をもったかをお話したいと思います。私の生まれ育ったところは周智郡春野町、現在の浜松市天竜区になります。実は私の祖母の家は明治の初めに小林という武士によって没落してしまっただけです。話は少し変わりますが、平成18年4月に静岡県立中央図書館の館長に赴任をすることになりました。その図書館のイベントで関口さんについて話をする機会がありまして、伝記をみていきましたら、明治2年2月に静寛院宮和宮が父親の法事のために、東京から京に向かう際に警備にあたったのが関口さん、そしてその下についたのが小林だったと分かったんです。そういうことがあって、非常に関口さんが私の身近に感ずることになりました。そうした私自身のひとつのきっかけもありまして、本日のシンポジウムが関口さんの人柄や活躍を知り、地域を元気にする機会となればと思っています。

まずはパネラーの方に自己紹介を兼ねて、主に関口さんについて関心を持たれていることについて少しご紹介していただきたいと思います。

**上野氏：**関口さんのことは、史料の整理、古文書の解読をしていくなかで知ったのですが、実は私の親戚をたどっていくと徳川慶喜に行きつき、私自身は慶喜のひ孫に当たります。若い頃は松平という名字で、遡っていきますと水戸の徳川家の分家になります。

関口さんについての印象としては、気骨のある人。武道の鍛錬により、政治についても自信を持って何事もやっていくというような方であったのではないのでしょうか。そんな彼がどう思ってどういう行動をしたのかということに興味を持っています。

**花森氏：**関口さんに関わることとなったのは、県民の日がきっかけです。その後、「耀く静岡の先人」、「初代静岡県知事 関口隆吉の一生」を発行するなど、積み重ねの中からみんなで「関口隆吉を顕彰する会」を発足することとなりました。また、縁あって静岡山岡鉄舟会の会長をしていますが、鉄舟と関係との関係もすごいなという思いがあります。さらに静岡英和女学院の創設にも関口さんは深く関わっています。

静岡県の初代の知事と静岡県とどのように結びつけるのが今日のテーマだと思います。その上で、歴史のメッセージ性を知り、学び、行動に移していきたいと思っています。あわせて、歴史には偶然や必然性、謎がある。だから面白いのだということを皆さんにお示ししたいと思っています。

**太田氏：**関口さんの遺徳に関しては、地元の皆さんや末裔の皆さんが大変ご苦労されて



継承されていますが、やはりこれからの次代を担う子どもたちに知ってもらいたいと思います。静岡県が発展してきたのは、100年後の将来を見据えて、関口さんがいろいろな布石を打ったからなのだろうという思いです。私も市長として、市民として、関口さんを顕彰しながら、これからの地域づくり、静岡県について考えていきたいと思います。

**天野氏**：ありがとうございます。これからそれぞれの切り口において関口さんについてお話していただきたいと思います。

**花森氏**：まず、関口隆吉の国づくりについて、メッセージ性としては、争いのない社会を前提として、県の東・中・西をどうまとめるかという点にあると思います。偶然と必然といえば、関口さんの人付き合いについてですが、鉄舟と同時代に生まれ、同時代に亡くなっていること、関口さんが入った道場は長州藩との交流があり、幕臣として長州藩との人脈を持つようになることなどがあげられます。

私が思う関口さんの足跡を検証する上での切り口は4つあります。一つ目は、旧幕臣として徳川幕府・幕引きの大役をした。二つ目は明治政府へ出仕し徳川と新政府の橋渡しをした。三つ目は静岡県令から知事となり静岡県の基礎づくりを行った。そして四つ目は、子息・子女の活躍です。「良い県をつくるために争いがあるてはならない」というメッセージや、静岡県においては、東海道の敷設や久能文庫の計画、県下初の女学校英和学院の設立後援など今の静岡の基礎となる功績を多く残しているんです。

**天野氏**：偶然性の中に人との関わりが関口さんを動かしたというお話がありましたが、少し発展的なお話として、私たちはどういうメッセージを受け取ったらよいのでしょうか？

**花森氏**：関口さんとともに、静岡には多くの幕臣の方が来たということをもまず再認識してほしいと思います。そして、幕臣の方たちは、それぞれ強い思いを持っていろいろなことをしました。久能文庫の設立もそうですし、県知事時代、「近代日本にとって、地方の育成・強化こそ最大重要な国務であるから諸官の渾身の努力を切望する」と中央政府に提言していたんです。まさにこの時代に地方自治、地方分権を高らかに謳っていたんです。是非みなさんのお力で静岡には素晴らしい人がいたということをも、「地域づくり」だけでなく「人づくり」の面から再評価してほしいと思います。

**太田氏**：私からは、菊川、そして牧之原台地、この街に息づく関口隆吉の足跡についてお話したいと思います。関口さんと菊川市のかかわりについては、今の菊川市の月岡というところに、明治3年、35歳のころに自宅を買い求められました。当時に金谷の開墾方頭取並として、馬に乗って牧之原台地まで通っていたと言われています。関口さんの顕彰碑は静岡市の浅間神社と、ここ菊川市の洞月院に残っています。また、牧之原台地の開拓の様子や徳川慶喜らとの関係についても、牧之原幕臣の会を中心に今も語り継がれています。関口隆吉を始め、先人たちのたゆまぬ努力により、牧之原台地は素晴らしい大茶園となり、茶業は、この地域を支える主要産業になりました。この恵みに感謝し、これからも生活の糧を得る産業として育て、そして、この美しい茶園の景観を後世に引き継いでいかなければならないと考えています。

また、関口さんが県知事時代にこの地に残してくれた大きな功績の一つとして、鉄道

駅の設置があります。明治19年から各地で鉄道の誘致活動が行われるようになったのですが、堀之内村住民からの「停車場を設置してほしい」という嘆願を受け、関口県知事の英断により堀之内に停車場が完成したことが、駅を中心に栄えた旧堀之内村、旧菊川町のまちづくりに大きく寄与してくれました。

**天野氏**：牧之原台地に寄せる先人への思いや菊川の堀之内駅の発祥についてお話いただきました。上野先生に少しご感想いただきたいと思います。

**上野氏**：お二人から人づくりと地域づくりについてお話いただきましたが、人づくりと教育ということになるかと思います。江戸時代から教育が普及してきて、農村部でも教育が行き渡っていたと言われていますが、新しい時代は女子教育が叫ばれるようになり、関口さんも女学校をつくることに尽力されました。人づくりが重要であり、関口さんもそれを十分に認識されていたのだろうと思います。牧之原の開墾についても、旧幕臣の救済というのがひとつの目的にあったんだろうと思います。武士は商業よりも農業をした方がよいのではないかと考えていたのではないのでしょうか。

**天野氏**：今回のテーマの「国づくり」とは、日本国という統一国家の建設を明治政府が進めたことと関連します。関口さんも中央政府に出仕したり、静岡県知事になったりして、まさに国づくりをしたんです。それと同時に、地域づくりだと思います。幕末のころは、まだ「国＝日本」という統一観念がなく、江戸時代の各藩の領域がひとつの国なんですよね。それを、日本国という天皇を中心とした中央集権国家にしていく、それが当時の国づくりなのだと思います。

しかし、そうした先人の働きをはじめ、地域の歴史が今の若者にきちんと伝わっていないという現実があるんです。地域の先人の働きなどを学び、地域を改めて見直し、郷土愛を育てていくことで、地域づくりの活動を広げていくことが必要だと思います。

講座写真「今 学ぶ 関口隆吉の国づくり」



## 今 学ぶ 関口隆吉の国づくり

### 1 部 基調講演「関口隆吉と関口家文書」

○講師 皇學館大学教授 上野 秀治（うえの ひではる）氏

昭和 24 年 4 月東京都生まれ。昭和 52 年 3 月学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程単位取得退学。

徳川林政史研究所研究員・日本学術振興会奨励研究員などを経て、昭和 54 年 4 月より皇學館大学文学部講師となる。助教授を経て、平成 5 年 4 月より教授。

専門は日本近世・近代史、ことに大名生活史・華族制度史。

共著『三重県の歴史』（山川出版社 平成 12 年）編集執筆『図録香川敬三関係史料の世界』（皇學館大学出版部 平成 24 年）ほか『四日市市史』『多度町史』『伊勢市史』『三重県史』等の近世編の編纂を担当。

### 2 部 シンポジウム

○コーディネーター

天野 忍（あまの しのはる）氏

常葉学園大学教授、元静岡県立中央図書館長

○パネラー

上野 秀治（うえの ひではる）氏

皇學館大学教授

花森 憲一（はなもり けんいち）氏

学校法人静岡英和女学院理事長、元静岡県副知事

太田 順一（おおた じゅんいち）氏

菊川市長

## 関口隆吉（天保7～明治22）の履歴

### 尊王攘夷と大義恭順

天保7年（1836）、江戸本所相生町において、幕臣関口隆船の次男として出生した。神童と謳われ、句読を木村金平、筆法を松島故山に学んでいる。剣術を斎藤弥九郎、兵法を吉原守拙に学び、長沼流兵法免許皆伝となっている。

嘉永5年（1852）、家督を相続し、若年寄配下の御持弓与力となる。

ペリー艦隊の浦賀来航以来、国論が沸騰するなか、安政5年（1858）、尊王攘夷論を説く大橋訥庵の門下となり、久坂玄瑞、藤田信らと交流する。

慶応元年（1865）、大橋訥庵が捕えられ、舟橋随庵を師として古今の田制・農耕の学を学んでいる。

慶応3年（1867）、開港説を唱える勝海舟を九段坂で斬りつけ、誤解が解けて、以後、入魂となったというエピソードがある。

前将軍徳川慶喜に大義恭順を説き、江戸城無血開城に立会う。精鋭隊頭取として町奉行支配調役を兼ね、山岡鉄舟らと小田原藩抗戦を鎮撫し、上野彰義隊の説諭や暴徒の鎮圧にあたっている。

### 士族授産に邁進

慶応4年（1868）、駿河府中藩（静岡藩）の御留守居役となり、静岡藩公議人・公用人を務めて政府要人と交流する。

明治3年（1870）、奥羽脱兵謹慎人の請取に奔走する。

金谷開墾方頭取並となって菊川の月岡に住まいし、士族授産の大事業にあたる。

### 山口の賢県令

明治5年（1872）、明治政府に出仕し、三瀨県（福岡）権参事・山形県参事となる

明治8年（1875）、木戸孝允の推挙により、山口県令となる。明治9年の前原一誠の乱、明治10年の町田梅之進の乱を鎮定するなど、不平士族の反乱鎮圧に尽力。

明治14年（1881）、元老院議官となり、中央にて活躍する。ある会議の折、山田顕義（長州閥）から旧幕臣として罵倒され、毅然として吐かれた唾をぬぐって返したとのエピソードがある。

明治16年（1883）、地方巡察使として1府8県を巡察する。静岡県立図書館に残る『関口元老院議官地方巡察復命書』は、当時の地域の民情を伝える貴重な資料である。

### 静岡県令から知事へ

明治17年（1884）、地方の令は他貫の者を充当するルールを破り、難治県といわれた静岡県の県令となる。父祖遠州桜が池池宮神社神主家の出。国情の異なる広大な面積を有し、大井川や天竜川などの改修に追われた静岡県は、財政難に苦しめられ、旧幕臣など困窮する士族への対策が必要であった。関口は、「栄誉なことであり、当時の事情から辞退できなかった」と述べている。



明治 18 年（1885）、県の土木事業として、天竜川治水のため遠州杜山隧道を開いて磐田に用水を引き、海水防止と塩害除去のために富士沼川に石水門を建設。また、熱海梅園を設置し熱海温泉観光に力を入れる

この年は「明治の飢饉」といわれ、救荒図書や飢饉関係の古文書、絵図を収集して、研究を重ねている。

大日本報徳社の岡田良一郎と県政・国政を論じている

明治 19 年（1886）、私費で収集した図書を一般に供すべく、久能山に久能文庫設立を計画、現在、「久能文庫」として、県立中央図書館に保管されている。

この年、府県制改正により、初代静岡県知事となる

明治 20 年（1887）、新庁舎建設議決

## 良二千石の評

明治 22 年（1889）、憲法発布式参列

同年 4 月愛知県招魂社参列のおり、列車事故にあい破傷風にかかる。特旨従三位 5 月死去、静岡臨濟寺埋葬。参列者 5 千人。中村正直は、静岡浅間神社境内に立つ関口隆吉の顕徳碑に中村正直は「良二千石」と評し、その人となり「沈毅寡言、天性忠孝、寛厚剛直、強記博洽」と賛辞を送っている。

子どもに、高等工業学校長を務めた関口壮吉、広辞苑の編纂で知られる新村出などがいる。

参考文献 八木繁樹『関口隆吉の生涯』（1983 年）

静岡県立葵文庫『関口県令記念 明治初期名士書簡集』（昭和 4 年 5 月）

故関口隆正『関口元老院議官地方巡察復命摘要』（昭和 13 年 5 月）

静岡県立中央図書館『関口隆吉旧蔵明治初期名士書簡集』（昭和 58 年 3 月）

関口隆且『関口家文書追贈の記』（昭和 59 年）

静岡県立中央図書館『静岡県立中央図書館久能文庫目録増補改訂版』（平成元年 10 月）

静岡県立中央図書館『久能文庫蔵 関口隆吉関係書簡集』（平成 21 年 10 月）

# 今 学ぶ 関口隆吉の国づくり

・・・大学ネットワーク静岡共同講座・・・

## 1 関口隆吉の経歴と評価

1836年（天保7年）生まれ。静岡県の初代知事として、静岡県や地元  
に多くの功績を遺した幕末の幕臣であり、明治の政治家である。また、子孫  
の多くが、教育者をはじめ様々な分野で活躍している。静大の前身である浜  
松高等工業学校の初代校長の関口壮吉・広辞苑の編纂者 新村出などである。

- ・ 地元の歴史家 八木茂樹氏は、著書「関口隆吉の生涯」の副題で、**幕末・維新の隠れた偉傑**と評した。
- ・ **「静岡県の県民の日」**の制定を機に、菊川市長の太田 順一氏が、三戸岡道夫・堀内永人に依頼し、「初代静岡県知事 関口隆吉の一生」を発行した。
- ・ 昨年「しずおか・関口隆吉を敬慕する会」発足

## 2 関口の功績

### 関口隆吉の足跡・表舞台へ



### 3 関口（先人）のメッセージを知る

- 国（地域・静岡県）づくり
    - ・国を憂い、徳川に忠誠を尽くし、静岡県の基礎づくり
    - ・静岡県県令から初代の知事として、発展の道づくり
- 「メッセージ」

- ・争いのない社会が前提
- ・静岡県の東・中・西一体性の確立は大変

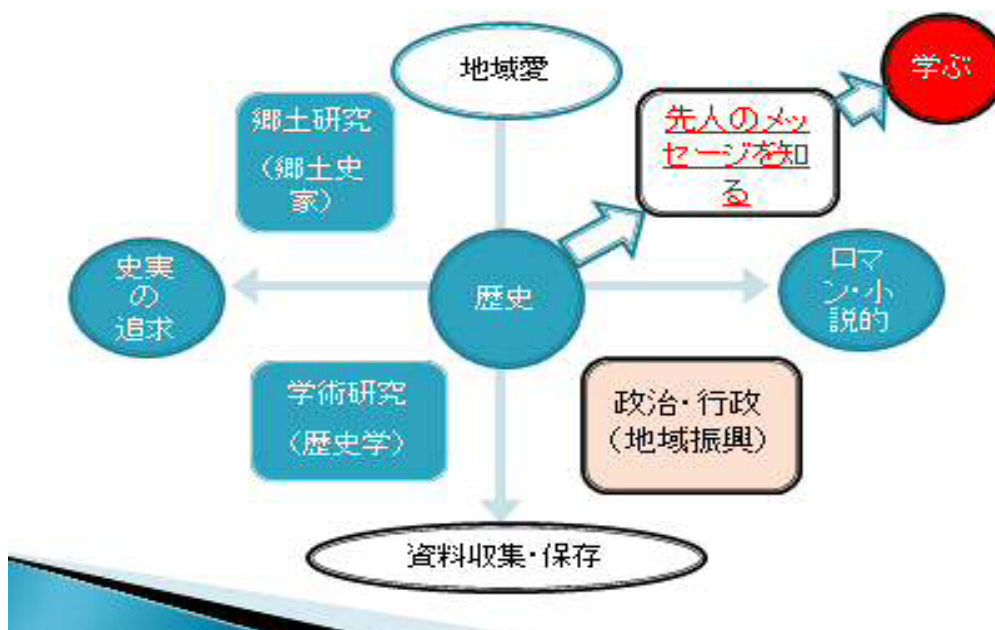
人づくり

- ・静岡県初の女学校「静岡女学校（英和女学院）」設立
- ・子孫の「静岡県」における貢献・活躍

「メッセージ」

- ・新しい行動には柔軟性と自由
- ・若手や女性の考え方を尊重

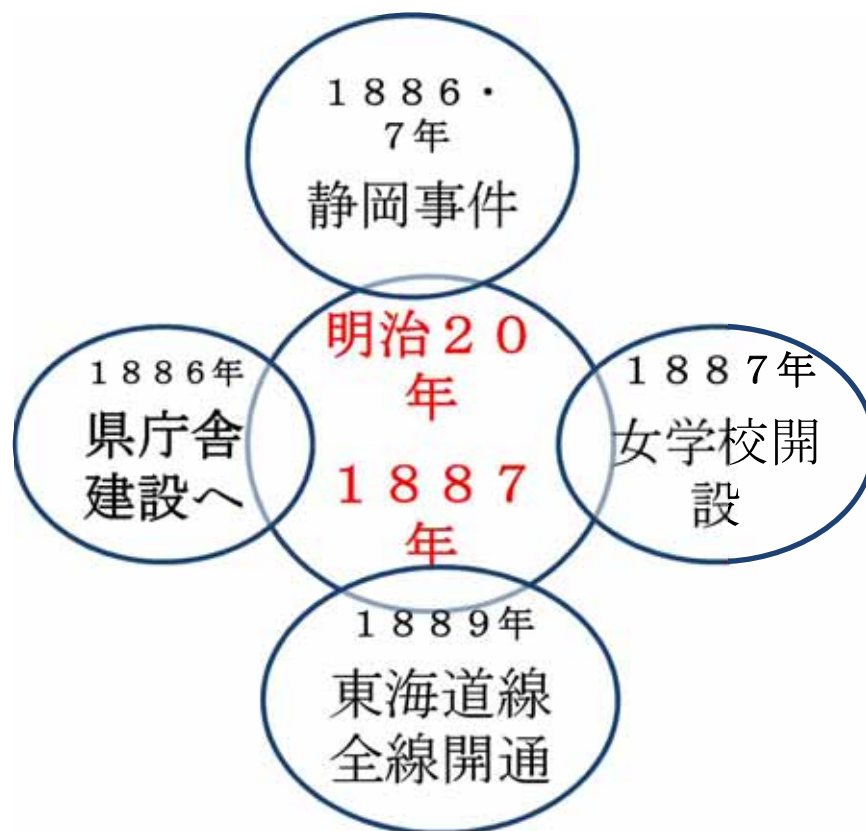
### 4 先人のメッセージを「知り」「学び」「行動する」



## 5 歴史には「偶然や必然」があり、「謎」がある

### (1) 時代の節目・・・10年ごとのしずおか

- 1868年(慶応4)「徳川宗家のしずおか移住」  
駿府藩・韮山県・堀江藩 藩主→藩知事(新政府の地方官)
- 1876年(明治9)府県統廃合 静岡県誕生  
1884年 関口隆吉 静岡県令(3代)
- 1886年(明治19) 静岡県知事(初代)



### (2) 人との出会い

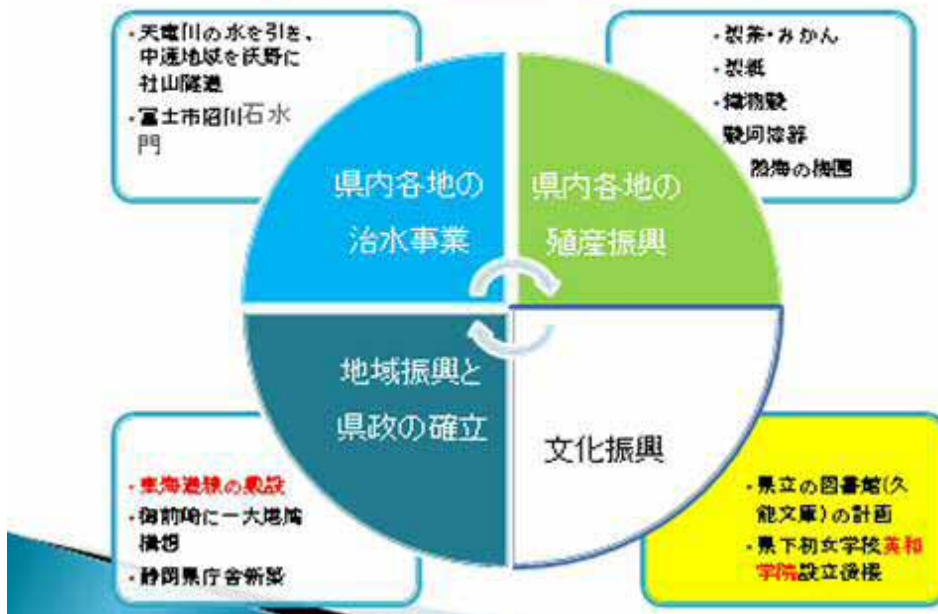
- 若いころ・・・斎藤弥九郎道場入門・・・木戸孝允をはじめ長州藩の人脈
- 青年期・・・山岡鉄舟等・・・徳川家を守る旧幕臣との結束
- 壮年期・・・徳川慶喜(再会)・・・静岡県知事と「徳川家の再興」

## 6 静岡県令から知事（静岡県の基礎・道づくり）

### 「しずおか」発展への基礎づくり



### 「しずおか」発展への道づくり





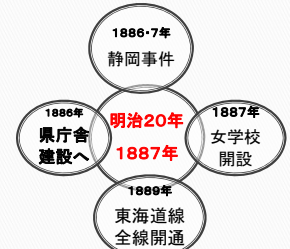
# 今 学ぶ 関口隆吉の国づくり

大学ネットワーク静岡共同講座

歴史には「偶然や必然」があり、「謎」がある

## (1) 時代の節目

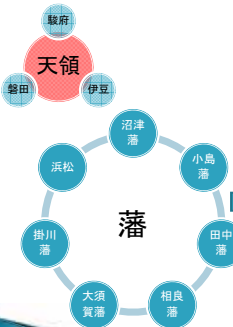
- 1868年(慶応4) 駿府藩・韮山県・堀江藩  
・「徳川宗家のしずおか移住」  
藩主→藩知事(新政府の地方官)
- 1871年(明治4)「県の統合」  
足柄県・静岡県・浜松県  
・・・静岡県・浜松県
- 1876年(明治9)府県統廃合  
静岡県誕生



1876年 静岡県誕生

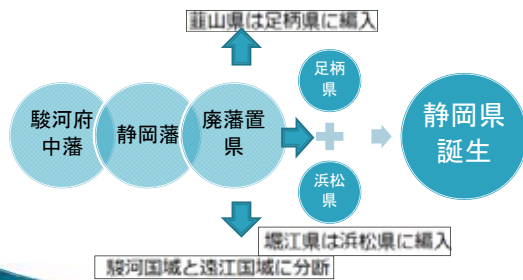
1884年 関口隆吉 静岡県令(3代)  
1886年 静岡県知事(初代)

## ① 国づくりからみて...「偶然や必然」と「謎」 江戸時代から明治の静岡県



- ・沼津藩(3万石) 上総国 菊間へ  
城+城下町 水野忠誠
- ・小島藩(1万石) 上総国 桜井へ  
城なく陣屋 滝脇(松平)信敬
- ・田中藩(1万石) 安房国 長尾へ  
城+城下町 本多正納
- ・相良藩(6.7万石) 上総国 小久保へ  
城+城下町 田沼意尊
- ・横須賀藩(3.5万石) 安房国 花房へ  
城+城下町 大須賀忠政(6万石)
- ・掛川藩(6万石) 上総国 芝山へ  
城+城下町 太田資美
- ・浜松藩(6万石) 上総国 鶴舞へ  
城+城下町 井上正直

## 廃藩置県から静岡県誕生

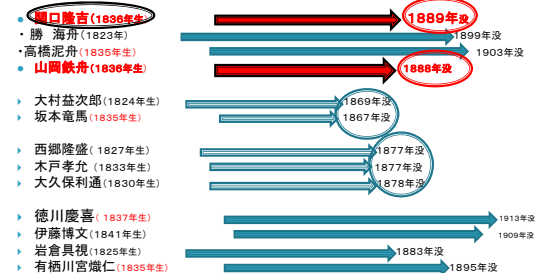


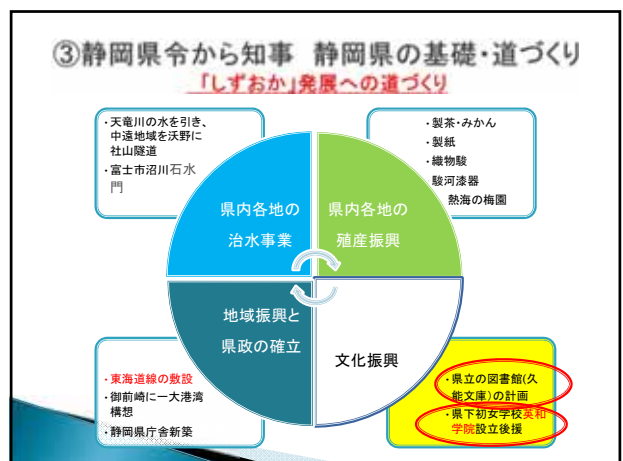
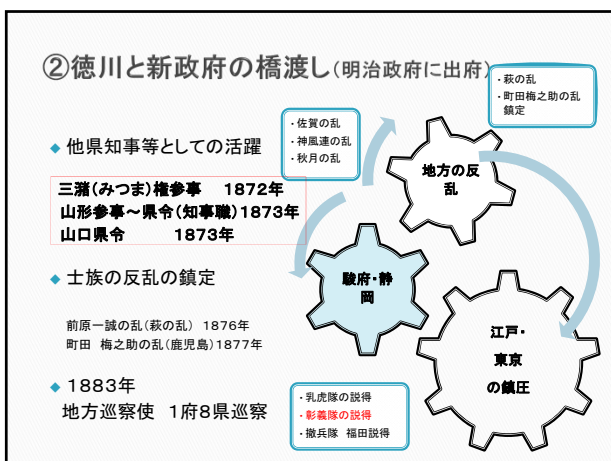
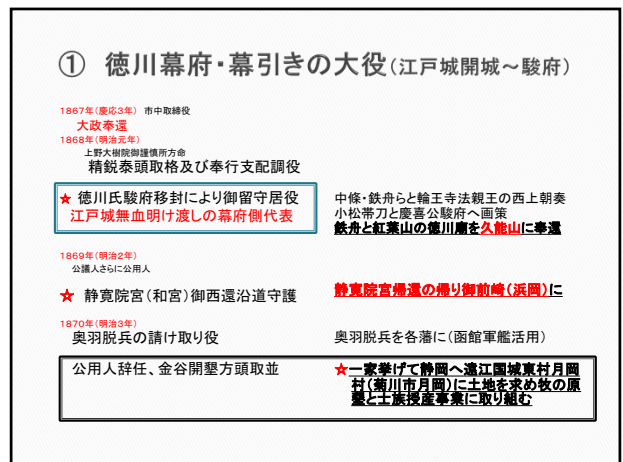
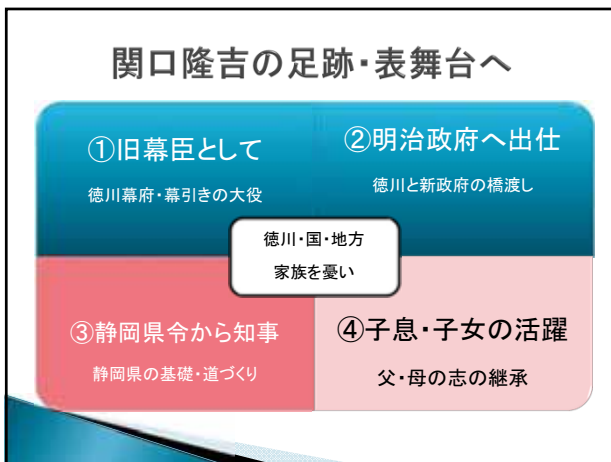
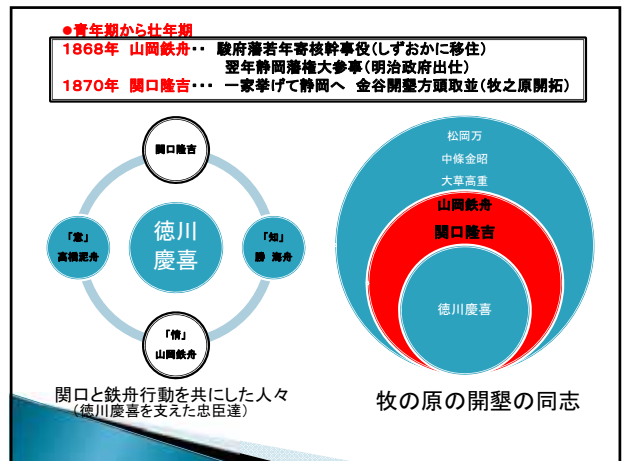
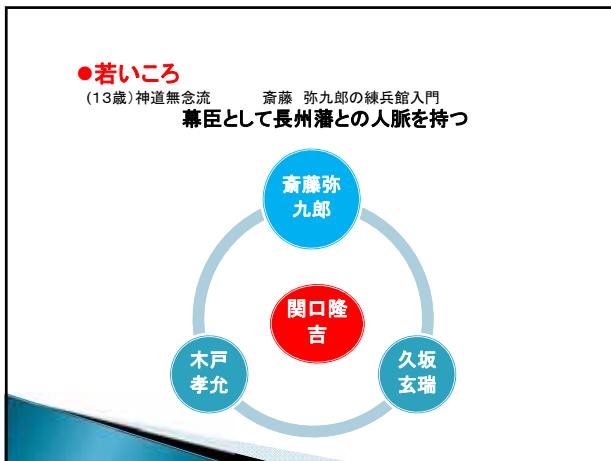
## 明治22年4月1日(市政・町村制施行)

市は、静岡市のみの時代(1市31町305村)  
郡は、23郡



## (2) 人との出会い...「偶然や必然」と「謎」 明治維新を徳川から支えた人からの人脈

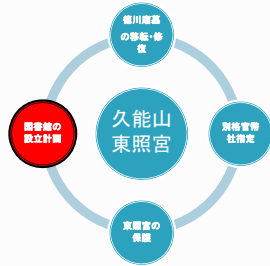




## 久能山東照宮

…鉄舟・関口コンビが残したもので知る「忠義」…

- ・1869年1月明治新政府から「江戸城紅葉山徳川家祖廟の移転の指示」静岡藩から関口と鉄舟が責任者として任にあたり移転。
- ・江戸城にあった「紅葉山文庫」所蔵の徳川家代々の貴重な記録・古文書・書籍(とくに、幕臣 近藤重蔵の北方領土防衛の重要件を扱った書物に注目)の保存のため久能山に図書館設立計画
- ・1888年  
久能山東照宮 別格官幣社指定  
(国家に功労のある者を祀る官幣社)  
静岡浅間神社 国幣小社  
(国土経営に功績のあった神をまつる神社)



久能山に図書館の建設計画

久能山東照宮・別格官幣社

## 静岡岡英和女学院の誕生

…関口が苦慮した女学校の開校 静岡初の女学校…

- ・1880年(明治13年)  
静岡師範学校付属女子模範学校・廃止
- ・**平岩愼保** 熱意と先導者の存在  
(理解者・支援者達)
- ・**子女・次女(ます)、隆正夫人(操)**
- ・**旧幕臣のキリスト教信者(江原素六等)**
- ・伊志田友方大書記官(副知事)と子息  
(静岡大務新聞社主・関口の令甥)
- ・**静岡バンドの人達(山路愛山など)**
- ・佐倉信武  
(静岡大務新聞社主・関口の令甥)
- ・**小林年保**(初代静岡商工会議所会頭  
35銀行頭取)
- ・**経済人(尾崎伊兵衛・宮崎総五・野崎彦左衛門)**

1887年(明治20年)10月22日  
「静岡英和女学校設立總會」  
仮議長 **関口隆吉**  
初代校長 佐倉 信武  
(中村正直の同人社に学ぶ)  
校長 カニングハム  
(カナダ・メソジスト教会派遣)

11月26日「開校式」  
私立静岡女学校の開校

1903年 「静岡英和女学校」  
創立以来の校名変更

カナダ・メソジスト教会と日本人教生の共同経営

## 静岡岡英和女学院開校当初の生徒達

入学資格は10歳以上で尋常小学校卒業の学力があるもの

- **関口知事** 次女 **ます**  
長女 操(関口隆正夫人)
- **初代校長 佐倉清武**夫人 **こと**
- **伊志田友方** 娘  
徳川藩医師 柏原学而 娘 直
- **山家一松** 孫 **や**
- 静岡警部 鞍智鼎 娘 **真砂**
- **江原素六** 娘 **夏**(福井家)
- **羽山ひさ**(沼津豪農江藤林太郎夫人)

旧幕臣関係の子女

- **丸尾文六** 孫 **いね**・くわ姉妹  
「いね」は第1回卒業生(水野家)  
子息サンケイ新聞社主 水野成夫
- **足立孫六** 孫 **光子**(佐分利家)
- **三橋四郎(孫六の兄弟)**娘さわ
- **天野廉** 娘 **遊佐**(海野家)  
遺児 海野厚は「青くらべ」の作詞者
- **天野家親族** 秋野種(馬場家)

地方の名家(豪農層)の子女

## 子息・子女の静岡での活躍

…父・母の志の継承…

- ・長女 操 英和学院生徒  
夫妻嗣子 隆正 静岡中学校  
師・台湾総督府通訳  
(長男)泰 横浜市大学長
- ・次女 ます 英和生徒  
(夫 山田隆一郎)
- ・長男 壮吉 **浜松工業初代  
校長(静大前身)**  
(長男)隆克 開成高校長
- ・四女比那(夫本多鉄太郎)
- ・六女機子(夫神山栄三郎)

妻(山田)綾(睦)関係  
茶道宗師流家系の娘

- ・次男 **出(新村家に養子)広辞苑  
の編者・文化勲章受章**
- ・三女 八千代(夫 三竹万吉)
- ・三男 周蔵(加藤家に養子)  
(静岡中学全国優勝監督)
- ・五女 信子(夫 田中隆三)
- ・四男 鯉吉 **富士山測候所建設に  
携わる。東京天文台所長**  
(長女領子 夫 朝永振一郎)
- ・七女 すえ(夫 塚本卯太郎)

(出典:静岡新聞発行 関口隆吉の一生)

妻(大塚)静子関係

## 関口の魅力を知り・感じる

### ・久能文庫の設立を目指し

『いかに祖先が苦心して書物を集めても、子孫が愚かで無学・遊び呆けていれば、祖先の愛読書なども売り払い、その金で生活の一時はしのぎをして平然としている。こうして貴重な書物が離散し、行方不明になっていくことは世間によくあることであり、大変嘆かわしい。』

### ・鉄道事故に際して

『東京から医者と呼ぶのではないぞ、私は静岡県の知事であるから、静岡の医者に治療してもらいたい。』

### ・死を覚悟して重篤な病床から、現職の知事として中央政府に提言

『近代日本にとって、地方の育成・強化こそ最大重要な国務であるから諸官の渾身の努力を切望する。』

## 関口隆吉の評価は県民に

関口の功績を称える2つの顕彰(徳)碑

### ◆静岡市・浅間神社にある顕彰(徳)碑

篆額(題額)	撰文	筆
有栖川熾仁(東征軍総督)	中村正直(西国立志編の編纂)	巖谷修(明治3筆の1人)

### ◆菊川市・洞月院にある顕彰(徳)碑

篆額(題額)	撰文	筆
勝 海舟(旧幕臣)	重野安綱(大日本編年史の編纂)	新村 出(子息)



屋敷跡の北側に  
祀られる八種神社



笑顔の題字は勝海舟の作。



洞月院に隣る隆吉の顕徳碑

今も牧之原を見守る  
新番組隊長 中条真昭



戸数五十戸の寒村  
堀之内村に  
駐車場の設置を囑願



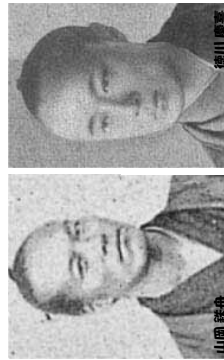
菊川市月岡  
現在の関口屋敷跡



顕徳碑が残る洞月院



慶喜や鉄舟とも深い結びつき



徳川慶喜

山岡鉄舟

そして、富士山静岡空港の開港



月岡の関口屋敷図



月岡に祀られる顕彰碑



牧之原開拓の歴史を  
今に伝える



牧之原開拓の巻  
藤澤勇氏

深蒸し茶発祥の地 菊川



この街に息づく関口隆吉の足跡  
～ 菊川、そして牧之原台地へ～  
菊川市長 太田 順一

関口さんは地元での誇り  
～月岡の遺徳顕彰会～



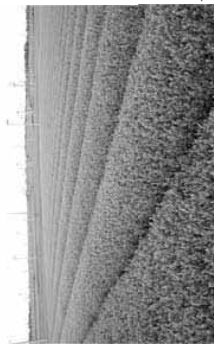
関口遺徳顕彰会  
会長 藤澤 勇 氏

牧之原開拓の歴史を  
今に伝える



牧之原開拓の巻  
太田 順一 氏

先人が心血を注ぎ開拓し、  
大茶園となった牧之原台地

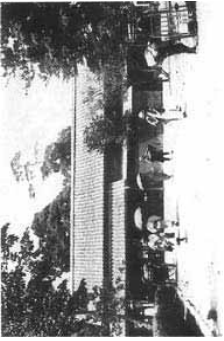


関口県知事に「停車場設置願」を提出



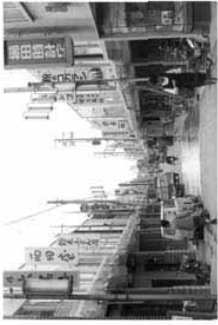
17

大正12年頃の堀之内停車場



18

駅を中心に栄えた旧堀之内  
(昭和40年代)



19

民間投資で様変わりする街並み  
～宮の西土地区画整理事業～



20

民間投資で様変わりする街並み  
～ 駅北 遠州鉄道商業ゾーン ～



21

春のセンバツ出場！ 常葉菊川



22

ご清聴ありがとうございました。



23



# 今学ぶ 関口隆吉の国づくり

静岡県の初代県知事として知られる関口隆吉は、幕末から明治期において、時勢を見極め、わが国の近代国家建設にあたっては、全力を挙げてこれに取り組みました。その功績は大きく、現代に多大な影響を与えています。

本講座は、関口がいかに静岡県の発展に尽力したか、具体例を挙げながら考え、今後の在り方を探ります。



関口顕彰碑  
(菊川市月岡)



関口隆吉肖像画(所蔵:静岡県)

日時 平成25年 **2月16日(土)**  
13:00 ~ 16:30(開場12:30)  
会場 菊川市総合保健福祉センター  
(プラザけやき) 2階201会議室  
菊川市半済1865番地 (JR菊川駅より徒歩5分)  
定員 100名  
(事前申込不要、直接会場にお越しください)  
参加費 **無料**

## 内容

1部 基調講演「関口隆吉と関口家文書」  
上野 秀治 (皇學館大学教授)

## 2部 シンポジウム

コーディネーター 天野 忍 (常葉学園大学教授)  
パネラー 上野 秀治 (皇學館大学教授)  
花森 憲一 (学校法人静岡英和女学院理事長)  
太田 順一 (菊川市長)

<敬称略>

静岡県立中央図書館の協力により関係資料を会場内に展示します

主催 静岡県、大学ネットワーク静岡  
共催 常葉学園大学、静岡英和学院大学  
後援 静岡県教育委員会、菊川市、菊川市教育委員会  
協力 静岡県立中央図書館、関口隆吉を敬慕する会、関口隆吉顕彰会

お問合せ

大学ネットワーク静岡 (静岡市葵区鷹匠3-6-1もくせい会館2階)  
電話054-249-1818 メール dns@daigakunet-shizuoka.jp



駐車場の関係上、乗り合わせでのご来場にご協力ください。

## 近代を開いた男 江川坦庵リレー講話

## 実 施 事 業 の 概 要

1 共同公開講座の名称：

大学ネットワーク静岡共同公開講座「近代を開いた男 江川坦庵リレー講話」

2 開催日時：平成 25 年 2 月 23 日（土）13:30～15:30

3 開催場所：日本大学国際関係学部三島駅北口校舎 山田顕義ホール  
（三島市文教町 1-9-18）

4 事業の概要と成果：

（1）概要

幕末の激動期に行政手腕を発揮した江川坦庵の業績を学ぶ

（2）参加者

一般県民など計 230 名

（3）プログラム

・挨拶

佐藤 三武朗（日本大学理事・国際関係学部長）

・「激動の幕末と坦庵—江川文庫総合調査を終えて」

湯之上 隆（静岡大学人文社会科学部教授）

・「江川坦庵と近代兵学」

浅川 道夫（日本大学国際関係学部准教授）

・「代官江川坦庵の行政手腕」

橋本 敬之

（日本大学国際関係学部非常勤講師・NPO 法人伊豆学研究会理事長）

・意見交換・質疑応答

※公益社団法人江川文庫、NPO 法人伊豆学研究会の協力により関係資料等の展示を行った。

## 【激動の幕末と坦庵—江川文庫総合調査を終えて】

湯之上 隆（静岡大学人文社会科学部教授）

今回の講義の柱は2つ。1つは江川文庫総合調査の経過について、もう1つは江川坦庵という人物の全体像についてです。

はじめに、江川家の歴史を簡単に振り返りますと、江川氏は元々、大和国宇野（現在の奈良県五條市）に居て、そこから1156年以後に伊豆に移り住み、当初は宇野と名乗っていました。後に江川を名乗るようになります。江川氏は江川酒という酒を作っていて、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康も飲んでいました。家康の手紙には、「合戦の苦労を吹き飛ばす程、美味しい酒だ」とあります。

江川氏の歴史に大きな転換が訪れましたのは、28代・英長の時の秀吉による小田原の北条氏征討作戦です。その時に、江川氏は徳川につくのか、北条につくのかで、家の中が分かれていましたが、結局、家康側につくことになりました。江川氏は江戸時代を通じて、ほぼ代官職を世襲していました。テレビでは、悪代官がよく出てきますが、実際は悪さをする とすぐに罷免されていました。江川氏は江戸時代きってのほぼ世襲をした代官として珍しい存在です。

では、江川文庫研究の全体構想とその目的についてお話します。江川家で最も著名な人物は江川太郎左衛門英龍、坦庵です。江川家の本拠は葦山で、江戸にも何度か移転はしましたが、屋敷がありました。明治に入ると、坦庵の子英武が、岩倉使節団に同行してアメリカに渡り、軍事技術を学んできます。また、江川家を支えた重要な人物に柏木総蔵がいます。彼は後に足柄県令になるのですが、非常に多彩な人脈を持っていました。江川家の繁栄は、当主はもちろんのこと、それを支えるブレーンが非常に優れていたことが大きいでしょう。

さて、江川家には古文書・書画・典籍（和書・漢籍・洋書）・工芸・染織・古写真・武器類等、多岐に渡る膨大な資料が残されています。前当主・澁二氏の依頼によって静岡県を調査主体とし、江川文庫調査が開始されました。第一次調査分を平成18年度に3冊、平成23年度に4冊の報告書を刊行しましたが、その後もあちこちの蔵から資料が出てきたため、それらの調査をし、24年度に補遺編1冊の総計8冊の報告書を刊行して調査は完了します。

江川家の支配地の伊豆を中心とした駿河・相模・武蔵・甲斐の5カ国の幕領のうち、地域の重要な史料が歴大に存在していました。これは、貢租、民政、司法・警察、財政、経済政策、交通、自然災害、海防、農兵等、幕領支配のあらゆる側面が幕府行財政との関わりにおいて、更に明治新政府への移行期における国家行政のあり方を学術的に検討・評価する上で、他に比肩するものがない、質・量ともに全国屈指のレベルを誇るものであることは間違いないとされています。

次に江川文庫研究の特色の話に移ります。江川家の家史編纂は35代英毅によって始められました。これは幕府からそれぞれの家の家譜の提出を求められたことがきっかけで始まりましたが、十分な調査はできませんでした。その後、孫の英武に引き継がれました。英武は渡米して軍事技術を学んだ後に、日本に戻ってきて、内務省・大蔵省で働きます。その後辞職して、葦山に戻り、家譜の編纂を行うのですが、こちらも途中で終わってしまいます。そこで、前当主の澁二氏の依頼を受け、平成13年度に予備調査を実施し、14年度から本調査を始めました。

江川文庫の大きな特徴は5万点もの古文書が残されていることです。これらの特色は4点にまとめられます。1点目は、これまで必ずしも十分に明らかにされていなかった幕府勘定所と代官との関係を通じて、幕府行財政の実態を具体的に解明できることです。2点目は高島流砲術の伝授をうけ、幕府鉄砲方を兼帯した江川坦庵の鉄砲研究と、佐賀藩との技術交流による反射炉の製造、台場の構築を検討し、幕府側の軍事技術、海防・軍事政策を分析することにより、日本近代化の経緯を幕府側から明らかにできることです。近代化の経緯は薩摩藩や長州藩の視点から見られることが多いのですが、これは事的一端に過ぎません。江川坦庵が行った軍事改革は幕府の行った近代化政策の一環でした。この側面は力説しておかなければならないと思います。3点目は帳簿類の分析によって、江川家の領域の情報収集システムを究明できること。4点目に江川氏の文人としての活動の実態を分析できることです。もう少し、1点目だけ具体的に説明しますと、江川家文書は単に伊豆という日本の一地方に残された文書ではなく、多岐にわたる史料群からみて、幕領支配と幕府行財政との関わりを全体として把握することが可能な、幕府による全国行政の典型とみることができる、と私は評価しています。

そして今後の課題についてです。まず、1番目に総合調査の終了と調査目録の刊行。調査目録は既に7冊刊行されていて、予定されている補遺編1冊を含む目録を8冊刊行というのは全国でそう多くはありません。2番目に、全国どこからでもパソコンで江川文庫の文書を閲覧できるようにしたいというのが江川滉二氏の希望でした。そこで、国文学研究資料館などに働きかけ、その結果、第一次調査分の古文書約2万点は、国文学研究資料館で公開している「伊豆韮山江川家文書データベース」で見ることができます。写真については、データの容量の問題から全ては難しいのですが、約1800点は画像も入っています。いずれはこれも増やしていき、第2次調査分の2万点についても、データベース化をしたいと思っています。3番目に、江川文庫資料の公開。江川文庫の資料は大変貴重なので、皆さんに公開する機会はなかなかないと思います。従って、研究者や一般の方に公開するために、写真を撮り進めています。4番目に、ここで調査は終わりましたが、これを建物に譬えて言いますと、基礎工事が出来上がった状態で、その上に建てる建物はまだです。従って、これらの困難な作業を若い研究者たちに託したいと思っています。そのためには、講演会、展示会、シンポジウム、そして資料集の刊行もしたいと考えています。

私が最も重要だと考えているのは5番目の収蔵・閲覧・展示施設の建設です。極めて重要な資料がざっと見積もって6万点あります。これを万全の保存体制で、後世に伝えていく義務があります。その為に近々、収蔵庫を建設するという事。これはあくまで収蔵する為の施設なので、これを今後、関心のある方々にご覧いただく施設ができなければなりません。伊豆の国市民・静岡県民や国民に公開する為の施設、博物館がどうしても必要です。これは単なる博物館ではなく、いわゆる「伊豆学」を調査研究するセンターとしての役割も果たさなければならぬだろうと考えています。そして、皆さんご承知の通り、韮山反射炉は世界遺産の候補となっていて、これと連動させた動きも今、起こっています。これを一体として、江川家の文書の分析も進めつつ、平成25年度には委員会の発足も決まっているので、反射炉の研究も進むであろうと思います。

最後に改めて、調査が終わってこれからは研究を進め、教科書などに書いてある事実を見直し、修正していかなければなりません。そのための研究施設をぜひ建てたい。そして、坦庵とその時代の歴史に学ぶことが大切です。坦庵の思索と実践は我々に多くを語りかけています。それに耳を傾けることで、今とこれからを考えるための歴史の豊かな泉でもあります。



江川坦庵が幕末の日本に導入した近代兵学とは、19世紀の欧米で発達していた軍事学を指すものです。坦庵が近代兵学との接点を持ったのは、代官に就任して幕府の海防政策と関わるようになった時のことです。坦庵は長崎の高島秋帆の許に手代を派遣して高島流砲術を学ばせ、のちに坦庵自身も免許皆伝となりました。それを機に坦庵は葦山での教授を始め、各藩から入門者が殺到しました。もともと高島流砲術は幕末に創製された砲術の一流派で、西洋式の火砲運用術と歩兵戦法を組み合わせたものでしたが、葦山では新たにもたらされた軍事知識を加味しつつ、流派的枠組みを超えた兵学へとこれを発展させていきました。西洋式の砲術は、平射・擲射・平射といった弾道学に基づく火砲と、目的別に開発された各種の砲弾を組み合わせて、合理的かつ効果的に火力を発揮する点に特徴がありました。また歩兵の戦法についてみると、前装滑腔銃（銃口から球形鉛弾と火薬を装填するため、操作に時間がかかり射程が短い）を使用するため、密集隊形の銃陣を指揮・運用することに重点が置かれていました。

また、坦庵は品川台場の設計と施工に関わりました。ペリー来航をきっかけに品川台場の建設にとりかかり、およそ1年半で6基（海上に5基・陸附1基）の台場を竣工させました。当初の予定では11基設置する予定でしたが、日米和親条約を結んだこともあり、台場の建設は6基で打ち切られました。品川台場は、オランダの築城書を参考にしながら、江戸湾内海の海底地形（艦艇の航路）をもとに備砲の射界を設定するなど、当時の軍事技術を踏まえた合理的な設計がなされていました。台場の建設と並行し、湯島馬場鑄砲所において青銅砲の鑄造がおこなわれました。また、それと同時期に葦山反射炉の建設も進められました。これは鑄砲の資材を、高価で不足しがちだった銅から、安価で多量に供給できる銑鉄へと転換しようとする試みでした。当時ヨーロッパでも、同様の事情から銑鉄製の大型砲が主流となりつつありました。銑鉄製の大型砲を鑄造するには1100度以上の熱に耐えられる溶解炉が必要で、耐火煉瓦を積み上げて作った反射炉はそうした機能を持つ造兵施設でした。

坦庵はいろいろな軍事技術の研究も積極的に行いました。ゲベールと呼ばれた洋式銃は、日本に伝来した当初点火機構が燧石式で、風雨に弱いという問題がありました。1842年にオランダ軍は雷管式小銃を採用しますが、これとほぼ同時期に坦庵はドンドル（Donder vuur・雷汞）の製造に成功しています。また着発弾の開発にも力を入れました。坦庵はオランダ軍艦スムービング号からの情報入手には失敗しますが、その後独自に研究を重ねて着発弾を開発しました。現在江川邸には、着発弾の弾殻と推定されるもの（信管を欠失しているため具体的な構造は不明）が残されています。

日本語の号令詞を定めたことも、坦庵の功績として注目されます。高島秋帆はオランダ語での片仮名号令を使用していましたが、それを日本語化する先鞭をつけたのが坦庵です。日本語の号令詞はその後改良され、今日まで引き継がれています。また、兵糧パン（乾パンの原型）の製造も行いました。最初は石窯で実験を行ったようですが、最終的には鉄鍋を用いる製法になり、日本各地に広まっていきました。戊辰戦争時には携帯兵糧として、いくつかの藩が実用化していました。

今回の江川邸における史料調査によって見いだされた文書や伝世品を通じ、従来「伝説」のような形で語られてきた坦庵の近代兵学に対する取り組みの多くが、いみじくも史実として確認されることとなりました。さらに研究を深めることにより、その実像を明らかにしていきたいと思えます。

## 【代官江川坦庵の行政手腕】

橋本敬之（NPO 法人伊豆学研究会理事長、日本大学国際関係学部非常勤講師）

坦庵公がリーダーとしてどのように人を育て動かしたか、また代官としていかなる存在だったかということをお話ししたいと思います。はじめに、江川家に勤めている関係でどうしても“坦庵公”と呼んでしまいますが、その点ご了解いただきたいと思います。

さて、まず坦庵公の基本情報ですが、享和元年（1801年）5月13日に生まれ、亡くなったのは安政2年（1855年）1月16日です。数え年だと55歳ですが、満年齢だと53歳と、かなり若くして亡くなっています。実は坦庵公は次男であり、長男は英虎という方です。英虎は代官見習いまで務めたところで亡くなってしまいます。その後、江川家36世として坦庵公が35歳で代官に就任しました。通称は太郎左衛門。字名は九淵、または篁齋と言います。

代官は国家公務員なので給料制です。給料は150俵と言われ、これは手代の家族を含め70人養える程度で、その人数は非常に少なかったのです。代官ですから知事の仕事のほか、幕府・国の機関でもあるので行政的な仕事をすべて賄わなければなりません。税金の取り立てから街道宿場の整備・管理、御林の管理、治安の維持、警察的な役目まですべて一人で回していました。坦庵公の手代たちはどういう風に仕事をしたかという点、一つの仕事に複数の者が関わり、また一人の手代が複数の仕事に関わるというように、手代一人ひとりが管理・責任分担を負い、また誰かが欠けても別の人を補える仕組みをとっていました。特に税金関係の仕事量は膨大で、まず税の徴収はその運用も含め重要な仕事でした。坦庵公の時代には、だいぶ金使いの経済になってきており、当時年貢は三分の一を現金に替えて納めさせています。お金の経済が動き始める中、主食として重要な米と共にお金の財政をどうしていくべきか、幕府・代官の手腕が問われていました。また税金運用という点では、河川改修などの際には税金を別途取り立て、例えば三島大社や箱根の石畳の改修、あとは宿場の管理運営などに当てています。やはりお金の管理も重要な任務でした。新貨幣発行の折には、代官は金銀引替御用人を立て、お金の両替をするという仕事をしています。

次に支配地の治安維持に関してですが、江川代官が伊豆半島を全部治めていたと思っておられる方もいると思います。実は伊豆半島8万6千石のうち、江川家が治めていたのは1万2千石です。あとは他の旗本の領地でした。しかし、例えば旗本領の村で旗本の農民が博打をやっていたら、江川の手代がその場で処分するという資料が残っています。そうやって広く地域全体の管理にも努めていたようです。

それから坦庵公は当時押し寄せる外国船への対応も引き受けています。有名な話では、下田にイギリスのマリナー号が入ってきた際に、普段は当てツギだらけのもんぺを着ているような儉約家の坦庵ですが、このときは金銀の刺繍をつけた大変立派な袴を着て、自分が幕府の代表だということでマリナー号に対して退帆を命じます。そのときに家来にも金銀装飾の刀をつけさせてたくさんのお金を使ったんです。ここぞというところではお金を使う必要があることを坦庵公は実践して見せました。

以上述べたように坦庵公は非常に優秀な人物で、色々なことをしています。中でも絵を描くのが得意で、人々のあらゆる生活風景の絵をよく描いているんですが、なんと博打をやっている人々の絵もありました。取り締まる立場なのに、なぜその絵を描いているのかなと非常に興味深いのです。いずれにしても、人を見て描き、その人物の人間性を観察し

ていたんじゃないかと思えます。

江川家が地域にとってどのような存在だったかを物語るエピソードでは、幕府が傾いてきた頃、江川家の支配地ではない修善寺近辺の人たちが、もし何かことが起こったら武器を持って駆けつけると言った記録があり、江川家に対する地域の信頼は絶大なものだったことが受け取れます。息子の38代目英武は岩倉使節団としてアメリカ派遣の命が出た際に、幕府よりも自分の支配地の方が大切だという考えにより彼は最初にこれを拒否しています。坦庵公の時代から支配地域を尊重する意識が受け継がれていたのだと思えます。

改めて、今後当時の幕府の有り方を研究するにあたっては、地域・江川家・幕府の資料を三位一体として読み解いていく必要があります。国と地域の間地点である江川家の膨大な資料は大変貴重なものであるのです。具体的には、葦山反射炉による経済効果や坦庵公の時代に大量輸入された銃の輸入ルートに関しても、手がかりとなる資料分析で明らかになってくるでしょう。

講座写真「近代を開いた男 江川坦庵リレー講話」





## 近代を開いた男・江川坦庵 リレー講話

平成25年2月23日（土）午後1時30分～

日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎

山田顕義ホール

### ○ 激動の幕末と坦庵—江川文庫総合調査を終えて

湯之上 隆（ゆのうえ たかし）氏

静岡大学人文社会科学部教授、博士（文学）

主な著書『日本中世の政治権力と仏教』（思文閣出版）『三つの東海道』（静岡新聞社）

『静岡県歴史の道調査報告書—東海道—』（共編著、静岡県教育委員会）

主な社会的活動 静岡県文化財保護審議会副会長、静岡市文化財保護審議会会長

### ○ 江川坦庵と近代兵学

浅川 道夫（あさかわ みちお）氏

日本大学国際関係学部准教授、軍事史学会理事、学術博士

主な著書『お台場 品川台場の設計・構造・機能』（錦正社）、『江戸湾海防史』（錦正社）

『日英交流史 第3巻 軍事』（共著、東京大学出版会）、

『ビジュアルワイド明治時代館』（共著、小学館）

主な社会的活動 熊本市及び玉東町教育委員会の委嘱により、西南戦争遺跡発掘の調査指導を行う。東京都教育庁の委嘱により、東京都近代化遺産総合調査に参加。

### ○ 代官江川坦庵の行政手腕

橋本 敬之（はしもと たかゆき）氏

元公立中学校教諭、現 NPO 法人伊豆学研究会理事長、日本大学国際関係学部非常勤講師

公益財団法人江川文庫学芸員、伊豆の国市・伊豆市文化財保護審議委員

静岡県史、韮山町史、伊豆長岡町史、清水町史などの自治体史編さんに携わる

研究分野 日本近世社会史

主な著書等 NPO 法人伊豆学研究会編『伊豆大事典』刊行、

『伊豆と黒潮の道』（吉川弘文館）共著



湯之上 隆

静岡大学人文社会科学部

江川文庫史料調査主任

## はじめに

伊豆韮山の江川家は、家伝によれば、清和源氏宇野頼親を祖とし、初め大和国宇野（現奈良県五條市）にいて宇野を名乗ったが、親信の時、保元の乱（保元元年<1156>）を機に、伊豆国八牧（山木）郷に移り、**21代英信の時に家名を江川に改めた。**

室町期以降は後北条氏の配下で、私領を認められ、当時、田舎酒の一つとして知られた

**江川酒**の醸造を行っていた。**28代英長**は天正18年（1590）の豊臣秀吉による小田原攻めの際、徳川家康に従い、その功により慶長元年（1596）代官に任用された。慶長6年には韮山城主内藤信成の転封により、江川家屋敷に隣接した城地周辺は一括して同家所有の御囲地となった。以後、**32代英勝**が享保8年（1723）、上納遅滞と不正を理由に、一時代官職を奪われたことがあるものの、**江戸時代を通じて、ほぼ代官職を世襲した。**

\*代官：幕府直轄領（幕領）400万石の年貢徴収・法令伝達・訴訟審理など支配を担い、幕府の経済基盤を支えた。改易等により、断絶したものが多。



## 1 江川文庫研究の全体構想と目的

幕末期の江川英龍（1801-55、太郎左衛門、号は坦庵）を代表的人物とする江川家は、中世領主の系譜を引き、韮山屋敷を本拠とし、江戸にも役所を構え、江戸中後期はほぼ世襲代官、明治に入っても、英龍の子英武が韮山県知事をつとめ、その重臣で豊富な人脈をもって活動した柏木総蔵が足柄県令になるという、日本近世・近代史上の全国レベルの名家である。

中世以来の長い歴史をもつ江川家には、古文書・書画・典籍（和書・漢籍・洋書）・工芸・染織・古写真・武器類等、膨大な量の資料が残されている。前当主・澁二氏の英断により、平成13年の予備調査を経て、静岡県を調査主体とし、国庫補助をうけて14年度から開始された江川文庫調査は、それらすべてを総合的に調査したうえで、目録を作成し、保存のための万全の対策を講ずることを目的としている。23年度に報告書を刊行して、10年を要した調査はひとまず終了した。

坦庵の幕府改革派官僚としての活動は著名であり、軍事技術（反射炉築造・台場構築）、洋学、幕末幕政改革の史料も重要であるが、何よりもまず、世襲代官の性格上、伊豆を中

心として駿河・相模・武蔵・甲斐の5か国の幕領のうち最も戦略的に重要な地域の史料が 厩大に存在し、しかも幕府勘定所（幕府財政の運営、幕領の租税徴収、訴訟取り扱い）との往復史料が豊富である。

江川家文書は、貢租、民政、司法・警察、財政、経済政策、交通、自然災害、海防、農兵等々、幕領支配のあらゆる側面が幕府行財政との関わりにおいて、さらに明治新政府への移行期における国家行政のあり方を学術的に検討・評価する上で、他に比肩するものがない、質・量ともに全国屈指のレベルを誇るものであることは疑いない。この事実は戦後直後からよく知られ、いくつかの学術論文も発表されたが、その史料の整理と公開・活用の課題は近年まで遅々として進んでこなかった。そのため、きわめて貴重な江川家文書の総合的な分析は、学界の重要な課題として残されたままである。

## 2 江川文庫研究の特色

江川家の家史編纂は、35代英毅の時、幕府の寛政重修諸家譜の編纂に関わる家譜提出に伴って着手され、さらに、その孫英武によって継承された。英武は岩倉使節団の随行留学生としてアメリカに渡ったのち、一行とは別れて滞米し、この時撮影した貴重な写真が江川家に残されている。英武は、明治12年（1879）に帰国後、内務省・大蔵省に奉職したが、明治19年、自身の病気もあり、退職して葦山に退隠し、父坦庵を顕彰するため、その事績研究とともに、伝来の書画・典籍の分類整理や表装、古文書の整理と目録の作成作業などを本格的に推進したが、英武の死によって中断してしまった。

戦後、江川家文書の体系的調査に初めて取り組もうとしたのは国立史料館である。古文書の一部には「史料館」のラベルが貼付され、そのうちの一部は「史料館」の封筒に収められて、3,400点の調査カードが作成されている。

国立史料館は、幕府勘定所からの指令を記した「御触留」「御証文類」の他、「御用留」や勘定所への伺書の帳簿類を中心に、3回にわたってマイクロフィルム撮影をし、その数は94リール、62,976コマ、紙焼き602冊にのぼる。これらは、現在、江川家の前当主・澁二氏の意向によって、一般に公開されている。

他方、戸羽山瀚氏は『江川坦庵全集』（江川坦庵全集刊行会、昭和29年。昭和46年再刊、巖南堂書店）を刊行したが、反射炉・海防・造船・台場等に関する史料は多いものの、収録された古文書は少ない。

また地元の仲田正之氏や駒澤大学古文書研究会により調査が行われ、3000番までの目録が残されている。なお、1970年代初めには、洋学史研究会によって蘭書の調査が行われているが、その成果は公表されるに至っていない。

さらに、葦山町史編纂のための調査が継続して実施され、『葦山町史』第6巻上（江川氏の成立 前期葦山代官 中期葦山代官 後期葦山代官、平成4年）・下（後期葦山代官 江川英龍の事蹟 葦山県・足柄県、平成6年）として刊行された。また、静岡県史編纂のための調査も行われ、史料編に一部が収録された（史料編16、近現代一、平成元年）。

しかし、これらの調査では、多くの制約から古文書全点にわたる調査が実施されること

はなく、全容の把握には至らなかった。

約50,000点に達する歴大な文書群から構成される江川家文書研究の独創性と特色は多岐にわたるが、主要なものはさしあたり次の4点にまとめられ、これらの調査・研究が推進されることによって、当該分野の研究の進展に与える貢献と影響は極めて大きいと考える。

**(1) 従来、必ずしも十分に明らかにされていなかった幕府勘定所（幕領の租税徴収、訴訟の取り扱い、幕府財政運営にあたる）と代官との関係を通じて、幕府行財政の実態を具体的に解明できる。**

**(2) 高島秋帆から高島流砲術の伝授を受け、幕府鉄砲方を兼帯した江川坦庵の鉄砲研究と、佐賀藩との技術交流による反射炉の製造、台場の構築を検討し、幕府側の軍事技術、海防・軍事政策を分析することにより、日本近代化の経緯を幕府側から明らかにできる。**

(3) 「御触留」「御証文類」「御用留」など帳簿類の詳細な分析により、代官江川家による広汎な領域にわたる情報収集システムを究明できる。

(4) 英龍に代表される旗本江川氏の教養ある文人としての活動一書跡・絵画・音楽・文芸（和歌・俳諧・生花・蹴鞠<sup>けまり</sup>等）一の実態を分析できる。

上記の調査と併行して進められる研究にあたっては、次の4本の柱をたて、重点的に取り組んでいる。

### 1) 幕府行財政の構造解明

**江川家文書は伊豆という単なる日本の一地方に残された文書ではなく、多岐にわたる史料群からみて、幕領支配と幕府行財政との関わりを全体として把握することが可能な、幕府による全国行政の典型とみることができる。**

この研究の柱では、中世から近世への移行期を含み、代官所文書一とりわけ歴大な量にのぼるため、これまで十分な分析が加えられていない「御触留」「御証文類」「御用留」等の簿冊類一の詳細な分析・考察を通じて、近世全期にわたる幕府行財政の制度と機能を明らかにすることを目指す。

### 2) 軍事技術・軍事の近代化の解明

江川坦庵が代官であった時期、全国における西洋軍事技術のトップの位置を占めていた。史料としては、国産のライフレングマシンとしては他に類例のない木製施条器械、国産の雷管ゲベールや、米国製と思われるポートホーウィツル砲車、カノン砲図・ハンドモルチール図・フリントロック機構図など、世界的に見ても貴重なものが多数残されており、それらの分析を通じて、日本における西洋軍事技術の受容過程を詳細に明らかにし、近代化を支えた軍事技術・軍事の実態を考察する。

### 3) 洋学の研究

江川文庫には、Meijer, Woordenschats (1720年版) 等のオランダ語辞書や多数のオランダ語軍事関係書籍が所蔵されている。1853年ペリー来航後の外圧危機に対応した安政軍事改革については、洋式兵制の導入という側面で長崎海軍伝習所が注目されているが、江川文庫のオランダ語軍事書籍は、KMA/Broese版教科書を通じた軍事改革が、陸軍を中心とする分野において、江戸で進められていたことの足跡として位置づけることができる。これらの書籍の検討により、軍事・医学・薬学等の近代化に与えた意

義を分析し、さらに江川英龍（坦庵）によって進められた「**葦山塾**」における全国諸藩から派遣された俊秀たちの教育の実態についても検討する。

#### 4) 旗本文化の分析

江川氏は、坦庵に代表されるように、政治家であるとともに、音楽・書跡・絵画・文芸（和歌・俳諧）・蹴鞠・生花等の芸術文化の実践者・享受者でもあった。旗本文化の好例とみるべきものであり、中世に溯って、それらの形成過程を具体的に検討する。

調査、データベース作成、研究とならび、江川文庫資料調査の重要な課題は、**資料の公開体制の実現**である。

資料整理が終了し、データベースが作成されても、公開体制が実現されなければ、学界と社会に対して責任を果たしたことにはならない。このことは、調査開始にあたって、文化庁からも強く要請されたことでもある。

他方、これまでの調査では、目録作りの実務に追われ、この課題にまで十分手と頭が及ばなかった。問題は、江川家住宅そのものが重要文化財（建造物）の指定を受けており（昭和33年5月14日。平成5年12月9日追加指定。なお、敷地は伊豆葦山役所跡として、平成16年9月史跡指定）、管理面等から公開の場としてはふさわしくない。

この課題については、**地域住民の理解獲得**が第一なので、江川文庫資料の意義の啓発にいつそう努めるとともに、可能な形の公開のありかたについて、これまでの実績をもとに、財団法人江川文庫および伊豆の国市・静岡県・国にねばり強く働きかけ、解決の見通しをつけたい。

### 3 今後の課題

調査開始以来 10 年目にして、調査はひとまず終了した。今後の課題は、さしあたり次の6つにまとめられるが、資料の保存と公開のため、**(5)**が最も重要で、**(6)**も喫緊の課題である。

#### (1) 総合調査の終了と調査目録の刊行

第1次調査報告書—18年度3冊（書画・典籍・工芸品・武器類、古文書（一）（二））既刊。第2次調査報告書—古文書編3冊、染織・写真資料編（中浜万次郎撮影を含む約1,700点）1冊。計7冊

#### (2) 調査カードのデータベース化

人間文化研究機構国文学研究資料館との連携を進める。

国文学研究資料館が公開する「伊豆葦山江川家文書データベース」に反映させて、古文書 20,425 点についての情報と古文書 1,800 点の画像を、インターネットを通じて本格的に公開している。第2次調査分についても、データベース化を図る。

#### (3) 江川文庫資料の公開⇒写真撮影の進行

#### (4) 研究成果の公開—講演会、展示会、江川文庫研究会の継続、シンポジウム、資料集・

論文集の刊行

### (5) 収蔵・閲覧・展示施設の建設

江川文庫総合調査終了を契機に、万全の保存・修理対策を講じて極めて重要な歴史遺産を守り伝えるとともに、伊豆に生きた人々の豊かな歴史の地層を調査・研究して、広く伊豆の国市民・静岡県民や国民に公開するための施設（博物館）が必要となる。この施設は伊豆の知的観光資源としてカルチャーツーリズムの拠点ともなり、加えて新しい伊豆の文化創造を目指す「伊豆学調査研究センター」「伊豆歴史文化館」の役割を果たすことが強く望まれる。

### (6) 韮山反射炉と江川文庫資料

実用化された現存唯一の韮山反射炉（大正 11 年<1922>国史跡指定）を単に近代化産業遺産としてとらえるにとどまることなく、外圧危機のなかで強い情熱と実行力をもって構築を推進した江川坦庵・英敏父子のリーダーシップとそれを支えた技術者集団の努力の結晶が豊富に残る江川文庫資料を一体として把握することにより、世界的にも極めて稀な軍事技術の近代化過程を理解することができる。



江川坦庵筆《自画像》



Shizuoka University



江川英龍 1801(享和1)-55(安政2)  
 勝海舟 1823(文政6)-99(明治32)  
 岩倉具視 1825(文政8)-83(明治16)  
 西郷隆盛 1827(文政10)-77(明治10)  
 大久保利通 1830(天保1)-78(明治11)  
 吉田松陰 1830(天保1)-59(安政6)  
 孝明天皇 1831(天保2)-66(慶応2)  
 木戸孝允 1833(天保4)-77(明治10)  
 福沢諭吉 1834(天保5)-1901(明治34)  
 坂本龍馬 1835(天保6)-67(慶応3)  
 徳川慶喜 1837(天保8)-1913(大正2)  
 三条実美 1837(天保8)-91(明治24)  
 高杉晋作 1839(天保10)-67(慶応3)  
 伊藤博文 1841(天保12)-1909(明治42)

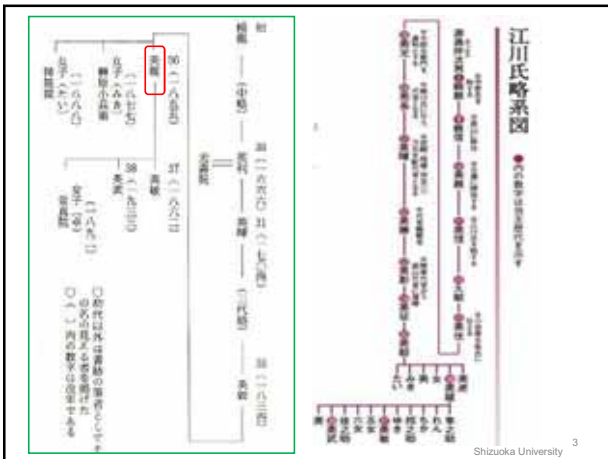
1830年代(天保)生まれの志士世代の「危機としての現代」認識

## 19世紀の意義

近世後期の日本は、国内秩序が動揺を見せ始め、世界全体を資本主義的世界システムに強制的に組み込もうとする欧米諸国の圧力をうけることになった。

日本の歴史上未曾有の体制的危機を打開し、新たな秩序を構築する模索が続けられ、社会全体が近代的国民国家へと編成替えされ、主権国家への道を歩んだ。

⇒外圧に対抗するため、海防強化、  
 欧米の軍事技術の導入・吸収、国産化



大国土豊筆《江川坦庵像》  
 天保9年(1838) 38歳 1両1分

江川英龍(坦庵)  
 1801.5.13-55.1.16  
 英毅次男。35年英毅没後、家督相続、代官就任。  
 41年高島秋帆に入門。  
 42年葦山塾開始。  
 43年鉄砲方(砲術や鉄砲の製作・修理担当)兼帯。  
 46年伊豆諸島巡見。  
 50年長子英敏ら種痘。  
 53年海防掛(外交問題対処)・反射炉築造を命じられる。中浜(ジョン)万次郎を手付とする。

木村芥舟「幕府名士小伝」『旧幕府』2、1877年  
 (1830~1901、軍艦奉行、勘定奉行、咸臨丸総督、生涯の知己は岩瀬忠震と福沢諭吉)  
 「江川英龍、太郎左衛門と称す、世々伊豆の葦山の県令たり、性沈毅精力人に過絶す、夙に海防の事を憂ひ火術を練究あし反射爐を築き自から鑄造の業を執る外国の事起りしより、旨を受けて海岸を巡視し、坊堵を籌り風雨寒暑を厭はずして、一日も安居することなし、平生又粗食粗衣し多く私費を抛ちて技芸の士を招き、以て国家不虞の用に供せんとす、其偉行縷挙すべからず、」

根本定助「私永之御暇奉願候二付、存寄之儀申上候書付」

根本定助:江戸役所詰、英毅書役⇒英龍手代  
 余り嚴重の御取計二迫り恐怖いたし、難有御趣意忘却仕……夜分は困炉裏之焚火而已(のみ)二而燈も無之、余り甚敷(はなはだしき)御齋齋(りんしょく)二当り、…



# 江川坦庵と近代兵学

軍事史学会理事  
日本大学准教授  
浅川 道夫  
(2013.2.23)

## 〈概要〉

江川坦庵が近代兵学との接点をもったのは、代官に就任して幕末の海防政策とかかわるようになった天保年間のことである。坦庵は幡崎鼎、渡辺崋山といった蘭学者に師事して海防策の建議をおこなう一方、高島秋帆の門人となって西洋流砲術を習得し、開国期に至るまでの海防政策をリードした。今回の報告では、江川文庫総合調査を経て確認された軍事関係の諸資料を通じ、坦庵の導入した近代兵学の具体的内容について概観したい。

## 1.近代兵学導入

### (1)高島流砲術の習得

- ・江川家家臣の長崎派遣(天保8年)
- ・坦庵自身の入門、皆伝(天保12年)
- ・葦山塾における伝習(天保13～安政2年)

### (2)高島流砲術の構成

- ・萩野流、萩野新流、高島流、西洋流銃陣
- ・高島流……西洋式の火砲運用術
- ・西洋銃陣……近代的な歩兵の練成

### (3)西洋銃陣

- ・前装滑腔銃段階のオランダ歩兵教練書に準拠…オーダーミックス戦法
- ・ゲベール(*Infanterie Geweer*)……戦列歩兵用の前装滑腔銃
- ・ヤーゲル銃(*Jacht Geweer*)……散兵用の前装施条銃
- ・燧石式から雷管式へ……点火機構の進歩

### (4)西洋砲術

- ・前装滑腔砲段階の火力運用
- ・臼砲(*Mortier*)……曲射砲、大口徑で大型の榴弾を使用
- ・榴弾砲(*Houwitser*)……擲射砲、中射程の榴弾砲
- ・カノン砲(*Kanon*)……平射砲、長射程で大きな侵徹力をもつ
- ・各種の砲弾(中実弾、榴弾、散弾、焼夷弾等)を複合的に使用

## 2.築城と造兵

### (1)品川台場の建設

- ・オランダ築城書にもとづいて設計された西洋式の海堡
- ・閉合堡(Redouten)を配列した間隔連堡(De linien met tussenruimte)
- ・火力構成……迎打、横打、追打、水路に対する十字砲火

### (2)湯島馬場鑄砲場

- ・青銅製の洋式砲鑄造
- ・在来の鑄造技術(核鑄砲)
- ・品川台場への備砲供給

### (3)葦山反射炉

- ・銑鉄製の洋式砲鑄造が目的(一部青銅砲も鑄造)
- ・オランダの銑鉄砲製作の技術書にもとづく

U.Huguenin, Het Gietwezen in's Rijks Ijzer-Geschutgiererij, te Luik (1826).

## 3.軍事技術の研究

### (1)雷管の国産化

- ・雷汞(Donder vuur)の製造(天保 13 年)
- ・オランダ軍……雷管式小銃の制式化は 1842 年

### (2)着発弾の開発

- ・オランダ軍艦スムービング艦長に質問……情報提供拒否
- ・独自開発、安政 2 年に試射
- ・江川邸に弾殻が現存

### (3)日本語の号令

- ・高島秋帆……オランダ語の片仮名号令を使用
- ・号令詞の日本語化を実施(付表参照)

### (4)兵糧パンの製造

- ・野戦糧食としてのカンパン
- ・鉄鍋を用いた製法

### (5)葦山笠

- ・高島流陣笠(ペロトン笠)……異様の冠物として批難される
- ・紙撚製編笠、表裏とも漆懸け……軽量、耐水性と耐火性

#### 4. ポスト坦庵期の近代兵学

##### (1) 軍事技術の進歩

- ・ 前装施条式の小銃・火砲  
ミニヘール(Minie Geweer)……明治3年に兵部省へ引渡し  
施条ホウイツツル(Rifled Howitzer)
- ・ 後装式小銃  
シャープス(Sharps Rifle)……後装単発銃  
スペンサー(Spencer Rifle)……後装連発銃

##### (2) 葦山役所常備農兵

- ・ 金谷村膝元農兵 100 人、三島農兵 60 人
- ・ 明治維新後……葦山県兵(慶応4~明治5年)

#### 付表 号令詞の日本語化

〈オランダ原語〉	〈片仮名号令詞〉	〈日本語号令詞〉
Geef acht	ケーフト アクト(意ヲ注ケヨ)	気ヲ着ケ
Hoofd= REGTS	ホーフト=レクツ(頭ヲ右ニ)	頭=右
Regts = OM	レクツ=ヲム(右向キ)	右=向ケ
Regts = OM =KEERT	レクツ=ヲム=ケールト(右向ニ回転セヨ)	右向=廻レ
Voorwaars = MARSCH	ホウルワアルツ=マルス(前ノ方へ進メヨ)	前へ=進メ
Halt	ハルト(止レ)	止レ
Op schouder = T'GEWEER	ヲップスコウドル=ヘットケウエール (手銃ヲ肩ニ沿ヘテ持テ)	筒=肩(肩へ=筒)
Over = T'GEWEER	オーフル=ヘットケウエール(担へ銃)	筒=担へ(担へ=筒)

## 代官江川坦庵の行政手腕

NPO 法人伊豆学研究会、日本大学国際関係学部  
橋本 敬之

### 江川坦庵の基本情報

- 享和元年(1801)5月13日、江川英毅の次男として生まれる
- 幼名邦次郎、芳次郎、文化8年(1811)から英龍、通称太郎左衛門、字を九淵、号を坦庵、篁齋。
- 長兄英虎の死により36世嫡子となり、天保5年(1834)35歳で代官に就任
- 安政2年(1855)1月16日死去、数え年55歳、満53歳

天保10年(1839) 焼火之間

天保14年(1843) 躑躅之間 法衣

嘉永元年(1848) 躑躅之間 郡代次席 500石高

嘉永4年(1851) 郡代次席 500石高 500俵

嘉永7年(1856) 老中支配 郡代次席 500石高 500俵 役料300俵

- 支配地 坦庵の父、英毅の時代に伊豆・駿河・相模・武蔵の4国支配が固定化  
坦庵在職中の天保9年郡内騒動後の甲斐国都留郡支配(預かり)

### ① 代官としての仕事 — 支配地の管理 —

○家政の安定 … 質素儉約

○支配地の安定 — 甲州郡内騒動の対応 —

### ② 幕府吏僚としての仕事

○海防の建議 … 台場の建設  
反射炉の建設

○外国船への対応 … マリナー号事件

ロシア軍艦ディアナ号沈没 … ヘダ号の建造

○農兵の組織





# 近代を開いた男 江川坦庵 リレー講話

平成25年

2月23日(土)

13:30~15:30(開場13:00)

参加費無料

定員

400名 事前申込不要。  
直接会場へお越しください。

会場

日本大学国際関係学部  
三島駅北口校舎 山田顕義ホール  
三島市文教町 1-9-18 (三島駅より徒歩1分)

幕末の日本は、一揆や打ち毀しが多発し、対外的には欧米列強のアジア進出といった内憂外患の時期でした。こんな中、欧米に立ち向かうため、幕府内で海防を建議し、日本を守ろうとしたのが江川坦庵でした。坦庵は幕府代官として民政の安定を図るなど行政手腕を



富士山反射炉 (伊豆の国市富士山)

發揮するとともに、近代的な理論に基づいて、防衛政策や農兵の組織を行って近代軍事の基礎を作りました。また、近代日本の礎を築いた多くの門人を育てあげました。坦庵の業績は現代の混沌とした時代に多くの示唆を与えてくれるものと思います。

主催/静岡県、大学ネットワーク静岡 共催/日本大学国際関係学部 後援/静岡県教育委員会、三島市、三島市教育委員会、伊豆の国市、伊豆の国市教育委員会 協力/公益財団法人江川文庫、NPO 法人伊豆学研究会

## 内容

- ごあいさつ 〈敬称略〉  
佐藤 三武朗 日本大学理事・国際関係学部長
- 「激動の幕末と坦庵—江川文庫総合調査を終えて」  
湯之上 隆 静岡大学人文社会学部教授
- 「江川坦庵と近代兵学」  
浅川 道夫 日本大学国際関係学部准教授
- 「代官江川坦庵の行政手腕」  
橋本 敬之 日本大学国際関係学部 非常勤講師  
NPO 法人伊豆学研究会理事長
- 意見交換・質疑応答

伝坦庵自画像 (公益財団法人江川文庫所蔵)

お問合せ

大学ネットワーク静岡  
静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2階

TEL:054-249-1818  
E-mail:dns@daigakunet-shizuoka.jp



親子で学ぶ「富士山の不思議と魅力」  
～富士山の噴火からヒメボタルまで～

## 実 施 事 業 の 概 要

- 1 共同公開講座の名称：  
大学ネットワーク静岡共同公開講座「親子で学ぶ「富士山の不思議と魅力」」  
～富士山の噴火からヒメボタルまで～
- 2 開催日時：平成 25 年 2 月 24 日（日）14:00～15:30
- 3 開催場所：静岡県地震防災センター 3 階会議室  
（静岡市葵区駒形通 5 丁目 9 番 1 号）
- 4 事業の概要と成果：
  - （1）概要  
富士山の自然の豊さを楽しい実験を通して親子で一緒に再発見する
  - （2）参加者  
小学生（3年生以上）・中学生と保護者など計 56 名
  - （3）プログラム
    - ・講演「富士山の噴火からヒメボタルまで」  
山田 辰美（富士常葉大学教授）
    - ・富士山噴火実験  
富士常葉大学自然体験活動研究会学生 7 人



## 親子で学ぶ「富士山の不思議と魅力」

### 富士山噴火実験報告書

1. 所 属 富士常葉大学 自然体験活動研究会
2. 日 時 2013年2月24日 14:00~15:30
3. 実験内容

#### 目的

富士山の模型で噴火の実験を行い、富士山の成り立ちについて学習してもらうことを目的とする。



#### 実験手順

- ① 色水を入れた計量カップの中を筆でかき回して、底にたまった絵の具の色素を拡散させる。
- ② 袋詰めにしたアルギン酸塩に①の色水を入れ、良く揉んで混ぜる。
- ③ 噴火口に②で混ぜた袋をセット。
- ④ ③を押し出しながら土台を傾けて富士山の模型を覆うようにする。



- ⑤ 色水と混ぜたアルギン酸塩（溶岩）が固まるまで約3分待つ。
- ⑥ 色水と混ぜたアルギン酸塩がある程度固まったら、パイプを取り換える。
- ⑦ ポンプにバーミキュライト（スコリア）を詰める。
- ⑧ ⑦をパイプ下に取り付け、外れないように固定し、ポンプを動かして噴火させる。
- ⑨ ①から⑧までの作業を3回繰り返す。3回目は⑥の工程まで。
- ⑩ カッターで富士山の一部を切り取り、断層を見て、触ってもらう。

#### 4. 参加者の反応

参加した子どもたちの反応はよく、アルギン酸塩が噴火した様子を見て「おお！」と歓声をあげたり、⑧の工程でバーミキュライトが噴火する迫力に夢中になったりと、とても楽しんでもらえた様子だった。このことから実験を通して、富士山の成り立ちについて学習してもらえたと思われる。

#### 5. 備考

- ・アルギン酸塩は歯科において歯形をとる場合に用いられるピンクの粉。水を加えると短時間で固まる性質(製品によって、固まる時間が1分程度から3分程度)がある。口に入れる物なので教材として安全。
- ・富士山の成り立ちとは土台となる古富士などの高い山があり、盛り上がった山頂から粘り気のないサラサラとした溶岩（玄武岩質溶岩）が、何度も流れ出した結果、日本一の高さとなだらかな形を作った。

講座写真「富士山の不思議と魅力」





大学ネットワーク静岡  
富士山の不思議と魅力  
一富士山の噴火からヒメボタルまで  
富士常葉大学 社会環境学部  
山田 辰美

富士山は雄大で美しい!  
富士川  
駿河湾  
富士山  
富士山は海から始まる

おむすび

赤富士 ⇨ 夏の早朝

紅富士 ⇨ 春の朝・夕

雪が多いのは早春

富士山の魅力 ⇨ 火山であること!

①雄大 ・標高 3776m 2位 北岳1933m 3位 奥穂高3190m  
・面積・堆積  
⇨ 問: どうしてこんなに大きいの?

②美・秀麗 均整のとれた形、末広がりの火山側線  
⇨ 問: A. 噴火は爆発的? B. 緩やか?  
⇨ 問: A. 溶岩はねばねばどろどろ? B. ささらさらどろどろ?

富士山は上げ底!?

南 北

富士山の溶岩噴出

新状溶岩

スコリア

富士山の笠雲

「笠雲の出ると雨になる」  
⇨ 観天望気

安定層

富士五湖に棲むきれいな魚

ヒント: 魚君が発見

クニマスの再発見

- ・ 発電の目的で毒水導入する70年前(1940年代)の秋田県田沢湖にはクニマス、ヒメマス、アママス、コアユ、ウグイ、イワナ、クナギ、コイなど20数種の魚が生息。今いるのは酸性に強いウグイだけ
- ・ 1935年に秋田県田沢湖から10万粒の発眼卵を山梨県西湖に移植
- ・ 2010年、絶滅したクニマスが西湖で再発見

西湖

1954年  
山中湖で発見  
(杉浦忠雄氏)

1958年  
山梨県の天然記念物指定

フジマリモ

*Cladophora sanneii* (Nees) Kützinger, form. *kariiensis* (Nagai) Sawai

白糸の滝 (富士宮市)



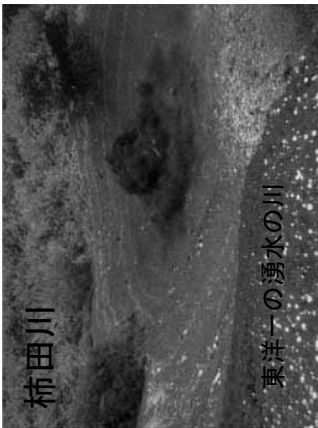
根上がり状態の木



樹海 浮岩の上に蛇のように伸びた根

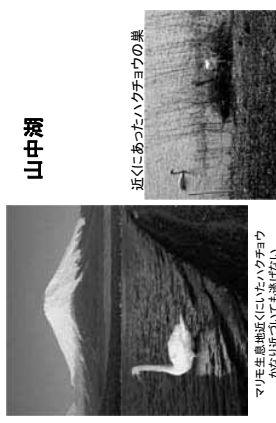


雲海に浮かぶ富士



柿田川

東洋一の湧水の川



山中湖

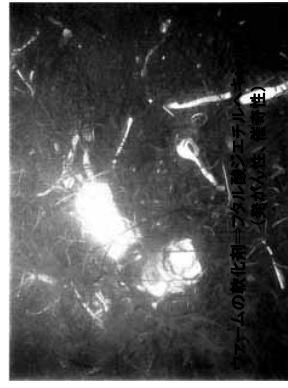


近くにあってはくちヨウの巢

マリモト島地近くにはくちヨウの巣  
かなり近づいても逃げない



倒木更新



ウツムシの孵化期→フタリシジミエテル  
(ウツムシが産み、産卵性)

河口湖の湖底状況



地引網漁で採集された魚(河口湖)



樹海 登山客が木漏れ日の善す空間



ブラックバス

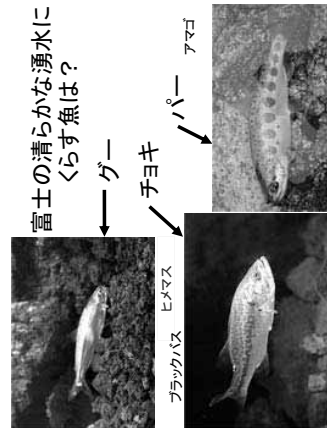


大型哺乳類



根上がり状態の木

18年 坂田町の樹海



富士の清らかな湧水に  
くらす魚は？

グー

ブラックバス

アマス

チョキ

パパー



小型哺乳類

### Q4 富士山に暮らすクマの好物は何？

人間

植物の若芽や木の实

タヌキなどの獣



### 正解は

植物の若芽や木の实







クイズ

静岡県面積は約78万ha(7,800km<sup>2</sup>)ですが、そのうち森林の面積はどれぐらい？

- ← 約1/3 (約25万ha)
- ちよき 約1/2 (約40万ha)
- ばー 約2/3 (約50万ha)

正解は… **ばー!**



写真: 橋田善幸

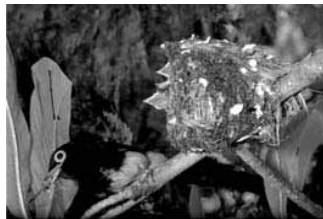
国を挙げて拡大造林に取り組み



静岡県の鳥  
サンコウチョウ

美しい鳴き声  
「っき、ひ、ほし  
ほいほいほい」

【鳥類の図鑑(小学館)より】



1996年(平成8年)9月

富士山南麓に龍が出現

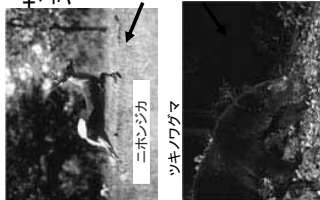


富士地域のツキノワグマは  
絶滅の恐れのある個体群



- ①南アルプス個体群 & 富士山個体群
- ②他県にわたる広域的な個体群
- ③富士山個体群の情報が少ない
- ④富士山個体群の分断・孤立化

サンコウチョウの繁殖を  
支えている動物は何？

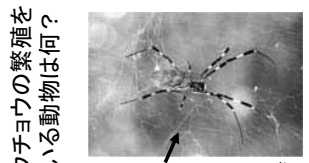


グー  
チヨキ  
パー

クモ

ツキノワグマ

ニホンジカ

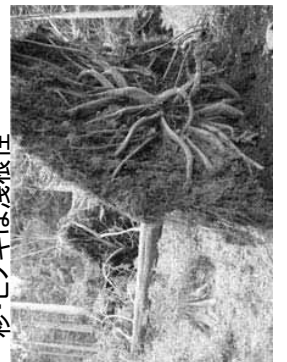


クモ

台風による被害



杉・ヒノキは浅根性

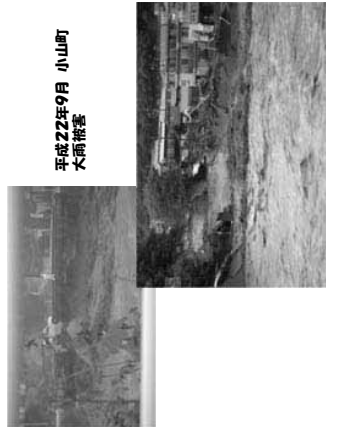


昭和30年代初期の植林風景



戦後の拡大造林

平成22年9月 小山町  
大筒橋臺



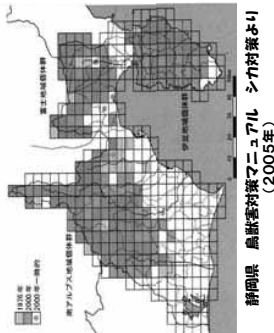




富士山3776自然林復元大作戦

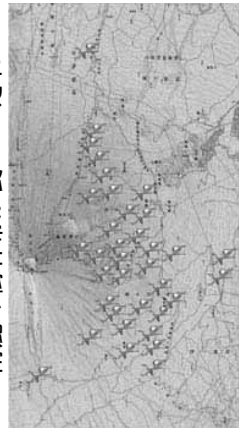


### 静岡県のシカ分布図



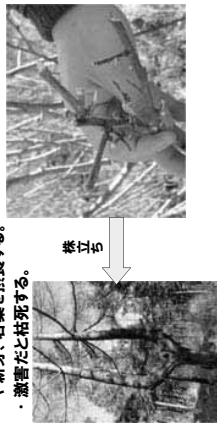
静岡県 鳥獣害対策マニュアル シカ対策より (2005年)

### 南麓の樹林帯が食べつくされ



### 枝葉摂食害

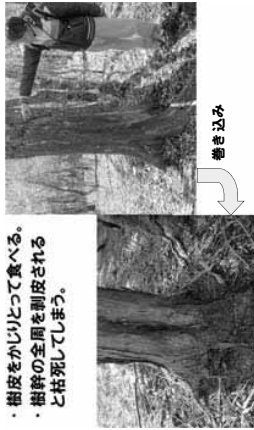
・枝葉摂食害は、樹木の枝葉や新芽、若葉を摂食する。  
・激害だと枯死する。



枯死する

### 樹皮食害

・樹皮をかきとって食べる。  
・樹幹の全周を剥皮されると枯死してしまう。

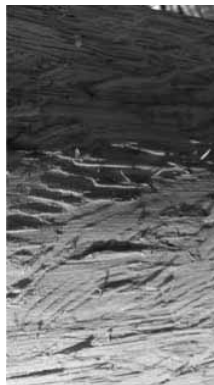


巻き込み

### 樹皮食害を受けたカラマツ



### 樹皮食害を受けたキハダ



2011年1月食害を受けたキハダ

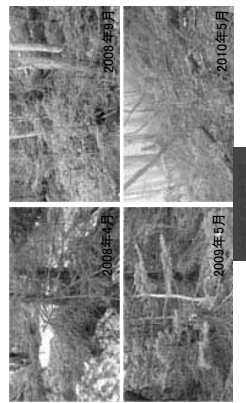
### 南麓 春の訪れ

・2007年4月下旬 西日塚周辺  
ウバコリ、セントウソウ、フタリスズカ、ヤマジャクヤク、  
ハイケイソウ、マルバタケブキ、ニリンソウ、トリカブトなど



ニホンジカの不善好植物

### 針葉樹林



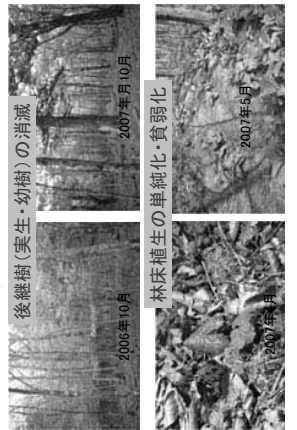
2005年4月

2006年5月

2008年10月

2010年5月

### 南麓の樹林帯の自然 衰退



後継樹(実生・幼樹)の消滅

2006年10月

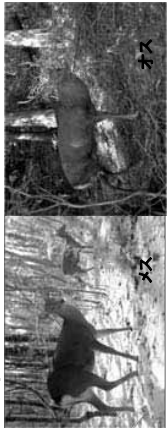
2007年10月

林床植生の単純化・貧弱化

2007年5月

2007年5月

### ニホンジカ



・北海道～九州(島)に広く分布  
ベトナム、中国東部、台湾、朝鮮半島等にも分布(希少種)  
・メス25～80kg オス50～130kg  
静岡県(伊豆地域) メス60kg オス80kg

54

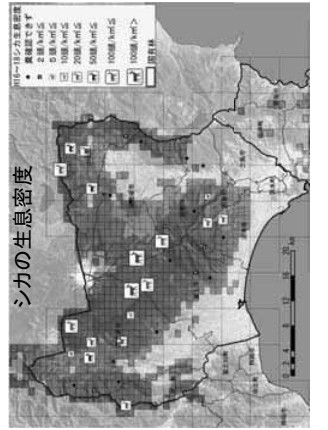
### ニホンジカの捕獲頭数の推移(静岡県)



狩猟者が減少しても、捕獲数は増加

60

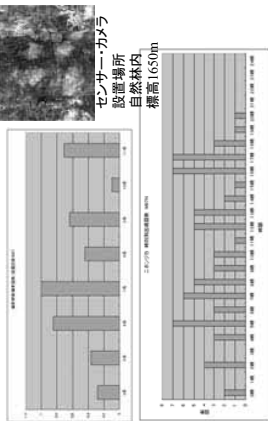
### シカの生息密度



定点観測センサーカメラで観察



どの程度生息しているのだろうか？

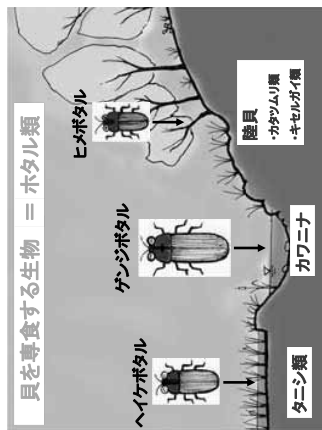
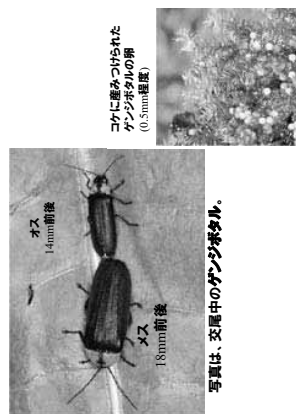


ニホンジカが増えた原因？

- ④ニホンジカに対する保護施策の効果  
子供を産むメスジカは狩猟対象外(1947年～2011年)
- ⑤捕食者の不在ニオオカミの絶滅  
捕食者(捕食者)のいない草食獣は増加
- ⑥群れをなす草食獣は高密度化する法則？  
資源を共有し合う、競争による密度抑制が働きにくい  
自らが招いた食物資源の減少や変質に対応する  
(嗜好性の高い植物→嗜好性の低い植物)

0.3 富士山の森に光り輝く  
生き物は何か？

- キノコ
- カタツムリ
- ホタル

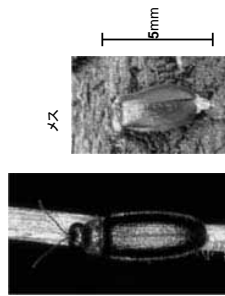


富士山南麓のニホンジカの記録

- 1194年 富士の巻狩り 大鹿の存在
- 1928年 「富士の研究 動物と植物」 影を見せぬほど減少
- 1932年 室戸台風
- 1972年 「富士山」 人目にふれることは少ない 保存増殖には施策が必要
- 1994年 「富士山自然大図鑑」 近年増え始めている
- 1996年 17号台風で風倒木
- 2004年 「富士山の自然と社会」1995年から数が増加 2000年ごろには双子山でも見られた
- 2011年 「11次鳥獣計画」富士山南麓で16000頭の生息



森のほたる ヒメボタル



ニホンジカが増えた原因？

- ①餌増加？
- ②暖冬による積雪の減少？ (死亡率の低下)
- ③狩猟圧の減少？



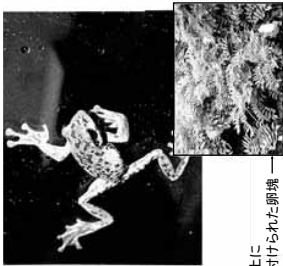
おおかみという言葉  
漢字で書くと 獣 篇 に 良 い  
**狼**  
大いなる神







アスマヒキガエル



木の上に  
産み付けられた卵塊

モリアオガエル



山岳信仰



禊(みそぎ)



自然大好き



不思議大好き



ふるさと大好き

山岳信仰のおまじないー六根清浄

**六根清浄**

「とっぴりしょ」

一の根…視覚  
 二の根…聴覚  
 三の根…臭覚  
 四の根…味覚  
 五の根…触覚  
 六の根…意識

富士の子天狗

富士山をわいわい〜  
不思議がいっぱいだ！  
楽しい実験を通して、  
親子で一緒に再発見しよう。

# 親子で学ぶ

## 「富士山」の

# 不思議と魅力

大学ネットワーク静岡共同公開講座

## 親子で学ぶ「富士山のご不思議と魅力」

～富士山の噴火からヒメボタルまで～ 企画・講師 山田辰美先生(富士常葉大学教授)

**参加  
無料**  
(要申込み)

**会場** 静岡県地震防災センター(静岡市葵区駒形通5丁目9番1号)

**日時** 平成25年2月24日(日) 午後2:00~3:30(受付1:30~)

**対象** 小学生(3年生以上)・中学生と保護者 計60人

主催/静岡県、大学ネットワーク静岡 後援/静岡県教育委員会、静岡市教育委員会

★詳しくは裏面をご覧ください→



# 親子で学ぶ 「富士山の不思議と魅力」

～富士山の噴火からヒメボタルまで～

会場：静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通5丁目9番1号）

日時：平成25年2月24日（日）午後2:00～3:30（受付1:30～）

対象：小学生（3年生以上）・中学生と保護者 計60人

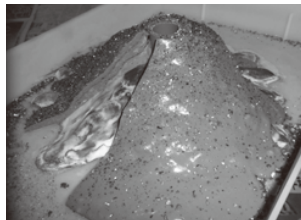
**参加無料**  
（要申込み）

企画・講師 **山田 辰美 先生**（富士常葉大学教授）

講師紹介／藤枝市生まれ。富士学会監事、富士山ネットワーク副会長、静岡県環境審議会委員、静岡淡水魚研究会理事長、カワバタモロコを守る会会長など、国・県の環境に関わる委員会や環境関連団体の要職にありながら里山などのフィールドワークや環境教育の最前線に立ち、指導を続けている。SBSラジオ「山田辰美の土曜はごきげん」パーソナリティーとしても活躍中。



実験風景



富士山噴火実験



会場の駐車場には限りがございますので、公共交通機関等をご利用ください。

※バスでお越しの方：西部循環駒形回り線「JR静岡駅前（11番）」→「駒形5丁目」バス下車徒歩2分

## お申込み方法

電話・ファックス・メールによりお申込みを受け付けます。（先着順）

フリガナ		複数でのお申込み氏名	学年	年	
こども氏名	学年		年	学年	年
保護者氏名			学年	年	
			学年	年	
住所	（〒 - ）				
	電話番号（ ） -				

お申込み・お問い合わせ **大学ネットワーク静岡** 公開講座係 〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠3-6-1

**電話** 054-249-1818 **ファックス** 054-249-1820

**メール** dns@daigakunet-shizuoka.jp **ホームページ** www.daigakunet-shizuoka.jp

大学ネットワーク静岡

420-0839

静岡市葵区鷹匠 3-6-1 もくせい会館 2階

電話 054-249-1818

ホームページ <http://www.daigakunet-shizuoka.jp>